TOSHIBA

gigashot

東芝ハードディスクカメラ取扱説明書

形名　MEHV10

東芝ハードディスクカメラ gigashot MEHV10 を安全に、正しく使っていただくために、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。

Li-ion

リチウムイオンバッテリーのリサイクルにご協力ください。

本製品は Exif Print に対応しています。Exif Print

本製品は PRINT Image Matching Ⅲに対応しています。PRINT Image Matching 対応プリンタでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching Ⅲより前の対応プリンタでは、一部機能が反映できません。

はじめに

ご使用の前に

このたびは東芝ハードディスクカメラをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。
本機は、0.85型4GBハードディスクと光学5倍ズームレンズを搭載し、MPEG2形式の動画と500万画素の静止画を撮影できるカメラです。
お求めのハードディスクカメラを正しく使っていただくために、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。
意匠、仕様、ソフトウェアおよび取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
本取扱説明書に描かれているイラスト、画面表示などは、見やすくするために誇張、省略があり、実際とは多少異なる場合があります。

商標について

- gigashotは、株式会社東芝の登録商標です。
- Microsoft 、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
- Pentiumは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の登録商標です。
- ACDSeeは、ACD Systems 社の商標です。
- PowerProducerは、サイバーリンク株式会社の商標です。
- SDロゴは商標です。
- ドルビーからの実施権に基づき製造されています。
  Dolby、ドルビー、およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

ラジオ・テレビなどへの電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB 情報処理装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取扱いをしてください。

著作権・肖像権についてのご注意

あなたがハードディスクカメラで記録した画像を権利者に無断で使用、開示、頒布または展示等すると、著作権・肖像権等の侵害となる場合がありますので、ご注意ください。
なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像やファイルなどの転送は、著作権法で許容された範囲内での使用に限られますので、ご注意ください。

ファームウェアのバージョンアップについて

出荷以降、より良くお使いいただくために、ファームウェア（カメラ本体の制御用プログラム）のバージョンアップをする場合があります。バージョンアップの方法などはホームページに掲載いたします。
東芝 gigashot ホームページ　http://www.gigashot.net/

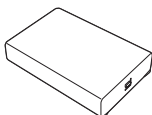
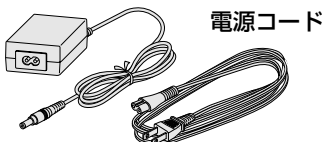
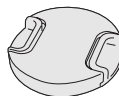
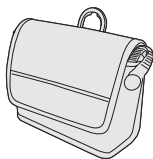
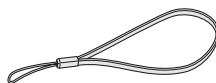
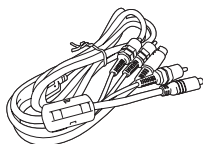
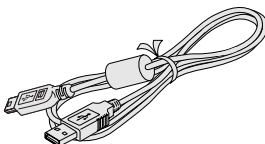
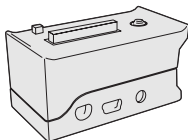
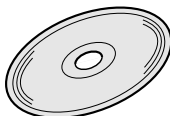
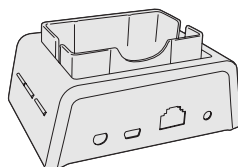
ソフトウェアおよび取扱説明書について

- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を、許可なく転載したり複製したりすることはできません。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書は、1 台の機器について使用できます。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書によって機器を使用して、お客様または第三者に損害が発生した場合、当社はその責任を負いかねますのでご了承ください。
- 取扱説明書で記載しているパソコンの画面は一例です。実際の画面と異なる場合があります。また、記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 本書中では、動画撮影に有効な機能や設定には [動画] マーク、静止画撮影に有効な機能や設定には [静止画] マークをつけています。また、動画と静止画を合わせて「画像」と呼んでいます。

カメラの廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

このカメラやパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、内蔵ハードディスクドライブおよびSD メモリーカード内のデータは完全には消去されません。市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せる場合があります。そのため、カメラ本体またはSD メモリーカードを譲渡／廃棄したあとで重要なデータが流出して、トラブルになる可能性があります。
これを回避するために、内蔵ハードディスクドライブまたはSD メモリーカードを物理的に破壊するか、市販のデータ消去ソフトなどを使って内蔵ハードディスクドライブまたはSD メモリーカード内のデータを完全に消去してから、譲渡／廃棄することをおすすめします。
内蔵ハードディスクドライブおよびSDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

付属品

次の付属品がはいっていることをご確認ください。不足や品違い、破損などがあった場合は、モバイル AV サポートセンター（裏表紙参照）にご連絡ください。

- 取扱説明書（本書）
- クイックガイド
- お客様登録のお願い

安全上のご注意

● ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
● ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
● 表示と意味は次のようになっています。

■ 表示の説明

表　示	表　示　の　意　味
⚠危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の説明

図　記　号	図　記　号　の　意　味
禁　止	“⃠”は、**禁止**（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
指　示	“●”は、**指示**する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失・事業の中断・記録内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアなどとの組合せによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

⚠警告

異臭・発煙・過熱などの異常が発生したときは、バッテリーや AC アダプターを取りはずすこと

電源プラグをコンセントから抜け

そのまま使用すると火災・感電・やけどの原因となります。
バッテリーも高温になっていることがありますので、やけどにご注意ください。
修理はモバイル AV サポートセンターにご依頼ください。

異物や水などが、機器の内部にはいったときは電源を切り、バッテリーや AC アダプターを取りはずすこと

電源プラグをコンセントから抜け

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。モバイルAVサポートセンターにご連絡ください。

機器を落としたり、ケースを破損したりしたときは電源を切り、バッテリーや AC アダプターを取りはずすこと

電源プラグをコンセントから抜け

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。ケースを破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。モバイル AV サポートセンターにご連絡ください。

金属類や燃えやすいものなど異物を内部に入れないこと

禁　止

火災・感電の原因となります。
バッテリーカバーや SD カードカバー、端子、その他の穴や隙間に、異物を入れたり落とし込んだりしないでください。

水がかかる場所で使用しないこと

水ぬれ禁止

火災・感電の原因となります。雨天・降雪・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。

風呂場・シャワー室で使用しないこと

風呂、シャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

分解・改造・修理しないこと

分解禁止

火災・感電の原因となります。修理、内部の点検はモバイル AV サポートセンターにご依頼ください。

雷が鳴りだしたら電源配線・テレビ配線・LAN ／ USB 配線に触れないこと

接触禁止

感電の原因となります。

歩行中、自動車・オートバイなどを運転中に使用しないこと

禁　止

転倒・交通事故の原因となります。

⚠注意

航空機内や病院内など、使用を禁止された場所では、電源を切り、使用しないこと

禁 止

使用すると運行装置や医療機器などに影響を与え、事故の原因となることがあります。
航空機の離着陸時に本機を使用することは航空法で禁止されています。
その他病院等では係員等の指示に従って使用してください。

湿気・湯気・油煙・ほこりの多い場所で使用しないこと

禁 止

火災・感電の原因となることがあります。

車の中など温度が高くなる場所に放置しないこと

禁 止

ケースや内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

付属の CD-ROM を音楽用 CD プレーヤーなどで再生しないこと

禁 止

プログラムなどの音楽以外のデータがはいっているため、ヘッドホンやスピーカーを破損したり、耳をいためたりするおそれがあります。

落としたり、強い衝撃を与えないこと

禁 止

火災・感電・故障の原因となることがあります。

移動させるときはコードやケーブルをはずすこと

指 示

コードやケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぐらついた台の上、かたむいたところなど不安定な場所に置かないこと

禁 止

落ちたり、倒れたりしてけがや故障の原因となります。

布や布団の上に置いたり、覆ったりしないこと

禁 止

熱がこもってケースが変形し、火災の原因となることがあります。
風通しのよい状態で使用してください。

持ち運ぶときに振り回さないこと

禁 止

ストラップを持ってカメラをぶらぶらさせると、人やものにぶつけたりしてけが・故障の原因となることがあります。

手入れをするときは、バッテリーや AC アダプターをはずすこと

指 示

取り付けたまま行うと、感電の原因となることがあります。

目の近くでフラッシュを発光させないこと

禁 止

一時的な視力障害の原因となることがあります。

液晶モニターに衝撃を与えないこと

禁 止

破損したり、ガラスが割れたり内部の液がでてくることがあります。内部の液が目にはいったり、体や衣服についたときはきれいな水で洗い流してください。目にはいった場合は、その後眼科医の治療を受けてください。

ACアダプターについて

警告

電源プラグは家庭用交流100Vのコンセントに接続すること

交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。

指　示

ACアダプターを分解・改造・修理しないこと

火災・感電の原因となります。

分解禁止

時々電源プラグを抜き、刃や刃の取り付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除すること

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

指　示

電源プラグをコンセントに差し込んだままの状態で、ACアダプターの各接点部に、金属を触れさせないこと

火災・感電の原因となります。

禁　止

通電中のACアダプターにふとんをかけたり、暖房器具の近くやホットカーペットの上に置いたりしないこと

火災・故障の原因となることがあります。

禁　止

ＡＣアダプターのコードを取り扱うときは､以下の点を守ること

- **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりしない**
- **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
- **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

指　示

注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っ張って抜かないこと

コードを引っ張って抜くと、コードやプラグが傷つき、火災・感電の原因となります。プラグを持って抜いてください。

引っ張り禁止

指定のACアダプター（ADP 15-HH A）を使用すること

指定以外のACアダプターを使用すると、火災・故障の原因となります。

指　示

旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜くこと

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

ACアダプターを本機以外の他の用途に使用しないこと

他の用途に使用すると、火災・故障の原因となります。

禁　止

電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込むこと

確実に差し込んでいないと、火災・感電の原因となります。

指　示

バッテリーについて

⚠危険

バッテリーを取り扱うときは以下の点を守ること
- **分解・改造しない**
- **加熱しない**
- **火や水の中に入れない**
- **ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたり、強い衝撃を与えたりしない**
- **指定された用途以外には使用しない**
- **指定された充電方法以外で充電しない**
- **電極（＋端子と－端子）を針金などの金属でショートさせない**
- **金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに携帯・保管しない**

破裂・発火・発熱によって、火災・大けがの原因となります。

⚠警告

指示

指定されたバッテリー（MEHBT4）を使用すること

指定以外のバッテリーを使用すると、火災・故障・誤動作の原因となります。

バッテリーの液がもれて目にはいったときは、すぐにきれいな水で目を洗い、眼科医の治療を受けること

そのままにしておくと、目に障害が起きる原因となります。

禁止

バッテリーは幼児の手の届く場所に置かないこと

バッテリーやリモコンのコイン形リチウム電池をお子さまが飲み込んだりすると、中毒の原因となります。もし、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。医師の対応がとれない場合には、下記にご連絡ください。

■大阪中毒 110 番：
0990-50-2499
（365 日 24 時間対応）

■つくば中毒 110 番：
0990-52-9899
（365 日 9 時～ 21 時対応）

※どちらもダイヤル Q2：通話料と情報料（1 件 315 円）がかかります。

⚠注意

長時間カメラを使用した直後にバッテリーを取り出さないこと

バッテリーが熱くなっているため、やけどの原因となるおそれがあります。

使えないまたは放電したバッテリーをカメラの中に入れっぱなしにしないこと

バッテリーの破裂・発火・温度上昇などが発生し、火災・やけど・けがの原因となるおそれがあります。

バッテリーを保管するときは、電極をテープなどで保護すること

そのまま保管すると金属類でのショートによって、液もれ・発熱・破裂し、やけど・けがの原因となることがあります。

バッテリーの極性表示（＋と－の向き）に注意し、正しく入れること

入れ方を間違えると、破裂・火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

もくじ

はじめに

準備する

とにかく撮って見る

撮影の応用

再生の応用

消去の応用

カメラの基本設定

他の機器と接続する

パソコンで画像を活用する

HDD&DVD レコーダーに動画を転送する

付録

カメラ・クレードルの取扱いについて

ご使用の際は、「安全上のご注意」（➪ 7ページ）および次の内容をよくお読みになり、記載事項をお守りください。

次のような場所での使用や保管は避けてください

- 湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 高温または低温のところ
- ガソリン、ベンジン、シンナーなどの近く
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ
- 直射日光のあたるところ
- 引火性の高いガスが充満しているところ
- 振動の激しいところ

振動を与えないようにしてください

強い振動を与えると故障の原因になるだけでなく、ハードディスクに保存したデータが消失することがあります。

砂がかからないようにしてください

砂がかかると故障の原因になるだけではなく、修理できなくなることもあります。
海辺や砂地、砂ぼこりがたつ場所などでは、特にご注意ください。

結露にご注意ください

カメラ・クレードルを寒いところから急に暖かいところに持ちこんだときなど、内部やレンズなどに水滴がつく（結露する）ことがあります。
その場合は電源を切り、１時間ほどたってからお使いください。また、ＳＤメモリーカードに水滴がついたときは、カメラから取り出し、水滴をふき取ったあとしばらくたってからお使いください。

お手入れするときは

- レンズ、液晶モニターの表面などは、傷を防ぐためにブロアーブラシなどでほこりをはらい、かわいた柔らかい布などで軽くふいてください。
- 本体は、かわいた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形、塗料がはげるなどの原因となります。

磁気にご注意ください

- カメラのスピーカーのそばにクレジットカードやキャッシュカード、磁気定期券、フロッピーディスクなど、磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが破壊されて、使用できなくなる場合があります。
- 磁石やスピーカーなど、磁気を発するものにカメラを近づけないでください。故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となります。

電磁波にご注意ください

電波塔や高圧線の近くでは使用しないでください。動画の画質や音質が悪くなる場合があります。

AC アダプターについて

必ず指定の AC アダプター（ADP15-HH A）をご使用ください。それ以外の AC アダプターを使用すると、故障の原因となることがあります。
ご使用の際は、「安全上のご注意」（7 ページ）および次の内容をよくお読みになり、記載事項をお守りください。

- AC アダプターの接点部に、他の金属が触れないようにしてください。ショートする危険があります。
- 接続するときは、ACアダプター本体のDCプラグを、クレードルまたはカメラに取り付けた接続アダプターの DC IN 5V 端子にしっかり差し込んでください。
- ACアダプターの電源プラグやDCプラグを抜くときは、カメラの電源を切り、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張らないでください。
- 落としたり、強い衝撃をあたえたりしないでください。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- バッテリー動作中にACアダプター本体のDCプラグを差し込まないでください。一度電源を切ってから差し込んでください。
- AC アダプターは室内専用です。
- AC アダプターはこのカメラ以外には使用しないでください。
- 使用中、AC アダプターが熱くなることがありますが、故障ではありません。
- 内部で発振音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音がはいる場合がありますので、離してお使いください。
- カメラが動作中にバッテリーまたは AC アダプターをはずすと、日時が保持されないことがあります。そのときは、日時を設定し直してください。

仕様

AC アダプター（形名 ADP15-HH A）

電源	：AC100V ～ 240V 50/60Hz
定格入力容量	：AC100V 31VA（電気用品安全法）
定格出力	：DC5V 3A
使用温度	：0 ℃～ +40 ℃
保存温度	：－ 20 ℃～＋ 65 ℃
外形寸法	：50.0mm × 28.0mm × 65.0mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量	：約 150g

メモ
- 付属の電源コードは日本国内向け（AC100V ～ 125V）です。海外で使用する場合は、使用する地域の規格に適合した電源コードを使用してください。

バッテリーの取扱いについて

このカメラでは、専用の充電式リチウムイオンバッテリーを使用します。本書中では「バッテリー」と記述します。これ以外のバッテリーは使用できません。
ご使用の際は、「安全上のご注意」（⇨7ページ）および次の内容をよくお読みになり、記載事項をお守りください。

＊ バッテリーは出荷時にはフル充電されていません。使用の前に必ず充電してください。

ご使用時には

- バッテリーはカメラを使用していなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1日～2日前）にバッテリーを充電してください。
- バッテリーを長く持たせるためには、できるだけこまめにカメラの電源を切ることをおすすめします。
- 寒いところでは、バッテリーの特性上、十分に充電されたバッテリーを使用しても、使用時間が短くなります。バッテリーをポケットに入れて暖かくしておいたり、予備のバッテリーを用意するなどしてください。
- 端子部は常にきれいにしておいてください。
- 長時間、バッテリーを使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。
- バッテリーは消耗品です。常温（25℃）で使用した場合、約500回繰り返して使えますが、十分に充電しても、使用できる時間が著しく短くなったときは、専用の新しいバッテリーをお求めください。

バッテリーを使用しないときは

- しばらくバッテリーを使用しないときは、必ず本体からはずしてください。つけたままにしておくと、電源が切れていても微量の電流が流れていますので、過放電になり、使用できなくなるおそれがあります。
- 涼しいところに保管してください。周囲の温度が15℃～25℃の乾燥したところをおすすめします。極端に暑いところや寒いところは避けてください。

充電について

- 充電はカメラ本体で行います。その他の充電器などでは絶対に充電しないでください。
- 初めて使用するときや長期間使用しなかったときは、使用の前に必ず充電してください。
- 充電するときは必ず指定のACアダプター（ADP15-HH A）を使用してください。
- バッテリーを充電する前に、放電したり、使いきったりする必要はありません。
- 充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱くなることがありますが、異常ではありません。
- バッテリーの性能を十分に発揮させるために、約＋10℃～＋30℃の範囲で充電することをおすすめします。
- 充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

バッテリーの上手な使いかた

- カメラは電源が切れている状態でも微弱ながら電流を消費します。長時間使用しない場合はバッテリーを取りはずしておくことをおすすめします。約48時間程度取りはずしておくと、日付·時刻やその他の設定が初期設定に戻ることがあります。使用する前に再度設定してください。
- 寒冷地で使用するときは、カメラやバッテリーを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。低温のため低下したバッテリーの性能は、常温（約 25℃）に戻ると回復します。

仕様

リチウムイオンバッテリー（形名 MEHBT4）
公称電圧　：3.7V
公称容量　：1230mAh
使用温度　：充電：0 ～＋45 ℃、放電：－ 20 ～＋60 ℃
本体外形寸法：36.6mm × 42.0mm × 10.5mm （幅×高さ×奥行き）
質量　：約 32.5g

バッテリーのリサイクルについて

不要になったバッテリーは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。
お持ち込みになるときは、＋端子、－端子の電極に絶縁テープを貼るかポリ袋に入れて、リサイクル協力店にあるリサイクル BOX に入れてください。

Li-ion

最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご覧ください。
ホームページ：http://www.jbrc.com

内蔵のハードディスクドライブについて

このカメラにはハードディスクドライブが内蔵されています。ハードディスクドライブは、本書中では「HDD」と記述します。HDD は衝撃や振動、温度などの環境の変化を受けやすい精密機器です。ご使用の際は、次の点にご注意ください。

- 動作中、または非動作時に振動、衝撃を与えたり、振りまわしたり、落としたりしないでください。
  故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となります。
- HDDへの書込み、読出し中は電源を切らないでください。故障、誤動作、記憶内容の消失の原因となります。
- フォーマットする場合は、保存されている内容を確認してください。
  フォーマットをすると、HDDに保存されていた情報はすべて消失します。データの復帰はできません。
- HDDに保存しているデータは、万一故障したり、変化／消失したりした場合に備えて、こまめにパソコン、CD や DVD にバックアップを取って保存してください。
  HDD に保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いません。

HDD の使い方について

- HDD は定期的に、パソコン、CD、DVD などにファイルを保存し、フォーマットすることをおすすめします。
  HDDは非常に精密な機器で、使用状況によっては部分的な破損や、最悪の場合、ファイルの読み書きができなくなるおそれも十分にあります。
  このため内蔵HDDは、録画した内容の恒久的な保管場所ではなく、あくまで一度見るまでの、またはパソコンやHDD&DVD レコーダー、CD、DVD などにコピーするまでの、一時的な保管場所として使用してください。
- HDDは、書き込みと削除を繰り返し行うと、HDD 内のファイルの配置が不連続になり、連続した空き領域が少なくなります。
  このような状態になると、1 つの空き領域にはいりきらないファイルは、ファイルを分割して 2 つ以上の空き領域に分けて保存されるようになります。
  ファイルの分割保存がふえると、通常の動作が遅くなるだけでなく、場合によっては画像を消去してもファイル保存に必要な空き領域を確保できなくなることがあります。
  このような場合には、ファイルをパソコンやHDD&DVD レコーダー、CD、DVD などにコピーしたあとに内蔵 HDD をフォーマットしてください。

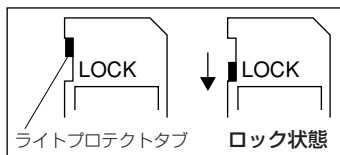
SD メモリーカードについて

SD メモリーカード（別売）は、本書中では「SD カード」と記述します。
SD カードの取扱いについては、次の点にご注意ください。

ご使用上の注意

- SD カードは不揮発性の半導体メモリーを内蔵しています。通常の使用で記録したデータが破壊（消失）することはありませんが、誤った使い方をするとデータが破壊（消失）することがあります。記録されたデータの破壊（消失）については、故障や損害の内容・原因に関わらず当社は一切その責任を負いません。
- SD カードはメモリーの一部を SD カードに基づくシステム領域として使用するため、使用できるメモリー容量は表示の容量より少なくなっています。
- SD カードをフォーマットする場合は、必ずこのカメラでフォーマットをしてください。他の機器（パソコンなど）でフォーマットをすると、データの書込み、または読出しができないなどの不具合が発生することがあります。
- たいせつなデータはバックアップを取っておくことをおすすめします。
- SDカードには寿命があります。長期間使用するうちに書込みや消去ができなくなった場合は、新しい SD カードをお求めください。
- 小さいお子様の誤飲に気をつけてください。窒息の危険性があります。
- このカメラは、SD 規格 Ver.1.01 に準拠しています。

誤消去防止について

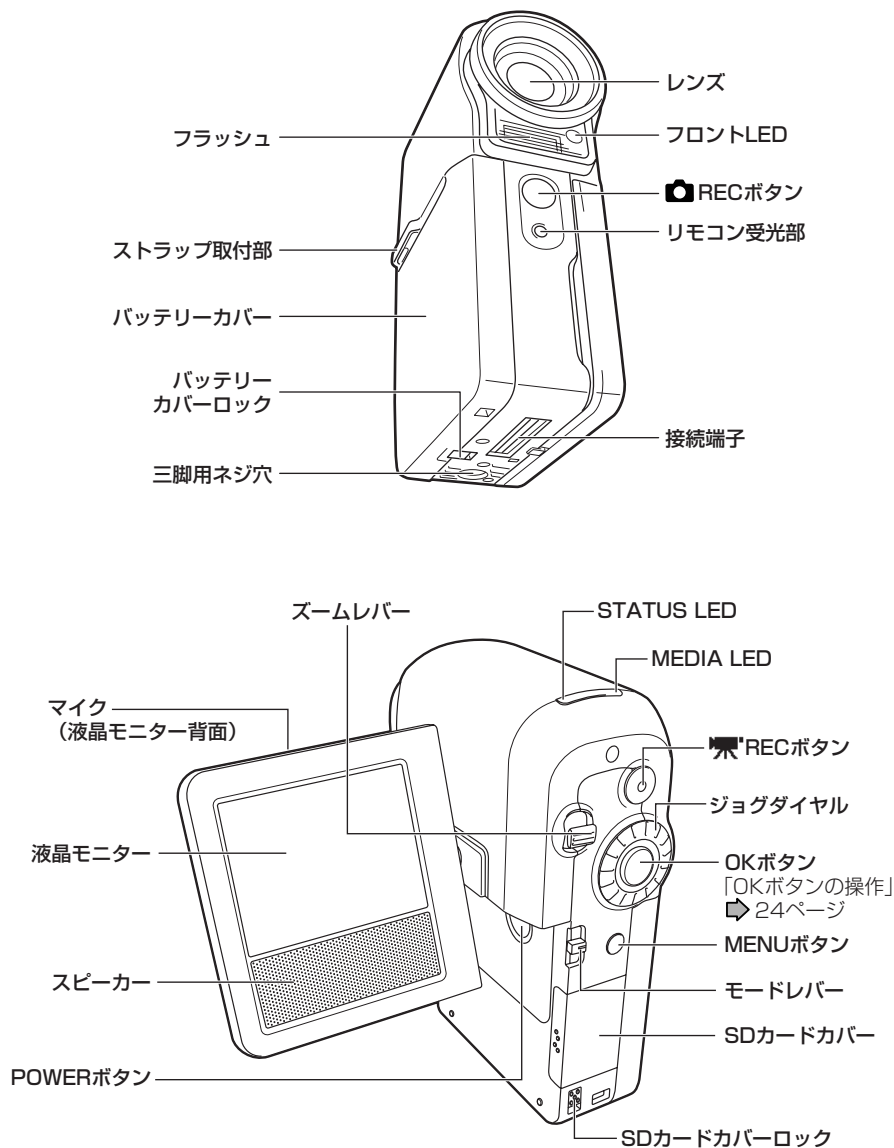
たいせつなデータを誤って消去しないために、カード側面のライトプロテクトタブを「LOCK」に切り換えると、ロック状態（書込み禁止状態）にすることができます。記録、編集、消去するときはロック状態を解除してください。

- 転送速度の速い「高速 SD カード（10MB/s 以上）」の使用をおすすめします。
  転送速度の遅い SD カードを使用すると、動画の撮影や再生が正常に行われない場合があります。
- 使用可能な市販の SD カードについては、ホームページでご確認ください。
  東芝 gigashot ホームページ：http://www.gigashot.net/
- 市販されているすべての SD カードでの動作を保証するものではありません。

準備する

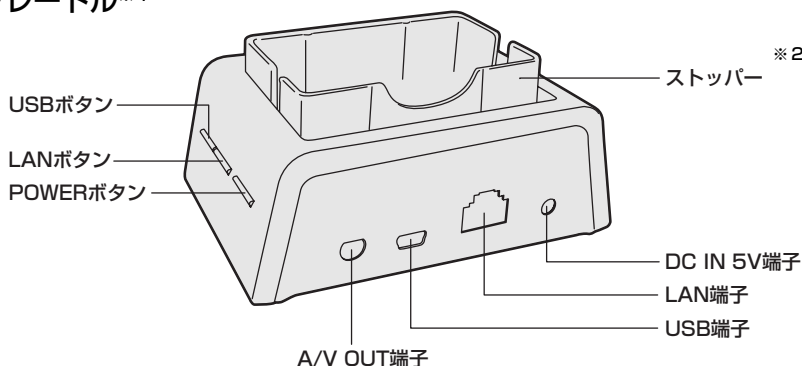
各部のなまえ

本体

レンズ
フラッシュ
フロントLED
RECボタン
ストラップ取付部
リモコン受光部
バッテリーカバー
バッテリー
カバーロック
接続端子
三脚用ネジ穴

ズームレバー
STATUS LED
MEDIA LED
マイク
（液晶モニター背面）
RECボタン
ジョグダイヤル
液晶モニター
OKボタン
「OKボタンの操作」
24ページ
MENUボタン
スピーカー
モードレバー
SDカードカバー
POWERボタン
SDカードカバーロック

本体 LED

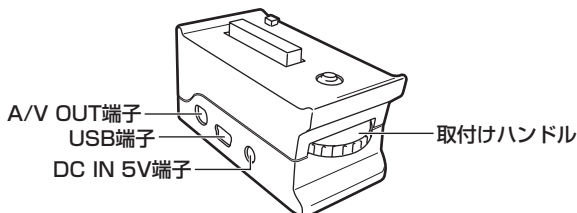
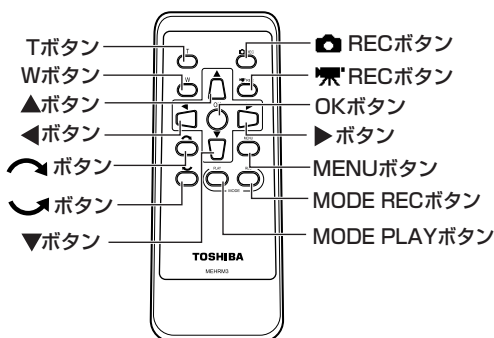
	STATUS LED				MEDIA LED	フロント LED	
色	緑	赤		オレンジ			
状態	点灯	点灯	点滅	点滅	点灯	点灯	点滅
電源オフ時	充電完了	充電中	充電エラー	–	–	–	–
撮影時	–	温度異常時	ハードウェア異常時	撮影準備中	メディアアクセス時	録画時AF補助	セルフタイマー使用時
再生時	–	温度異常時	ハードウェア異常時	–	メディアアクセス時	–	–
LANモード時	マウント状態	温度異常時	ハードウェア異常時	接続準備中	メディアアクセス時	–	–
USBモード時	マウント状態	温度異常時	ハードウェア異常時	ケーブル未接続	メディアアクセス時	–	–

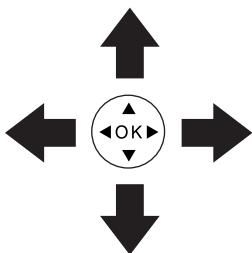
クレードル※1

クレードル LED※1

LED / モード	POWER	LAN	USB
オフ	–	–	–
再生／撮影	点灯	–	–
LAN	点灯	点灯	–
USB	点灯	–	点灯
PictBridge	点灯	–	点灯

※ 1 クレードルは AC アダプターを接続しないと動作しません。
クレードル LED も AC アダプターを接続しないと点灯しません。
※ 2 液晶モニターを閉じた状態でカメラ本体をクレードルにセットするときは、ストッパーを外側にスライドしておきます。
液晶モニターを開いた状態でカメラ本体をクレードルにセットするときは、ストッパーを

内側にスライドしておきます。

接続アダプター

リモコン

ボタン／レバー	
本体	リモコン
POWER	–
モードレバー	MODE REC
モードレバー	MODE PLAY
REC	REC
REC半押し	–
REC全押し	REC
ズームレバーT側	T
ズームレバーW側	W
MENU	MENU
OK	OK
OKボタン ▲	▲
OKボタン ▼	▼
OKボタン ◀	◀
OKボタン ▶	▶
ジョグダイヤル左	↶
ジョグダイヤル右	↷

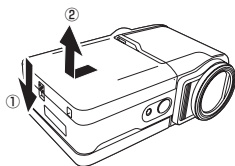
OK ボタンの操作

OK ボタンは垂直に押して選択されている項目を決定するほかに、上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶ ）に動かすことができます。
撮影モード時のフォーカス、シーン、フラッシュ設定や露出補正、メニュー表示時の項目選択等で OK ボタンを使います。
OK ボタンを動かす方向を本書中では「▲▼ ◀ ▶ 」と記述します。

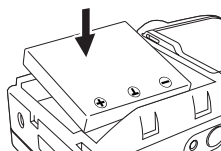
バッテリーを入れる・取り出す

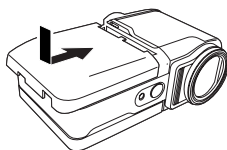
準備

カメラの電源が切れていることを確認してください。

バッテリーを入れる

1 バッテリーカバーをあける

本体底面のバッテリーカバーロックを矢印の方向にスライドしたまま①、バッテリーカバーを矢印の方向にずらして開けます② 。

2 正しい向きでバッテリーを入れる

ラベルを上向きにし、バッテリーの金属部分をレンズ側に向けてバッテリーを入れます。

3 バッテリーカバーを閉める

バッテリーカバーを矢印の方向にスライドして閉めます 。
バッテリーカバーが確実に閉まっていることを確認してください。

- 正常な終了動作をしていない状態でバッテリーを入れた場合、正常に起動しないことがあります。この場合はもう一度電源を入れ直してください。

バッテリーを取り出す

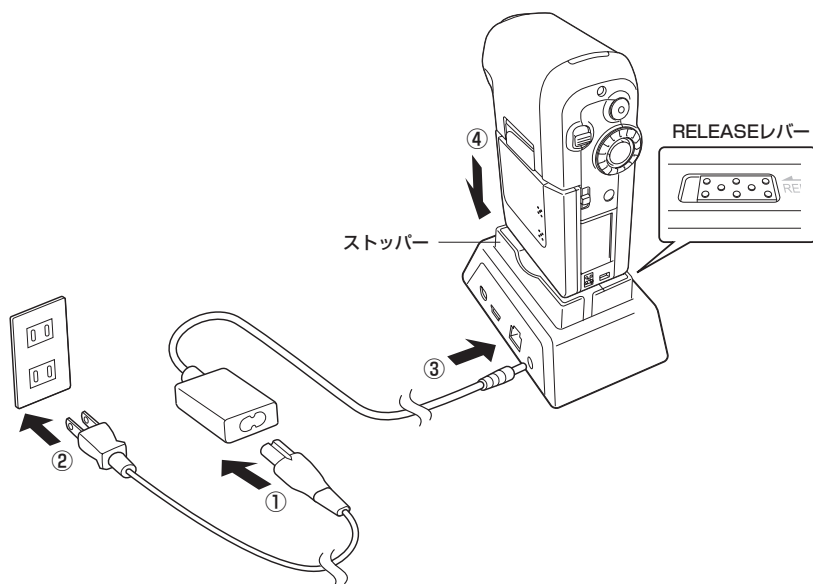
1 バッテリーカバーを開け、バッテリーをジョグダイヤル側から持ち上げて取り出す

- バッテリーを取り出すときは、必ずカメラの電源を切ってください。電源がはいった状態でバッテリーを取り出すと、故障やたいせつなデータが破壊される原因となることがあります。また、カメラの設定内容が購入時の状態に戻ることがあります。その場合は、設定をやり直してください。
- バッテリーを取り出すときは、誤って本体やバッテリーを落下させないように気をつけてください。

充電する

カメラを初めて使うときや、バッテリー残量が少なくなったときにバッテリーを充電します。
約2時間30分で充電が終わります。充電にかかる時間は、温度などの条件によって増減します。

準備

カメラにバッテリーが入っていること、カメラの電源が切れていることを確認してください。
クレードルのストッパーが外側にスライドされていることを確認してください。

1 図の①〜③の順番に接続する

接続アダプターを使って充電することもできます。
接続アダプターは、カメラ本体底面の接続端子に接続し、接続アダプターの取付ハンドルを回して、カメラ本体底面の三脚用ネジ穴に固定してください。

2 カメラをクレードルにセットする④

カメラのレンズとクレードルのボタンが同じ方向を向くようにセットしてください。
バッテリーの充電が始まると、STATUS LEDが赤色に点灯します。充電が終わると、STATUS LEDが緑色に点灯します。また、充電中に異常が発生すると、STATUS LEDが赤色に点滅します。

3 充電が終わったら、RELEASEレバーをスライドし、カメラ本体をクレードルから取りはずす

カメラ本体を取りはずすときは、クレードルをしっかり固定し、カメラ本体を引き上げてください。

- 充電はカメラ本体で行います。その他の充電器などでは絶対に充電しないでください。
- 充電中に異常が発生した場合は、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーを本体から取り出したら、モバイル AV サポートセンターにご連絡ください。バッテリーが高温になっていることがありますので、やけどにご注意ください。
- 炎天下など温度が高い状況で使用したときは、カメラが熱を持つため内部センサーが動作して、充電がすぐに始まらない場合があります。この場合はカメラの熱を十分に冷ましてから充電してください。

- バッテリーの性能を十分に発揮させるために、周囲温度が 10 ～ 30℃の環境で充電してください。

バッテリー残量表示

電源を入れると、液晶モニターにバッテリー残量が表示されます。

表示				
意味	充分残っています	少なくなっています	ほとんど残っていません	ACアダプターで動作中です

バッテリーでの使用時間について

バッテリーの保存期間、カメラやバッテリーの温度、撮影条件（フラッシュやズーム使用の有無等）によって、バッテリーの消耗は大きく変動します。また、バッテリーの＋極、－極、および電極に接するカメラの端子がよごれていると、電流が流れにくくなり、カメラはバッテリー残量がないものと判断してしまいます。バッテリーを出し入れするときには、これらの部分に触らないようにご注意ください。よごれていた場合は、乾いた布などでよごれをふき取ってください。
フル充電した新品のバッテリーでは、動画撮影時間、静止画撮影枚数および再生時間は次のようになります。

動画撮影
　条件：温度 23℃、ズーム不使用での連続撮影
　撮影時間：約 80 分

静止画撮影
　条件：温度 23℃、CIPA 規定の電池寿命測定法による
　撮影枚数：約 160 枚

再生時間
　条件：温度 23℃、オートプレイによる動画連続再生
　再生時間：約 120 分

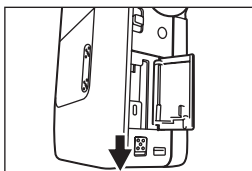
※ここに記載した撮影枚数および再生時間は参考値であり、これを保証するものではありません。

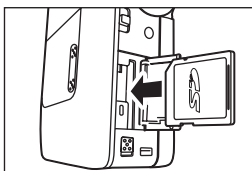
SD カードを入れる・取り出す

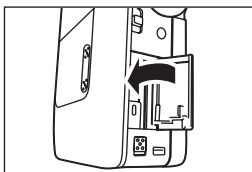
準備

SD カード（別売）の抜き差しをする前に、カメラの電源を切ってください。

SD カードを入れる

1 SD カードカバーをあける

SD カードカバーロックを矢印の方向にスライドすると、SD カードカバーが開きます。

2 図のように正しい向きで SD カードを入れる

切欠き部分を上（レンズ側）に向け、しっかり奥まで差し込みます。

3 SD カードカバーを閉める

SD カードが、しっかり奥まで差し込まれていることを確認してください。
カメラで撮影した画像を SD カードに記録するには、撮影する前に、画像の記録先を SD カードに指定してください。
「SDカードを画像の保存場所に選ぶ」➡ 61 ページ

SD カードを取り出す

1 SD カードカバーをあけ、一度カードを押し込み、カードが少し出てきたら、ゆっくり引き抜く

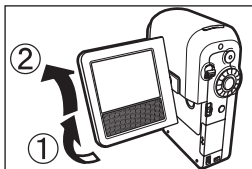
- SD カードに記録中（MEDIA LED が赤点灯中）は、絶対に SD カードカバーをあけたり、SD カードを取り出したりしないでください。SD カードまたは SD カードのデータが破壊されることがあります。
- SD カードを初めて使うときや、他の機器で使った SD カードを使うときは、撮影する前に必ずこのカメラでフォーマットをしてください。
- このカメラは、MultiMediaCard™（マルチメディアカード）には対応していません。

電源を入れる・切る

準備

バッテリーを入れてください。
「バッテリーを入れる・取り出す」➡ 25ページ

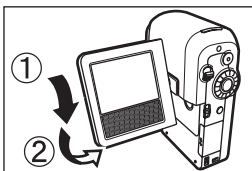
電源を入れる

1 液晶モニターを開く

撮影モードでカメラが起動します。
カメラを初めて使うときや、長時間バッテリーをはずしていたあとなどは、日時設定の画面が表示されます。
日時を設定してください。
「日付・時刻を合わせる」➡ 30ページ

電源を切る

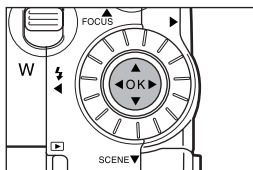
1 液晶モニターを閉じる

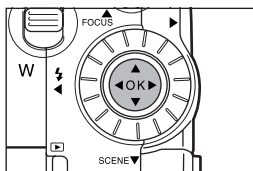
電源が切れます。

メモ

- 液晶モニターを開いている状態で、電源を入れたり切ったりする場合は、POWER ボタンを押します。
- 一定時間、カメラを操作しないと電池の消耗を防ぐために電源が切れます。このことをオートパワーオフ（➡ 124 ページ）といいます。
- 正常な終了動作をしないでバッテリーを入れたり、AC アダプターを使ったりした場合、正常に起動しないことがあります。この場合はもう一度電源を入れ直してください。
- システムの異常などで強制的に電源を切りたい場合は、POWER スイッチを 5 秒以上押し続けます。このとき、作成中のデータは消失する可能性があります。また、日付・時刻やその他の設定が初期設定に戻ることがありますので、使用する前に再度設定してください。

日付・時刻を合わせる

カメラを初めて使うときや、バッテリーを取り出したまま放置したときは、自動的に日時設定の画面が表示されます。日付と時刻を設定してください。秒は設定できません。

1 OK ボタンを◀▶に動かして、設定する項目を選び、ジョグダイヤルで値を設定する

設定する項目を選択後、OKボタンを ▲▼ に動かしても値を設定できます。

2 OK ボタンを◀▶に動かして、［決定］を選び、OK ボタンを押す

日時が設定されます。

カメラを初めて使うときは、アルバム作成画面に切り換わります。アルバムを作成してください。

「アルバムを作成する」➡31ページ

アルバムが作成されているときは、撮影モードに切り換わります。

日時設定を中止する場合は、［キャンセル］を選び、OKボタンを押します。

- 表示される年月日の順番は、選んだ書式によって変わります。書式は［YYYY.MM.DD］、［DD/MM/YYYY］、［MM/DD/YYYY］の３種類です。
- セットアップメニューから［日時設定］を選んだときは、日時設定を終了すると、セットアップメニューに戻ります。

アルバムを作成する

カメラを初めて使うときや、HDD をフォーマット（➡ 128 ページ）したときなど、ドライブの中にアルバムがないときに、自動的にアルバム作成の画面が表示されます。

1 ジョグダイヤルでアルバムの種類を選ぶ

2 OK ボタンを押す

アルバムが作成され、撮影モードに切り換わります。

メモ
- SD カードにはアルバムの種類は設定できません。

アルバムの種類※

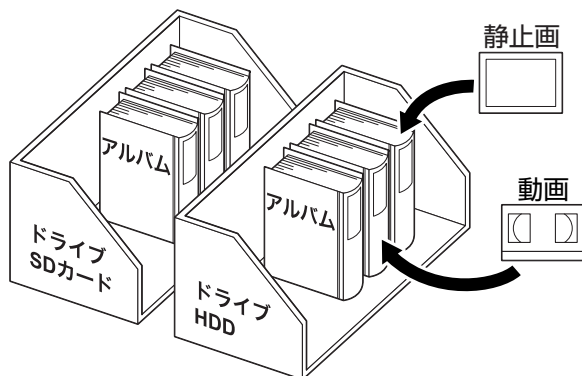
アルバムには次の種類があります。

アイコン	名前	アイコン	名前	アイコン	名前	アイコン	名前
	ART (アート)		MAIL (メール)		GIFT (ギフト)		TRASH (がらくた)
	DRIVE (ドライブ)		PARTY (パーティー)		TRAVEL (旅行)		MUSIC (ミュージック)
	SPORTS (スポーツ)		BEACH (ビーチ)		LANDSCAPE (風景)		BUSINESS (ビジネス)
	MEMO (メモ)		PC (パソコン)		BIRTHDAY (誕生日)		WEDDING (結婚)
	CEREMONY (セレモニー)		BABY (赤ちゃん)		KIDS (子供)		FAMILY1 (家族1)
	FAMILY2 (家族2)		FAMILY3 (家族3)		PET (ペット)		SPRING (春)
	SUMMER (夏)		AUTUMN (秋)		WINTER (冬)		HAPPY (うれしい)
	SAD (悲しい)		LOVE (ラヴ)		LUCKY (ラッキー)		PARK (遊園地)

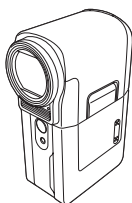
※ アルバムの種類は、予告なく追加または削除する場合があります。

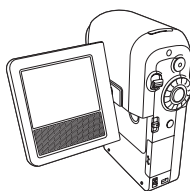
アルバムとドライブについて

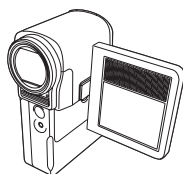
アルバムは、撮影した画像を保存するために必要なものです。撮影する日時や場面（旅行やペットなど）に応じて種類を選ぶことができます。

ドライブは、アルバムをしまっておく場所を指します。
このカメラでは、HDD と SD カードの 2ヶ所です。

液晶モニターの使い方

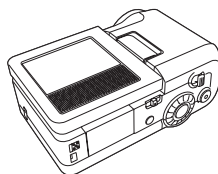
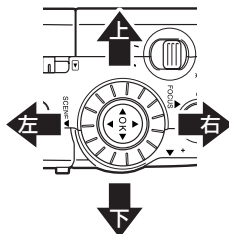
目的に応じて、さまざまなポジションで使うことができます。

オフポジション

・カメラの電源を切っているとき
・カメラを充電しているとき

ノーマルポジション

・撮影・再生するとき

自分撮りポジション※1

・液晶モニターを見ながら自分を撮影したいとき

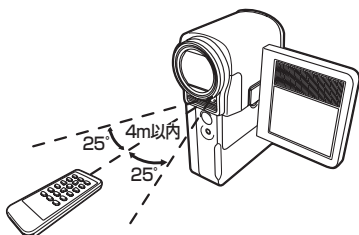
※1 自分撮りポジションでは、液晶モニターに表示される画像は鏡のように左右が逆になりますが、記録される画像は、実際の被写体と同じです。

ビューワーポジション※2

・再生するとき

※2 再生モードやメニュー内でビューワーポジションにすると、OKボタンの上下左右が図のように変わります。ただし、撮影モードでは変わりません。

- クレードルにセットすると、液晶モニターを開閉することはできません。あらかじめ目的のポジションにしてから、クレードルにセットしてください。
- ビューワーポジションでは、クレードルにセットすることはできません。

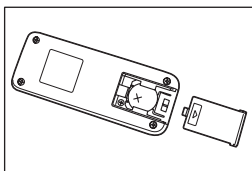
リモコンについて

リモコンを使うと、離れた場所から撮影・再生の操作ができます。

使用できる範囲

リモコンは、次の範囲で使用できます。
・ 距離 ：カメラから約４ｍ以内
・ 角度 ：カメラのリモコン受光部に対し、上下左右約 25 度以内

リモコンの操作範囲は室内で使うときの値です。
屋外やリモコン受光部に強い光があたっているときは、上記範囲内であっても操作できない場合があります。

- 落とす、激しく振るなどの強い衝撃をあたえないでください。
- 水をこぼさないでください。
- 分解しないでください。
- 高温多湿の場所に置かないでください。

電池を入れる

電池は、付属のコイン形リチウム電池 CR2025 を使います。
リモコン背面下部の電池カバーをスライドして開きます。
（＋）を上向きにして電池を入れ、電池カバーを閉めます。

- リモコンの反応がにぶくなったり、反応しなくなったりした場合は、電池を交換してください。
- 使用期限を過ぎた電池は使用しないでください。
- リモコンの電池は充電できません。
- 電池が液もれした場合は、新しい電池と交換する前に、リモコンについた液を完全にふき取ってください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 電池の（＋）と（－）を逆向きに挿入しないでください。
- 電池を充電・加熱・分解したり、ショートさせたり、火の中に入れたりしないでください。
- 使い切った電池をリモコンの中に入れたままにしないでください。
- 電池は幼児や小さな子供の手の届く場所に置かないでください。

やりたいことから探せるカンタンガイド

動画の不要な部分を削除したい

動画を編集する
109 ページ

動画撮影で風切り音を低減したい

風音低減
71 ページ

動画をできるだけ長く撮影したい

動画の画質を設定する
64 ページ

撮影した画像をTV で見たい

ビデオ出力 125 ページ
テレビと接続する 134 ページ

撮影した画像を一覧表示したい

画像を一覧表示する
84 ページ

夜景を撮影したい

撮影シーンを設定する
50 ページ

感度を上げて撮影したい

感度を変更する
69 ページ

見た目と撮影する画像の色を合わせたい

自然な色合いで撮影する
67 ページ

至近距離で撮影したい

フォーカスを設定する
52 ページ

セルフタイマーを使って撮影したい

セルフタイマーで撮影する
62 ページ

セピア・モノクロで撮影したい

画像のカラーを変更する
76 ページ

ズームを使って被写体を際立たせたい

ズームを使って撮影する
44 ページ

……動画でできること

……静止画でできること

画像を一度に消去したい

消去の応用
113 ページ

撮影した画像を自動再生したい

オートプレイを設定・実行する
95 ページ

縦方向で撮影した静止画を回転させたい

静止画を回転表示する
91 ページ

画像を HDD から SD カードに移したい

画像をコピーする
100 ページ
画像を移動する
102 ページ

静止画を印刷したい

静止画を印刷する
149 ページ

画像を DVD に保存したい

画像を DVD に収録する
153 ページ

プリント情報を入力したい

プリント情報を書き込む
104 ページ
パソコンでプリント情報を書き込む 152 ページ

カメラから直接プリンターで印刷したい

カメラから直接プリントする
107 ページ

……動画でできること

……静止画でできること

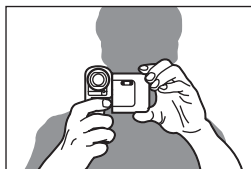
とにかく撮って見る

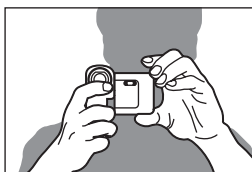
撮影の前に

構えかた

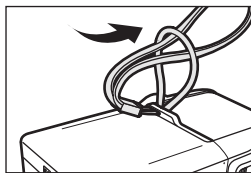
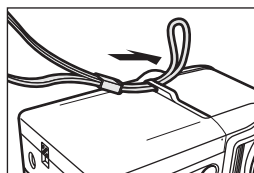
撮影するときはストラップに手をとおし、本体をしっかり持ち、レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないように構えてください。
動画撮影中にカメラを動かす場合は、急激に動かさないようにします。
例えば、カメラを左右に動かすときは、カメラが上下にぶれないように手首を固定して、体をゆっくり回しながら撮影します。

良い例（片手）

良い例（両手）

片手で持つときは、脇をしっかりしめて持ってください。
さらに、左手で液晶モニター部分を支えると、安定します。

悪い例

レンズやフラッシュに指がかからないようにしてください。

ストラップの取付け

下図のように取り付けてください。落下防止のため、必ずストラップを取り付けてください。

標準表示時の液晶モニター表示

詳細表示時の液晶モニター表示

詳細表示するには、OKボタンを押します。ただし自分撮りポジションのときは、標準表示になります。

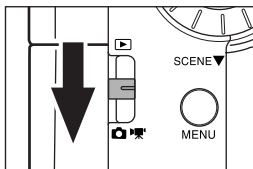
※設定がオート（シーン、フラッシュ、ホワイトバランス）、オートフォーカス（フォーカス）、±０（露出補正）、オフ（セルフタイマー、風音低減、手ぶれ補正）、１ショット（連写）以外に設定されているとき表示されるアイコン

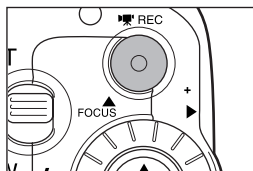
動画を撮影する

動画を撮影します。音声も録音します。

準備

バッテリーがカメラにはいっていること、レンズキャップがはずれていることを確認し、液晶モニターを開いて電源を入れてください。
落下防止のため、ストラップを使用してください。

1 モードレバーを矢印の方向にスライドして撮影モードにする

液晶モニターが明るすぎる、または暗すぎるときは、明るさを調整してください。
「液晶の明るさを変更する」➡ 81ページ

2 REC ボタンを押す

動画の撮影がはじまります。もう一度 REC ボタンを押すと、動画撮影が終了します。
動画撮影中は、フロントLEDが点灯します。

動画撮影中に撮影を一時停止するときは、［REC PAUSE］を［オン］にしておいてください。
「動画撮影を一時停止する」➡ 80ページ

動画撮影の一時停止

「REC PAUSE」機能を使うと、動画の撮影を一時停止することができます。
「動画撮影を一時停止する」➡ 80ページ
動画撮影を再開をすると、チャプター（「用語」➡ 174ページ）が挿入されます。チャプターを挿入すると、開始位置を選んで動画を再生（➡ 88 ページ）できます。

- カメラの動作中、特に撮影後の画像記録中は、ACアダプターの抜き差し、バッテリーカバーやSDカードカバーの開閉、バッテリーやSDカードの取り出しはしないでください。カメラが故障したり、HDDやSDカードおよびその中のデータが破壊される場合があります。
- このカメラで長時間撮影する場合に、特に高温環境ではカメラが熱くなることがありますので、低温やけどにご注意ください。長時間撮影する場合は、三脚の使用をおすすめします。
- 明るいものや光っているものを撮影すると、縦に帯状の線が出ることがありますが、これは「スミア」（「用語」➡ 174ページ）という現象で故障ではありません。

メモ
- 液晶モニターを自分撮りポジションにすると、画像が鏡のように左右が逆になります。ただし、ボタンやキーを操作すると一時的に通常表示に戻ります。
- チャプターは、1 ファイルに 99 個まで挿入できます。
- 動画撮影では、静止画撮影より電池の消耗が早くなることがあります。
- オートフォーカスやマニュアルフォーカスで動画撮影するとき、フォーカスを合わせるときのレンズ動作音が記録されることがあります。
  「フォーカスを設定する」➡ 52ページ
- ズームレバー操作中のレンズ動作音が記録されることがあります。

動画撮影時のボタン操作

状態 / ボタン・レバー	REC PAUSEオフ	REC PAUSEオン	
	撮影中	撮影中	一時停止中
🎥 REC	撮影終了	一時停止	撮影再開 チャプター挿入
OK	－	－	撮影終了
📷 REC半押し	－	－	AF/AEロック
📷 REC全押し	静止画を撮影		
OKボタン ▲	マニュアルフォーカス		
OKボタン ▼	－		
OKボタン ◀	－		
OKボタン ▶	露出設定		
ズームレバーT側	ズーム望遠		
ズームレバーW側	ズーム広角		
MENU	液晶の明るさ変更 オン／オフ※		撮影メニュー表示

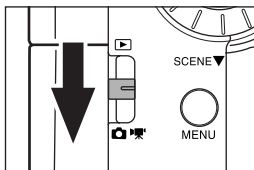
※動画撮影中の液晶の明るさ変更は、「液晶の明るさを変更する」（ ➡ 81 ページ）を参照してください。

動画撮影中の液晶モニター表示

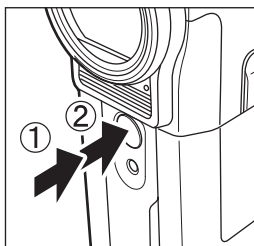
表示される文字、数字、アイコンなどは設定されている内容によって異なります。

静止画を撮影する

撮影状況に応じて、自動的に露出（シャッター速度と絞りの組合せ）を制御するので、簡単に撮影できます。

1 モードレバーを矢印の方向にスライドして撮影モードにする

2 液晶モニターを見ながら構図を決める

液晶モニターが明るすぎる、または暗すぎるときは、明るさを調整してください。
「液晶の明るさを変更する」➪ 81ページ

3 REC ボタンを半押し①、全押し②する

半押しで自動的にピントと露出を合わせます。このときISO感度、シャッター速度、絞りが表示されます。そのまま全押しすると撮影されます。全押しするときにカメラが動くと、ぶれた画像が撮影されますので、ご注意ください。
撮影後、フロントLEDが点灯します。

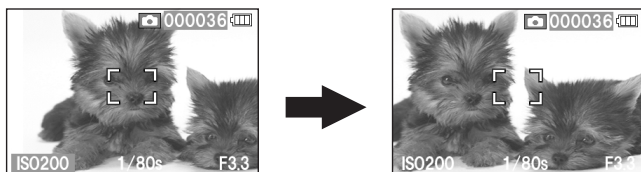
メモ

- REC ボタンを半押ししてから、ピントが合うまでの間、液晶モニターの画像が暗くなる場合があります。
- フラッシュ充電に数秒かかることがあります。フラッシュ充電中はSTATUS LEDがオレンジ色に点滅し、撮影はできません。
- 被写体が暗い場合、REC ボタン半押しで、ピント合わせの補助光としてフロントLED を点灯させることができます。
「LEDを設定する」➪ 123ページ

ピントを合わせる

ピントは、 REC ボタン半押しで表示されるフォーカスエリア枠の色で判断します。
ピントが合っているときは緑色、ピントが合っていないときは赤色で表示されます。
露出が合っていないときは、ISO 感度、シャッター速度、絞りが赤色で表示されます。

ピントが合いにくいときは

- ［AF 測距点］を［中央］に設定（ 75 ページ ）します。
  次に、画面の中央に目的の被写体が映るようにカメラを移動し、 REC ボタン半押しでピントを合わせた状態のまま、構図を戻して REC ボタンを全押し（撮影）します。

- このカメラは、以下のような条件・被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わないことがあります。
  - ・被写体の手前や後方に物体が共存するとき（オリの中の動物や木の前の人物など）
  - ・鏡、車のボディーなど光沢があるもの
  - ・髪の毛や毛皮のように反射しにくいもの
  - ・コントラスト（明暗の差）が極端に低いとき（背景と同色の服を着ている人物など）
  - ・高速で移動する被写体
  - ・煙や炎などの実体のないもの
  - ・ガラス越しの被写体
  - ・被写体が遠くて小さいとき
  - ・極端に明るいもの（ライトなど）
  - ・暗いところ

ズームを使って撮影する

被写体との距離に応じて、5倍光学ズーム、4倍または20倍デジタルズームを使って、最大100倍までのズーム撮影ができます。

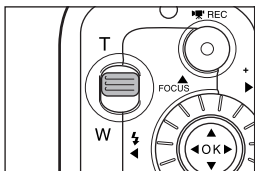
ポイント

- 光学ズームで望遠にすると、背景をぼかして撮影することができます。

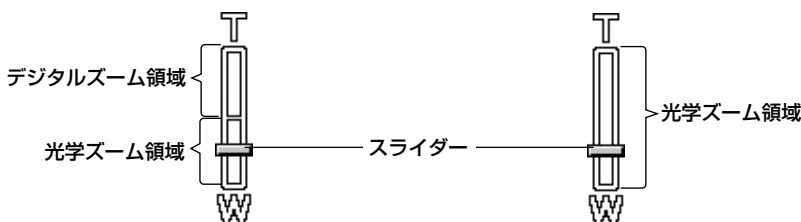
気をつけよう

- 望遠にすればするほど、手ぶれしやすくなります。

1 モードレバーで撮影モードにする

2 ズームレバーでズームの度合いを調整し、構図を決めて撮影する

T側にスライドすると望遠になり、遠くにあるものを大きく撮影できます。W側にスライドすると広角になり、広い範囲を撮影できます。

ズームバーの表示

ズームバーの状態は液晶モニターで確認できます。

<デジタルズームがオンのとき>　　<デジタルズームがオフのとき>

デジタルズームがオンのとき、スライダーの色は画像サイズとデジタルズームの倍率によって次のように変わります。
青色　：光学ズーム。画質の劣化はありません。
黄色　：画質の劣化が少なく、きれいに撮影できます。
赤色　：多少の画質劣化はありますが、被写体をより大きく撮影できます。

メモ

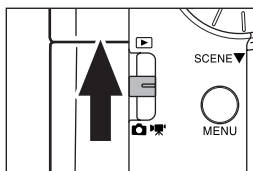
- デジタルズームは、撮影メニューで4倍／20倍／オフを設定できます。
  「デジタルズーム」➡ 73ページ
- デジタルズームの間は、AF測距点の設定にかかわらず、液晶モニター中央の被写体にピントを合わせます。
  「ピントを合わせる領域を選ぶ（AF測距点）」➡ 75ページ
- 電源を切るか、オートパワーオフが働くと、ズームの倍率は広角側いっぱいに戻ります。

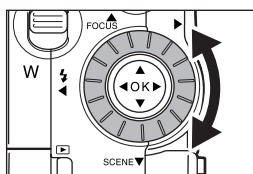
再生する

準備

液晶モニターを開いて、電源を入れてください。

静止画を再生する

1 モードレバーを矢印の方向にスライドして再生モードにする

最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。
液晶モニターが明るすぎるとき、または暗すぎるときは、明るさを調整してください。
「液晶の明るさを変更する」➡ 81ページ

2 ジョグダイヤルで再生したい静止画を選ぶ

最初に粗い画像が表示されてから通常の表示に切り換わります。

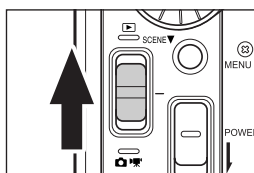
静止画再生時の液晶モニター表示

表示される文字、数字、アイコンなどは設定されている内容によって異なります。

※プロテクト（➡ 97 ページ）された画像に表示されます。

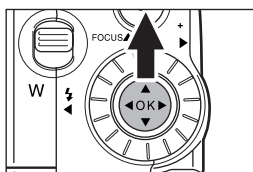
とにかく撮って見る

動画を再生する

1 モードレバーを矢印の方向にスライドして再生モードにする

最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。
液晶モニターが明るすぎるとき、または暗すぎるときは、明るさを調整してください。
「液晶の明るさを変更する」➡ 82ページ

2 ジョグダイヤルで再生する動画を選ぶ

動画アイコン

最初に粗い画像が表示されてから、通常の表示に切り換わります。
動画には、動画アイコンと、液晶モニターの上下にフィルムの絵が表示されています。

3 OK ボタンを▲に動かす

選んだ動画が再生されます。
動画の再生を停止するには、OK ボタンを▼に動かします。
動画の再生を一時停止するには、OK ボタンを▲に動かします。
スピーカーの音量を調整するには、ズームレバーを使います。
T 側 ：音量が大きくなる
W 側 ：音量が小さくなる

動画再生時のボタン操作

状態 / ボタン・レバー	停止中	再生中	一時停止中	早送り中	早戻し中
OK	表示切換				
OKボタン ▲	再生	一時停止	再生		
OKボタン ▼	再生方法選択	停止			
OKボタン ◀	前の画像	ワンタッチリプレイ		ー	
OKボタン ▶	次の画像	ワンタッチスキップ		ー	
ジョグダイヤル左	前の画像	早戻し	コマ戻し	再生	さらに早戻し
ジョグダイヤル右	次の画像	早送り	コマ送り	さらに早送り	再生
ズームレバーT側	チャプター表示	音量アップ			
ズームレバーW側	サムネイル表示	音量ダウン			

ワンタッチスキップ／ワンタッチリプレイ

動画をスキップ再生することができます。スキップする時間は、動画の長さによって異なります。

1 動画再生中または一時停止中に OK ボタンを▶ または◀ に動かす

▶ に動かすとワンタッチスキップ（後ろに一定時間スキップ)、◀ に動かすとワンタッチリプレイ（前に一定時間スキップ）になります。

動画再生時の液晶モニター表示

表示される文字、数字、アイコンなどは設定されている内容によって異なります。

※音量変更時に表示されます。

メモ
- アルバムが複数あっても、OK ボタンの◀ ▶ 、またはジョグダイヤルで全アルバムの画像を再生できます。
- 最後の画像が表示されている状態で OK ボタンを ▶ に動かす、またはジョグダイヤルを右に回すと最初の画像が表示されます。最初の画像が表示されている状態で OK ボタンを◀ に動かす、またはジョグダイヤルを左に回すと最後の画像が表示されます。

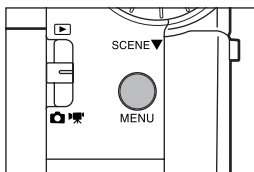
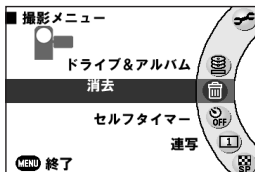
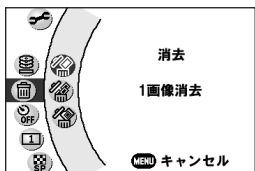
ドルビーデジタルステレオクリエーターによって、ドルビーデジタル（「用語」 ➡ 174ページ）の目の覚めるような音質でステレオ音声の DVD ビデオを作成することができるようになります。
この技術を PCM 記録の代わりに用いることで記録容量を節約することが可能となり、その結果、より高い解像度（ビットレート）の映像、または、より長い記録時間を実現することが可能になります。
ドルビーデジタルステレオクリエーターを用いてマスタリングしたDVDはすべてのDVDプレーヤーで再生することが可能です。

画像を消去する（1 画像消去）

画像をひとつずつ消去します。ただし、保護（プロテクト）されている画像（➡ 97ページ）、DPOF設定されている画像（➡ 104ページ）、DVD作成リストに設定されている画像（➡ 111ページ）や、ロック状態（➡ 19ページ）になっている SD カード内の画像は消去できません。

気をつけよう

- 一度消去した画像は元に戻せません。

1 MENU ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［消去］を選び、OK ボタンを押す

3 ［1 画像消去］を選び、OK ボタンを押す

4 ジョグダイヤルで消去したい画像を選ぶ

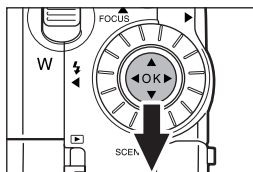
5 OK ボタンを▲に動かして［はい］を選び、OK ボタンを押す

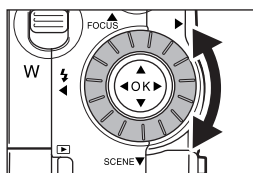
画像が消去され、次の画像が表示されます。
選んだ画像を消去しないときや 1 画像消去を終了するときは、［いいえ］を選び、OK ボタンを押します。
プロテクトされた画像は消去できません。［いいえ］を選び、OK ボタンを押してください。

撮影の応用

撮影シーンを設定する

撮影場面や目的に合ったシャッター速度や絞りをカメラが自動で調整します。
電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりしても、設定内容は保持されます。

1 撮影モードにし、OK ボタンを▼ へ動かす

シーンアイコンが一覧表示されます。

2 ジョグダイヤルで希望のシーンアイコンを選び、OK ボタンを押す

設定を中止するときは、OKボタンを▼ へ動かす、またはMENUボタンを押します。

シーン設定によるフラッシュの制限

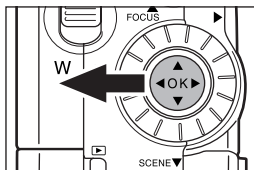
シーン		撮影場面	設定 フラッシュ
AUTO	オート	－	すべて 設定可能
	人物／ポートレート	背景をぼかして、手前の人物を引き立てたいとき	[赤目軽減]※ [発光禁止]
	風景	遠くの景色、風景など	[発光禁止]
	スポーツ	スポーツなど、動きの早いものが被写体のとき	[発光禁止]
	夜景	花火・夜景など、背景が暗いとき	[強制発光]※ [発光禁止]
	スノー&ビーチ	スキー場や海辺など、まぶしいとき	[強制発光] [発光禁止]※
	美白	人物の肌を白く撮影したいとき	[赤目軽減]※ [発光禁止]
	夕焼け	夕暮れ、夕焼けなど	[発光禁止]

※シーンを変更した場合のフラッシュの初期設定です。

- 動画撮影中は、シーン設定できません。
- 各シーンの説明は一般的な目安です。お好みに合わせて設定してください。

フラッシュを設定する

静止画を撮影するときのフラッシュを設定します。撮影する状況に合わせて、フラッシュを設定できます。電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりしても、設定内容は保持されます。

1 撮影モードにし、OK ボタンを◀へ動かす

フラッシュアイコンが一覧表示されます。

2 ジョグダイヤルで希望のフラッシュアイコンを選び、OK ボタンを押す

設定を中止するときは、OK ボタンを◀へ動かす、または MENU ボタンを押します。

各フラッシュの設定が適した場面

フラッシュ		フラッシュの状態と適した場面	設定 シーン
AUTO	オート	撮影状況に応じて自動的に発光。	[オート]
AUTO	赤目軽減（オート）	撮影状況に応じて、自動的に発光。発光時は、フラッシュが2回発光し、2回目の発光時に撮影される。赤目現象（「用語」➡ 170ページ）を軽減したい人物や動物の撮影など。被写体に視線を向けてもらう、被写体に近づくなどがより効果的。	[オート] [人物] [美白]
	強制発光	必ずフラッシュが発光。 逆光、蛍光灯下など人工照明下での撮影	[オート] [夜景] [スノー&ビーチ]
	発光禁止	フラッシュは発光しない。 室内照明を利用した撮影や、舞台・スポーツ観戦などのフラッシュが届かない距離での撮影。	[オート] [人物] [風景] [夜景] [スノー&ビーチ] [スポーツ] [夕焼け] [美白]

重要
- 動画撮影中の静止画撮影では、フラッシュは発光禁止になります。

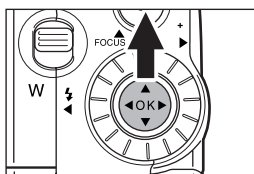
メモ
- 動画撮影中は、フラッシュは使用できません。動画撮影を一時停止（REC PAUSE がオンのとき有効）している間は、フラッシュを使った静止画の撮影ができます。
「動画撮影を一時停止する」➡ 80ページ
- フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押ししたとき、画面のフラッシュアイコンが黄色で表示されます。
- 連写／ AEB、スーパーマクロを設定すると、フラッシュは自動的に［発光禁止］になります。

フォーカスを設定する

撮影する被写体との距離に合わせてフォーカスを設定します。
電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりしても、設定内容は保持されます。

気をつけよう

- ［マクロ］、［スーパーマクロ］で近距離の被写体を撮影するときは、手ぶれしやすくなります。

1 撮影モードにし、OK ボタンを▲へ動かす

フォーカスアイコンが一覧表示されます。

2 ジョグダイヤルで希望のフォーカスを選び、OK ボタンを押す

フォーカスの設定をキャンセルするときは、OKボタンを▲へ動かす、または MENU ボタンを押します。

フォーカス設定による撮影範囲

フォーカス		被写体との距離
AF	オートフォーカス	ズームW側　：約0.5m～∞ ズームT側　：約1.2m～∞
(マクロアイコン)	マクロ	ズームW側　：約0.1m～∞ ズームT側　：約1.0m～∞
(スーパーマクロアイコン)	スーパーマクロ	ズームW側　：約1cm～10cm
MF	マニュアルフォーカス	ズームW側　：約1cm～∞ ズームT側　：約1.0m～∞

メモ

- ［スーパーマクロ］に設定すると、ズーム、フラッシュ、AF 補助光は使えません。ズームは W 端固定になります。
- コンバージョンレンズを付けているときは、撮影範囲が異なる場合があります。

マニュアルフォーカス

手動でフォーカスを合わせることができます。

ポイント

- フォーカスを一定の場所に固定できるため、被写体が動いているときや暗い場所、逆光時など、ピントが合わせづらいときに便利です。

1 フォーカス設定（⇨ 52 ページ）で［MF］を選ぶ

画面におよその距離が表示されます。

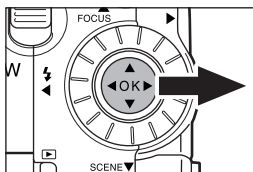
2 ジョグダイヤルでフォーカスを合わせる

フォーカスが固定されます。フォーカスを合わせなおすときは、ジョグダイヤルを使います。

- 動画撮影中に OK ボタンを▲へ動かすごとに、現在設定されているフォーカスとマニュアルフォーカスを切り換えることができます。現在の設定がマニュアルフォーカスのときは、オートフォーカスと切り換わります。
- ズーム W 側では 0.1m より近い距離のとき、画面の距離の表示は 🌷 になります。🌷 が表示される距離は、ズーム位置によって変わります。
- コンバージョンレンズを付けているときは、マニュアルフォーカスの距離表示が異なる場合があります。

露出補正をする

被写体と背景の明るさの差（コントラスト）が大きいときや、被写体が画面内で極端に小さいときに、適正な明るさ（露出）が得られるように露出補正（「用語」➪ 174 ページ）をします。露出補正値は -2.0 から +2.0 までで、1/3EV 単位の設定ができます。

1 撮影モードにし、OK ボタンを ▶ へ動かす

露出補正アイコンと現在の露出の値が表示されます。

2 ジョグダイヤルで露出の値を設定し、OK ボタンを押す

設定する値が大きいほど明るく、小さいほど暗くなります。

効果のある被写体

＋（プラス）補正
- 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の場合
- 逆光の場合
- スキー場などの明るい場面や反射が強い場合
- 画面内の大部分を空が占める場合

－（マイナス）補正
- スポットライトを浴びた人物、特に背景が暗い場合
- 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の場合
- 常緑樹、または色の濃い葉など反射率が低い場合

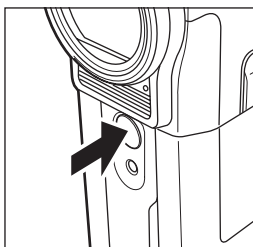
- 動画撮影中でも設定ができます。

動画撮影中に静止画を撮影する

動画の撮影中に静止画が撮影できます。

気をつけよう

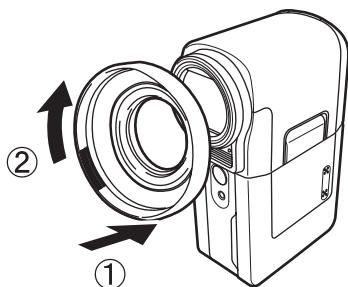
- 静止画サイズが［0.3M］以外に設定されているとき、撮影した静止画が保存されるまでの間、動画撮影が中断されます。
  このとき、シャッターが閉じるアニメーションが動画に記録されます。
  「静止画のサイズを設定する」➡ 65ページ
- 動画撮影中の静止画撮影では、フラッシュは使えません。
- 動画撮影可能時間が 10 秒未満のとき、動画撮影中の静止画撮影ができません。

1 動画撮影中に 📷 REC ボタンを全押しする

静止画が撮影されます。

- 動画撮影を一時停止（REC PAUSE がオンのとき有効）している間は、📷 REC ボタンを半押ししてピントと露出を合わせること、フラッシュを使うことができます。
  「動画撮影を一時停止する」➡ 80ページ
- 動画撮影中は 📷 REC ボタンの半押しは無効です。
- 動画撮影中の静止画撮影では、連写／ AEB、セルフタイマーは使えません。

コンバージョンレンズやレンズフードを使う

コンバージョンレンズとは、レンズの前に取り付けて、より望遠、より広角で撮影したいときなど、撮影できる範囲を変化させたいときに使用します。
レンズフードとは、太陽の光が直接レンズに当たるのを防ぐためのカバーです。逆光撮影のときに使用します。
コンバージョンレンズは市販のものをお求めください。

1 レンズに、付属のレンズフードを図のように取り付ける

レンズフードを付けているときの注意点

・フラッシュ撮影時、フラッシュの光りがさえぎられます。
・AF 補助光がさえぎられます。
・リモコンが正しく動作しないことがあります。
・ズームの位置によって四隅が暗くなったり、レンズフードが写りこんだりする場合があります。

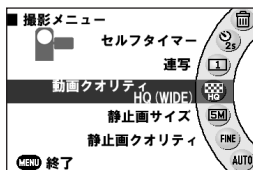
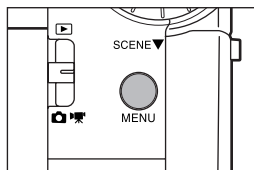
コンバージョンレンズを付けているときの注意点

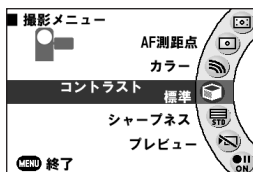
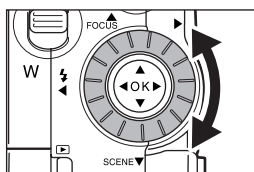
・フラッシュ撮影時、フラッシュの光りがさえぎられます。
・AF 補助光がさえぎられます。
・リモコンが正しく動作しないことがあります。
・ズームの位置によって四隅が暗くなったり、コンバージョンレンズが写りこんだりする場合があります。
・[手ぶれ補正] は [オフ] にしてください。
・オートフォーカスが利きにくくなったり、撮影範囲（ 52 ページ ）やマニュアルフォーカスの距離表示が異なる場合があります。

● レンズに直接レンズフードを取り付ける場合、ネジ切りの径は 30.5mm のものを使用してください。
付属のレンズフードを取り付けた場合、さらにネジ切りの径 52mm のレンズフード、コンバージョンレンズ、フィルターなどを取り付けることができます。

撮影メニューの設定を変更する

撮影メニューの設定を変更します。
電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりしても、「セルフタイマー」以外の設定内容は保持されます。

1 撮影モードで MENU ボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

2 ジョグダイヤルでメニュー項目を選び、OK ボタンを押す

選んだメニュー項目の設定項目が表示されます。

3 ジョグダイヤルで目的の設定項目を選び、OK ボタンを押す

選んだ設定項目がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

4 撮影に戻るときは、MENU ボタンを押す

撮影できる状態になります。

撮影メニュー設定時のボタン操作

ボタン ＼ 画面	メニュー項目表示時	設定項目表示時
OK	選択されている項目に決定	
OKボタン ▲	メニュー項目の選択	設定項目の選択
OKボタン ▼	メニュー項目の選択	設定項目の選択
OKボタン ▶	選択されている 項目に決定	–
OKボタン ◀	–	前の画面に戻る
ジョグダイヤル右	メニュー項目の選択	設定項目の選択
ジョグダイヤル左	メニュー項目の選択	設定項目の選択
MENU	撮影の状態に戻る	メニューに戻る
モードレバー [静止画] [動画]	撮影の状態に戻る	
モードレバー [再生]	再生の状態に戻る	

撮影メニュー

メニュー名	概要	撮影モード	参照
ドライブ＆アルバム	ドライブの選択とアルバムの選択・作成	[動画] [静止画]	59
消去	画像の消去	–	113
セルフタイマー	セルフタイマーの設定	[動画] [静止画]	62
連写	連続撮影の設定	[静止画]	63
動画クオリティ	動画の画質設定	[動画]	64
静止画サイズ	静止画撮影サイズの設定	[静止画]	65
静止画クオリティ	静止画の画質設定	[静止画]	66
ホワイトバランス	ホワイトバランスの設定	[動画] [静止画]	67
ISO感度	静止画撮影時の感度の設定	[静止画]	69
手ぶれ補正	手ぶれ補正のオン／オフの設定	[動画]	70
風音低減	風音低減のオン／オフの設定	[動画]	71
マイク感度	マイク感度の設定	[動画]	72
デジタルズーム	デジタルズームの倍率やオン／オフの設定	[動画] [静止画]	73
測光方式	露出を計算するための測光方式の設定	[動画] [静止画]	74
AF測距点	フォーカスを合わせる領域の設定	[動画] [静止画]	75
カラー	画像の色調の設定	[動画] [静止画]	76
コントラスト	画像の明暗差の設定	[動画] [静止画]	77
シャープネス	画像のタッチの設定	[動画] [静止画]	78
プレビュー	静止画撮影後のプレビューのオン／オフの設定	[静止画]	79
REC PAUSE	動画撮影時のRECボタンの動作（録画／一時停止）設定	[動画]	80
液晶の明るさ	液晶の明るさの設定	–	81
セットアップ	セットアップメニューの表示	–	120

アルバムを作る・選ぶ

撮影日や撮影場所別など、目的に合わせて画像の保存・整理ができます。

HDD にアルバムを作る

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［ドライブ＆アルバム］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［HDD］を選び、OK ボタンを押す

3 OK ボタンを▼に動かして［新規作成］を選び、OK ボタンを押す

4 ジョグダイヤルでアルバムの種類を選び、OK ボタンを押す

新しく作成したアルバムが画像の保存場所としてセットされ、撮影できる状態になります。
アルバムの種類には「ART（アート）」、「KIDS（子供）」などがあります。
「アルバムを作成する」 ➡ 31ページ

HDD にあるアルバムの種類を変更する

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［ドライブ＆アルバム］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［HDD］を選び、OK ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで種類を変更したいアルバムを選ぶ

4 OK ボタンを▼に動かして［アルバム変更］を選び、OK ボタンを押す

5 ジョグダイヤルでアルバムの種類を選び、OK ボタンを押す

種類を変更したアルバムが画像の保存場所としてセットされ、撮影できる状態になります。

HDDにあるアルバムを画像の保存場所に選ぶ

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［ドライブ＆アルバム］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［HDD］を選び、OKボタンを押す

3 ジョグダイヤルで目的のアルバムを選び、OKボタンを押す

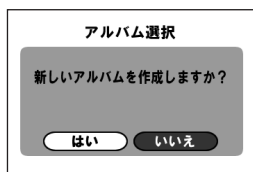
選んだアルバムが画像の保存場所としてセットされ、撮影できる状態になります。

SDカードを画像の保存場所に選ぶ・アルバムを作る

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［ドライブ＆アルバム］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［SD］を選び、OKボタンを押す

メッセージが表示されます。

3 ジョグダイヤルで［はい］または［いいえ］を選び、OKボタンを押す

［はい］を選ぶと、新しく作成したアルバムが画像の保存場所としてセットされ、撮影できる状態になります。
［いいえ］を選ぶと、SDカード内の最新アルバムが画像の保存場所としてセットされ、撮影できる状態になります。

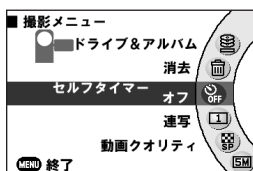
- SDカードには、アルバムの種類を作成できません。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマーを使うと、設定時間（10 秒または 2 秒）後に自動的に撮影されます。
電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりすると、設定はオフになります。

ポイント

- セルフタイマーの設定［2 秒］を使うと、静止画撮影の手ぶれ防止に効果的です。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［セルフタイマー］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで設定時間を選び、OK ボタンを押す

選んだ設定時間がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは MENU ボタンを押します。

オフ　：セルフタイマーを使わない
10 秒　： REC ボタン、または REC ボタンを押してから約 10 秒後に撮影
2 秒　： REC ボタン、 REC ボタンを押してから約 2 秒後に撮影

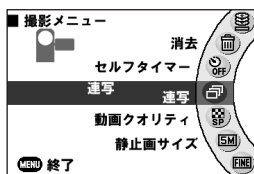
- セルフタイマー撮影時、 REC ボタン、 REC ボタンを押すと画面にカウントダウンが表示され、フロントLED が点滅し、設定時間（10 秒または 2 秒）後に撮影されます。
- 連写／ AEB 撮影でも、セルフタイマーが使えます。セルフタイマーを使ったとき、連写の撮影枚数は 3 枚です。
「連続撮影する」➡ 63ページ
- セルフタイマーは設定を変更する、または電源を切るまで、同じ設定時間で何度でも撮影できます。

連続撮影する

通常の連続撮影と、自動的に露出を変更した連続撮影（AEB撮影）ができます。露出を変えて撮影したいとき、［AEB］を使うと便利です。

ポイント

- 子供やペットなど、シャッターチャンスをとらえるのがむずかしい被写体の撮影に最適です。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［連写］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで連写の種類を選び、OK ボタンを押す

選んだ連写がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

1ショット　：1枚ずつ撮影する
連写　　　　：連続撮影する
AEB　　　　：自動で露出をずらして、±０、－０.３ＥＶ、＋0.3EV の順で３枚連続撮影する

3 MENU ボタンで撮影メニューを終了し、撮影モードにする

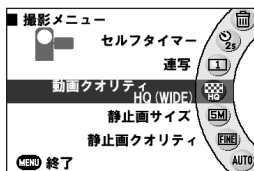
4 構図を決め、 REC ボタン半押しでピントを合わせたら、全押ししたままにする

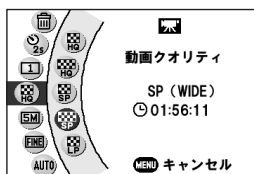
設定した連続撮影が始まります。
連続撮影の途中で REC ボタンを離すと、撮影は終了します。
撮影プレビューの設定に関わらず、自動的に画像がプレビューされます。

メモ

- 連写の撮影枚数は、静止画サイズ、静止画クオリティ、メディアの空き容量などによって変わります。
- HDD または SD カードの空き容量が不足したときは、撮影枚数の上限に達する前に撮影は終了します。
- フラッシュ撮影はできません。
- 撮影間隔は、撮影状況によって変わります。
- セルフタイマーを使ったとき、連写の撮影枚数は３枚です。

動画の画質を設定する

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［動画クオリティ］を選び、OKボタンを押す

画質の種類と、その画質で撮影可能な時間が表示されます。

2 ジョグダイヤルで画質を選び、OK ボタンを押す

選んだ画質がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

HQ ：画質優先
HQ(WIDE) ：画質優先（ワイドサイズ）
SP ：標準画質
SP(WIDE) ：標準画質（ワイドサイズ）
LP ：撮影時間優先

動画の記録時間の目安

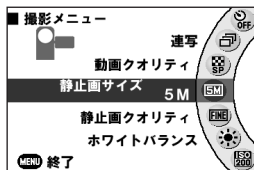
HDD および SD カードに記録できる目安は次のとおりです。
被写体によって、記録されるデータ量が異なるため、撮影可能時間の減り方が一定でない場合があります。

動画クオリティ	HDD	SDカード				
	4GB※	2GB	1GB	512MB	256MB	128MB
HQ 約6Mbps	約85分	約43分	約21分	約11分	約5分	約2分
HQ(WIDE) 約6Mbps	約85分	約43分	約21分	約11分	約5分	約2分
SP 約4Mbps	約128分	約64分	約32分	約16分	約8分	約4分
SP(WIDE) 約4Mbps	約128分	約64分	約32分	約16分	約8分	約4分
LP 約2Mbps	約255分	約129分	約65分	約32分	約16分	約8分

※ 1GB を 10 億バイトで計算した数値です。実際にフォーマットされた容量は、表記の数値より少なくなります。

- ［HQ(WIDE)］、［SP(WIDE)］に設定すると、液晶モニターの上下に黒い帯が表示されます。
- ［HQ(WIDE)］、［SP(WIDE)］に設定した状態で、静止画を撮影すると、静止画もワイドサイズになります。
- ドライブの空き容量と画質によって、表示される撮影可能時間は変動します。

静止画のサイズを設定する

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［静止画サイズ］を選び、OKボタンを押す

画像サイズの種類と、そのサイズで撮影可能な枚数が表示されます。

2 ジョグダイヤルで画像サイズを選び、OK ボタンを押す

選んだ画像サイズがセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

5M　：2560 × 1920 ピクセル
3M　：2048 × 1536 ピクセル
1.2 M ：1280 × 960 ピクセル
0.3 M ：640 × 480 ピクセル

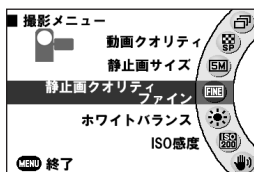
動画クオリティが［HQ（WIDE)］または［SP（WIDE)］に設定されているときの静止画サイズは次のとおりです。

5M　：2560 × 1440 ピクセル
3M　：2048 × 1152 ピクセル
1.2 M ：1280 × 720 ピクセル
0.3 M ：640 × 360 ピクセル

メモ

- 各画像サイズは、次の印刷や用途に適しています。
  5M　：A4 版での印刷など
  3M　：L 版やハガキサイズの印刷など
  1.2M ：パソコンの壁紙など
  0.3M ：メール添付など
- ドライブの空き容量と画像サイズによって、表示される撮影可能枚数は変動します。

静止画の画質を設定する

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［静止画クオリティ］を選び、OKボタンを押す

画質の種類と、その画質で撮影可能な枚数が表示されます。

2 ジョグダイヤルで画質を選び、OK ボタンを押す

選んだ画質がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

ファイン　　　：高画質
スタンダード：標準画質

静止画の撮影枚数の目安

HDD および SD カードに記録できる目安は次のとおりです。
被写体によって、記録されるデータ量が異なるため、記録後の撮影可能枚数が増減する場合があります。

静止画サイズ	静止画クオリティ	HDD	SDカード				
		4GB※	2GB	1GB	512MB	256MB	128MB
5M	ファイン	1918	968	490	246	122	59
	スタンダード	3069	1549	784	393	196	95
3M	ファイン	3274	1652	837	420	209	101
	スタンダード	4911	2479	1255	630	313	152
1.2M	ファイン	6820	3443	1744	875	435	211
	スタンダード	10231	5165	2616	1313	653	317
0.3M	ファイン	20462	10330	5232	2626	1307	634
	スタンダード	30694	15496	7848	3939	1960	951

※ 1GB を 10 億バイトで計算した数値です。実際にフォーマットされた容量は、表記の数値より少なくなります。

●ドライブの空き容量と画質によって、表示される撮影可能枚数は変動します。

自然な色合いで撮影する（ホワイトバランス）

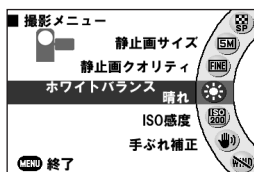
さまざまな光源の下で撮影するとき、自然な色合いになるようにホワイトバランス（「用語」➡ 170ページ）を設定します。

ポイント

- 登録されているホワイトバランスがうまく合わないときは、プリセットを使って手動で設定できます。

気をつけよう

- ［オート］以外に設定されているとき、光源と設定内容が違うと、色合いが不自然になります。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［ホワイトバランス］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで使用するホワイトバランスを選び、OK ボタンを押す

［PRESET］を選んだ場合は「プリセットデータを上書きする」または「プリセットデータを使用する」に進みます。［PRESET］以外を選んだときは、撮影できる状態に戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

AUTO　：自動調整
晴れ　：太陽光での撮影
曇　：くもり空での撮影
蛍光灯 1　：昼光色蛍光灯下での撮影（青みがかった蛍光灯）
蛍光灯 2　：昼白色蛍光灯下での撮影（赤みがかった蛍光灯）
白熱灯　：白熱灯下での撮影
PRESET　：プリセット（自分で登録したデータを使用する）

プリセットデータを上書きする

現在の光源に合わせて、新しくプリセットデータを上書き登録します。

1 [PRESET] を選んで表示されたメニューから、ジョグダイヤルで［データを上書きする］を選び、OK ボタンを押す

メッセージが表示されます。

2 白い被写体（白い皿や紙など）を表示された枠内に映して、OK ボタンを押す

メッセージ表示後、撮影できる状態に戻ります。

- ホワイトバランスを設定するときは、できるだけ表示された枠いっぱいに被写体（白い皿や紙など）を映すようにしてください。

プリセットデータを使用する

現在登録されているデータを使います。

1 [PRESET] を選んで表示されたメニューから、ジョグダイヤルで［データを使用する］を選び、OK ボタンを押す

撮影できる状態に戻ります。

感度を変更する

撮影時の感度を設定します。
フラッシュ撮影が禁止されている場所や暗い場所では、感度をあげることをおすすめします。

ポイント

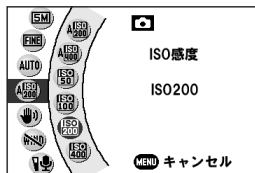
- 動きの早いものを撮影するときは、感度をあげるとシャッター速度が速くなり、被写体ぶれの軽減に効果があります。

気をつけよう

- 感度をあげると撮影した画像にノイズがふえたり、印刷した画像の発色がわるくなったりします。

撮影の応用

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［ISO感度］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで感度を選び、OK ボタンを押す

選んだ感度がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

オート200	：ISO50～ISO200までの範囲で自動調整
オート400	：ISO50～ISO400までの範囲で自動調整
ISO50	：ISO50相当
ISO100	：ISO100相当
ISO200	：ISO200相当（高感度）
ISO400	：ISO400相当（高感度）

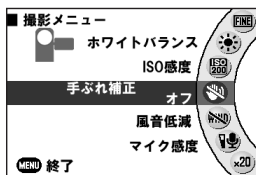
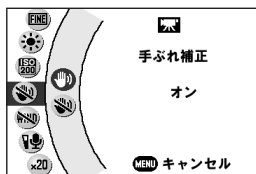
手ぶれ補正を使って撮影する

動画撮影時の手ぶれを低減します。

● ズーム撮影や三脚を使わない撮影時に使うと便利です。

気をつけよう

● ぶれが大きいときや、動きのある被写体を追って撮影したときなどは、補正できないことがあります。
● 手ぶれ補正は、シーン設定や周囲の明るさなどによって効果に違いがあります。暗い場所などでは性能を十分に発揮できません。
● 手ぶれ補正は動画撮影時の手ぶれを補正する機能です。静止画撮影時の手ぶれは補正されません。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［手ぶれ補正］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで設定を選び、OK ボタンを押す

設定がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

オン ：手ぶれ補正機能を使う
オフ ：手ぶれ補正機能を使わない

● ［手ぶれ補正］を［オン］に設定している状態で、画像サイズ［5M］の静止画を撮影すると、撮影画像はデジタルズームのように拡大（1.25 倍）されます。
● コンバージョンレンズを付けているときは、［手ぶれ補正］を［オフ］にしてください。

風音低減

動画撮影時の音声録音で風の音を減らすことができます。

- マイクに直接風があたるような状況での撮影では効果がありません。

風があたるような状況での撮影では効果がありません。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［風音低減］を選び、OKボタンを押す

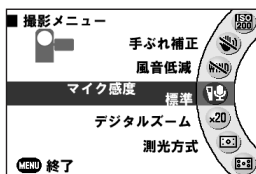
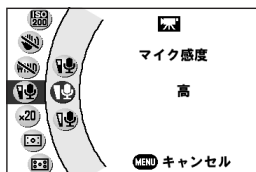
2 ジョグダイヤルで設定を選び、OK ボタンを押す

風音低減がセットされ、動画撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

オン ：風音低減機能を使う
オフ ：風音低減機能を使わない

マイク感度を変更する

動画撮影時のマイク感度を設定します。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［マイク感度］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで感度を選び、OK ボタンを押す

選んだ感度がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

標準　：通常のマイク感度
高　　：マイク感度を高く設定する
　　　　聞き取りにくい小さな音を録音したいときに選ぶ
低　　：マイク感度を低く設定する
　　　　周囲の雑音を低減したいときに選ぶ

デジタルズーム

画面中央部をデジタル処理によって、さらに拡大できます。
画素補完技術によってデジタルズームのときも、設定した記録画素数で画像が記録されます。

気をつけよう

- デジタルズームを使うと、画質が劣化します。特に20倍デジタルズームで静止画を撮影するときは、ご注意ください。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［デジタルズーム］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで倍率を選び、OK ボタンを押す

デジタルズームがセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

4 倍　：4 倍デジタルズームを使う
（光学 5 倍ズームと合わせて最大 20 倍）
20 倍 ：20 倍デジタルズームを使う
（光学 5 倍ズームと合わせて最大 100 倍）
オフ　：デジタルズームを使わない

測光方式を選ぶ

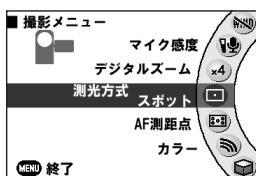
露出を計算するための測光方式を設定します。

 ポイント

- 逆光のときなどに［スポット］を使用すると、特定の被写体に露出を合わせることができます。

気をつけよう

- 測光ポイントが明るすぎると、撮影した画像が暗くなってしまいます。
- 測光ポイントが暗すぎると、撮影した画像が白っぽくなってしまいます。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［測光方式］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［中央重点］または［スポット］を選び、OKボタンを押す

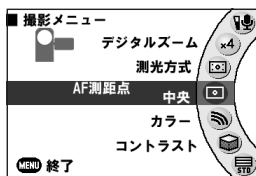
選んだ測光方式がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENUボタンを押します。

中央重点 ：中央部に重点をおいて画面全域を測光して、露出を決める
スポット ：画面中央のごく狭い部分を測光して露出を決める

ピントを合わせる領域を選ぶ（AF 測距点）

ピントを合わせる範囲を設定します。

- 集合写真など被写体が複数ある場合や、被写体が中央にない場合は、［マルチ］を使うとピントが合わないなどのミスが減ります。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［A F 測距点］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［中央］または「マルチ」を選び、OK ボタンを押す

選んだ測距方法がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止する場合は MENU ボタンを押します。

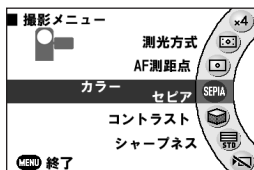
中央　：中央の被写体との距離を測り、ピントを合わせる
　　　　フォーカスエリアは常に液晶モニターの中央に表示される
マルチ：複数ある測距点のどこで距離を測るかをカメラまかせにする
　　　　フォーカスエリアは、ピントが合った部分に表示される

メモ

- デジタルズームの間は、AF 測距点の設定にかかわらず、液晶モニター中央の被写体にピントを合わせます。
「ズームを使って撮影する」➪ 44ページ

画像のカラーを変更する

撮影する画像の色を設定します。白黒やセピア色の画像が撮影できます。

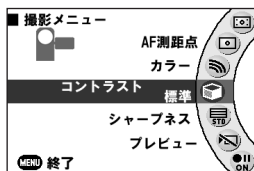
1 撮影メニューからジョグダイヤルで［カラー］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルでカラーを選び、OK ボタンを押す

選んだカラーがセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

標準　　　：カラー
あざやか　：あざやかなカラー
モノクロ　：白黒
セピア　　：セピア

画像のコントラストを変更する

撮影する画像の明暗の差を設定します。明暗をはっきりさせたり、ぼやかしたり、画像の表現を変更できます。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［コントラスト］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルでコントラストを選び、OK ボタンを押す

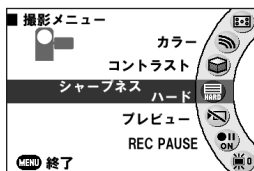
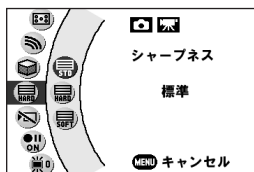
選んだ設定がセットされ、静止画撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

標準　：自動設定
ハード：明暗の差を大きくする
ソフト：明暗の差を小さくする

撮影の応用

画像のタッチを変更する（シャープネス）

撮影する画像のタッチを設定します。輪郭をはっきりさせたり、やわらかい感じにしたり、画像の表現を変更できます。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［シャープネス］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで画像のタッチを選び、OK ボタンを押す

選んだ設定がセットされ撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

標準　：普通のタッチ
ハード：かたいタッチ
ソフト：やわらかいタッチ

プレビュー

静止画撮影直後に液晶モニターに撮影画像を表示します。
撮影した画像の構図や明るさを確認するのに便利です。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［プレビュー］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで設定を選び、OK ボタンを押す

プレビューがセットされ、静止画撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

オン ：プレビュー機能を使う
オフ ：プレビュー機能を使わない

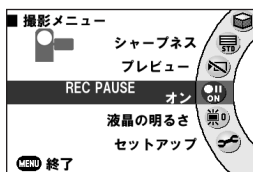
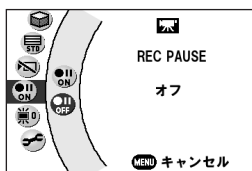
メモ
- 連写／AEB 撮影時は、設定にかかわらずプレビュー画面が表示されます。

動画撮影を一時停止する

REC PAUSE 機能を使うと、動画撮影を一時停止することができます。
一時停止後に撮影を再開すると、チャプター（「用語」➪ 174ページ）が挿入されます。

ポイント

- 一時停止をしている間は、フラッシュを使った静止画の撮影、📷 RECボタン半押しによるピント合わせ、セルフタイマーを使った撮影ができます。

1 撮影メニューからジョグダイヤルで［REC PAUSE］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで設定を選び、OK ボタンを押す

設定がセットされ、撮影メニューに戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

オン　：REC PAUSE 機能（一時停止）を使う
　　　　動画撮影中に 🎥 REC ボタンを押すと、一時停止・チャプター挿入ができる
オフ　：REC PAUSE 機能（一時停止）を使わない

- 動画にチャプターが挿入されていると、開始位置を選んで再生することができます。
「開始位置を選んで動画を再生する」➪ 88ページ

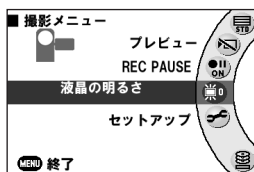
液晶の明るさを変更する

- 液晶を明るくすると、屋外などの明るい場所でも見やすくなります。

気をつけよう

- 液晶の明るさを暗くしたまま明るい場所に移動すると、液晶モニターが映っていないように見えます。

撮影（再生）メニューから液晶の明るさを変更する

1 撮影メニュー（再生メニュー）からジョグダイヤルで［液晶の明るさ］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで明るさを調整し、OK ボタンを押す

液晶の明るさがセットされ、メニューを表示する前の状態に戻ります。
設定を中止するときは、MENU ボタンを押します。

- 液晶の明るさは、再生メニューからも設定できます。

動画撮影中に液晶の明るさを変更する

1 動画撮影中に MENU ボタンを押す

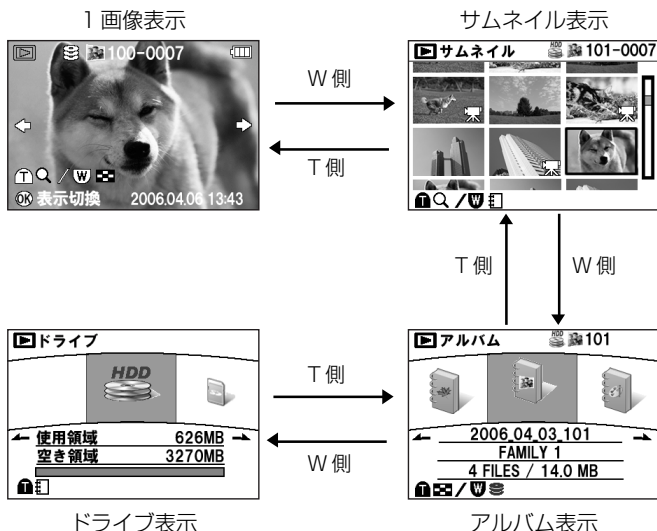
画面に液晶の明るさアイコンが表示されます。

2 ジョグダイヤルで明るさを調整し、OK ボタンを押す

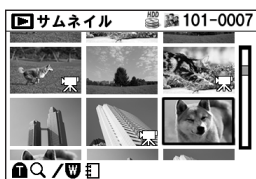
液晶の明るさがセットされます。

再生の応用

階層を切り換える

目的の画像を探すときに、ズームレバーを使って「一覧表示」にしたり、「アルバム」や「ドライブ」を選んだりすることができます。

画像を一覧表示する（サムネイル表示）

画面に、縮小した画像を一覧表示できます。縮小して一覧表示することを本書中では「サムネイル表示」とよびます。一覧できる画像は、一度に 6 画像までです。

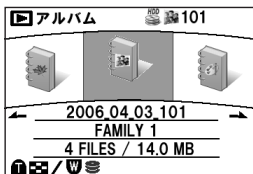
1 再生モードにし、ズームレバーを W 側にスライドする

画像がサムネイル表示されます。
画像が7つ以上ある場合は、ジョグダイヤルで画面をスクロールしてください。
選んだサムネイル画像を通常の大きさで表示するには、ズームバーを T 側にスライドします。

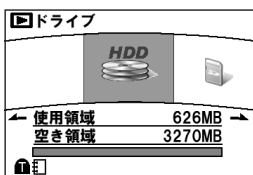
別のアルバムへ移動するには

二とおりの方法があります。
- 画面をジョグダイヤルでスクロールしていき、表示された「次のアルバム（前のアルバム）」にカーソルを合わせて、OK ボタンを押します。
- 階層を移動してアルバム表示にし、再生したいアルバムを選ぶ
  「再生するアルバムやドライブを選ぶ」 ➪ 85ページ

再生するアルバムやドライブを選ぶ

1 サムネイル表示にする

2 ズームレバーをW側にスライドする

アルバム表示になります。
ジョグダイヤルで再生するアルバムが選べます。
ズームレバーをT側にスライドすると、選んでいるアルバムの中の画像がサムネイル表示されます。

3 アルバム表示の状態で、ズームレバーをW側にスライドする

ドライブ表示になります。
ジョグダイヤルで再生するドライブが選べます。
ズームレバーをT側にスライドすると、選んでいるドライブの中のアルバムが表示されます。

- ここで選んだドライブは再生するドライブです。撮影した画像を保存するドライブと違う方を選んでも、画像の保存先が切り換わることはありません。
「アルバムを作る・選ぶ」➡ 59ページ

動画の再生方法を選ぶ

動画再生方法は、次の 2 つから選ぶことができます。
連続再生　　同じアルバム内の動画を最後まで順番に再生します。
1 ファイル　選んだ動画だけを再生します。

1 再生モードにする

2 ジョグダイヤルで再生したい動画を選ぶ

3 OK ボタンを▼ に動かす

動画再生アイコンが表示されます。

4 ジョグダイヤルで［連続再生］または［1 ファイル］を選び、OK ボタンを押す

動画の 1 コマを静止画に切り出す

動画の 1 コマを静止画として切り出すことができます。
切り出される静止画のサイズは 0.3M です。

1 再生モードにする

2 ジョグダイヤルで再生したい動画を選ぶ

3 OK ボタンを▲へに動かす

動画が再生されます。

4 静止画に切り出したい場面で、OK ボタンを▲に動かして再生を一時停止する

ジョグダイヤルを使うと、コマ送り（戻し）しながら、静止画に切り出す場面をより正確に指定することができます。

5 REC ボタンを全押しする

選んだ場面が、静止画として切り出されます。

開始位置を選んで動画を再生する

動画撮影時に一時停止操作で挿入されたチャプター（「用語」➪ 174ページ）を指定して、再生開始位置が選べます。

気をつけよう

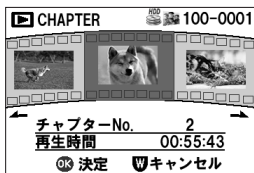
- 撮影後の動画にチャプターを追加することはできません。

1 再生モードにする

2 ジョグダイヤルで、再生したい動画を選ぶ

3 ズームレバーをＴ側にスライドする

チャプターが表示されます。

4 ジョグダイヤルでチャプターを選び、OK ボタンを押す

選んだチャプターの位置から、動画再生が始まります。

ズーム再生する

画像の細部が確認できます。

静止画をズーム再生する

1 再生モードにし、ジョグダイヤルでズーム再生したい静止画を選ぶ

2 ズームレバーをＴ側にスライドする

画像が拡大表示されます。
画面に表示された水色の枠は拡大表示されている位置を示します。
ズームレバーをＷ側にスライドすると、縮小表示されます。
OKボタンを◀ ▶ ▲▼へ動かすと、拡大表示する位置を移動できます。画面に表示されている枠の位置を見ながら、調整してください。
ズーム再生をやめて通常の大きさに戻すには、OKボタンを押します。

→Ｔ側にスライド→

←Ｗ側にスライド←

動画をズーム再生する

1 再生モードにし、ジョグダイヤルでズーム再生したい動画を選ぶ

2 動画の再生開始後、MENU ボタンを押す

3 ズームレバーを T 側にスライドする

画像が拡大表示されます。
画面に表示された水色の枠は拡大表示されている位置を示します。
ズームレバーを W 側にスライドすると、縮小表示されます。
OK ボタンを◀▶ ▲▼へ動かすと、拡大表示する位置を移動できます。画面に表示されている枠の位置を見ながら、調整してください。

4 OK ボタンを押す

拡大表示の状態を維持したまま再生されます。
拡大表示されているときは、画面の左上に［ 🔍 ］が表示されます。

メモ
- 再生を停止すると、ズーム再生は解除されます。

静止画を回転表示する

ポイント

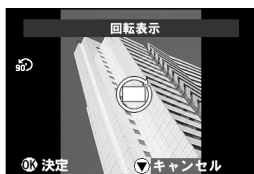
- カメラを回転して撮影した静止画の確認に便利です。
- 回転表示したままズーム再生もできます。

気をつけよう

- 動画は回転表示できません。

1 再生モードにし、ジョグダイヤルで回転表示したい静止画を選ぶ

2 OK ボタンを▼へ動かす

3 ジョグダイヤルで静止画を回転する

ジョグダイヤルを回すごとに、静止画が 90 度ずつ回転します。

4 OK ボタンを押す

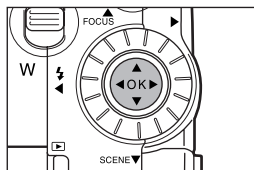
回転表示の状態がセットされます。
回転表示をやめて元に戻すには、OK ボタンを▼に動かします。

- 電源を切っても回転表示の状態は有効です。ただし、プロテクトされている静止画やロック状態の SD カード内にある静止画の回転表示の状態は無効になります。
- 回転表示した静止画は、サムネイル表示時も回転して表示されます。
- 他の機器やパソコンで再生した場合、回転表示されない場合があります。

再生表示を切り換える

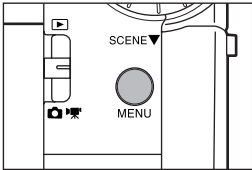
再生画像の表示状態を切り換えることができます。

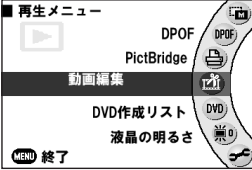
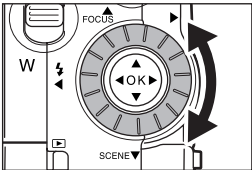
1 再生モードにし、ジョグダイヤルで画像を選ぶ

2 OK ボタンを押す

OKボタンを押すごとに、情報表示の状態が図のように切り換わります。

再生の設定を変更する

再生の設定変更のほかに、画像の保護や印刷に関する設定ができます。
電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりしても、設定内容は保持されます。

1 再生モードで MENU ボタンを押す

再生メニューが表示されます。

2 ジョグダイヤルでメニュー項目を選び、OK ボタンを押す

3 設定画面で目的の設定をする

設定が終了すると再生メニューに戻ります。

4 再生メニューを終了するときは、MENU ボタンを押す

再生状態になります。

再生メニュー設定時のボタン操作

ボタン ＼ 画面	メニュー項目表示時	設定項目表示時
OK	選択されている項目に決定	
OKボタン ▲	メニュー項目の選択	設定項目の選択
OKボタン ▼	メニュー項目の選択	設定項目の選択
OKボタン ▶	選択されている項目に決定	
OKボタン ◀	−	前の画面に戻る
ジョグダイヤル右	メニュー項目の選択	設定項目の選択
ジョグダイヤル左	メニュー項目の選択	設定項目の選択
MENU	再生の状態に戻る	再生メニューに戻る
モードレバー [カメラ] [ムービー]	撮影の状態に戻る	
モードレバー [再生]	再生の状態に戻る	

再生の応用

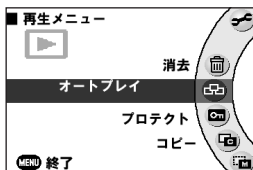
再生メニュー

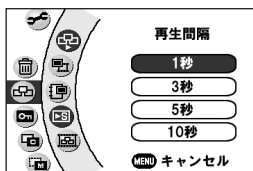
メニュー名	概要	参照
消去	画像の消去	113
オートプレイ	オートプレイをする画像の種類やパターンなどの設定、およびオートプレイの実行	95
プロテクト	画像を保護して、読み出し専用にする	97
コピー	画像のコピーをする	100
移動	画像を別のアルバムに移動する	102
DPOF	プリントしたい画像の選択、枚数指定や日付表示の設定	104
PictBridge	カメラをプリンターに直接つないで印刷する	107
動画編集	動画の不要部分を削除する	109
DVD作成リスト	保存した画像をDVDにコピーするためのリストを作成する	111
液晶の明るさ	液晶モニターの明るさ設定	81
セットアップ	セットアップメニューへ移動	120

オートプレイを設定・実行する

画像を順番に自動再生します。

オートプレイを設定する

1 再生メニューからジョグダイヤルで［オートプレイ］を選び、OKボタンを押す

オートプレイメニュー画面が表示されます。

2 ジョグダイヤルで設定項目を選び、OK ボタンを押す

実行する　　　　：オートプレイを実行する
対象画像　　　　：オートプレイをする画像の種類を選ぶ
アルバム　　　　：オートプレイをするアルバムを選ぶ
再生間隔　　　　：画像を切り換える間隔を選ぶ
アニメーション：画像切換えのパターンを選ぶ

3 ジョグダイヤルで目的の設定項目を選び、OK ボタンを押す

選んだ設定項目がセットされ、オートプレイメニュー画面に戻ります。

対象画像
静止画　　　　　：静止画だけ再生
動画　　　　　　：動画だけ再生
静止画＆動画　　：動画と静止画の両方を再生
DVD 作成リスト　：DVD 作成リストに設定した動画や静止画を再生
「DVDに収録する画像リストを作る」➡ 111ページ

アルバム
現在のアルバム　　：現在選ばれているアルバムだけを再生
すべてのアルバム　：すべてのアルバムを再生

再生間隔
１秒　：１秒間隔で画像を切り換える
３秒　：３秒間隔で画像を切り換える
５秒　：５秒間隔で画像を切り換える
１０秒：１０秒間隔で画像を切り換える

アニメーション
ランダム　　：ランダムで再生
パターン１　：パターン１で再生
パターン２　：パターン２で再生
なし　　　　：アニメーションを使用しない

- オートプレイの間、オートパワーオフは働きません。
- 再生間隔の設定内容は静止画のみ有効です。
- 対象画像で［DVD 作成リスト］が選択されている場合は、アルバムの設定は無効になります。

オートプレイを実行する

1 再生メニューからジョグダイヤルで［オートプレイ］を選び、OKボタンを押す

オートプレイメニュー画面が表示されます。

2 ジョグダイヤルで［実行する］を選び、OK ボタンを押す

オートプレイが始まります。
再生中にOKボタンを▲へ動かすと、一時停止／再開できます。OKボタンを▼へ動かして終了するまで、オートプレイは繰り返されます。

画像を保護する（プロテクト）

画像を誤って消去しないように、読み出し専用データにします。このことをプロテクトといいます。

- プロテクトされている画像でも、フォーマットをすると画像はすべて消去されてしまいます。消去された画像は元には戻りません。

画像を選んでプロテクトする

1 再生メニューからジョグダイヤルで［プロテクト］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルでプロテクトする画像を選び、OK ボタンを押す

プロテクトする画像の下に［ ］が表示されます。
プロテクトを解除したいときは、もう一度 OK ボタンを押します。
プロテクトしたい画像が複数ある場合は、この手順を繰り返します。前のアルバム／次のアルバムへは、OK ボタンを◀ ▶ へ動かして移動できます。

3 OK ボタンを▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

プロテクトが実行され、再生メニューに戻ります。
プロテクトを実行しないときは、［キャンセル］を選び、OK ボタンを押します。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順 2 で、ズームレバーを T 側にスライドします。
拡大表示で W 側にスライドすると、プロテクト設定の画面に戻ります。

アルバム内の全画像をプロテクトしたいときは

手順 2 で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

メモ

- プロテクトされている画像には再生画面やプロテクト設定時に［ ］が表示されます。
- SD カード全体をプロテクトするには、「誤消去防止について」（ 19 ページ）をご覧ください。
- 大量の画像を一度にプロテクトすると、処理に数時間かかる場合があります。

アルバムをプロテクトする

アルバム内のすべての画像をプロテクトすることができます。

1 再生メニューの［プロテクト］を選び、OK ボタンを押す

2 ズームレバーを W 側にスライドする

3 ジョグダイヤルでプロテクトするアルバムを選び、OK ボタンを押す

プロテクトするアルバムの下に［ ］（黒色）が表示されます。
プロテクトを解除したいときは、もう一度 OK ボタンを押します。
プロテクトしたいアルバムが複数あるときは、この手順を繰り返します。
プロテクトされている画像とプロテクトされていない画像が混在しているアルバムの下には、［ ］（灰色）が表示されます。

4 OK ボタンを▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

プロテクトが実行され、再生メニューに戻ります。
中止するときは、［キャンセル］を選び、OK ボタンを押します。

すべてのアルバムをプロテクトしたいときは

手順 3 で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

プロテクトを解除する

1 再生メニューの［プロテクト］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルでプロテクトを解除する画像を選び、OK ボタンを押す

プロテクトを解除する画像の下の［ ］が消えます。
解除を取り消したいときは、もう一度 OK ボタンを押します。
解除したい画像が複数ある場合は、この手順を繰り返します。

3 OK ボタンを▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

プロテクトの解除が実行され、再生メニューに戻ります。
中止するときは、［キャンセル］を選び、OK ボタンを押します。

アルバム内の全画像をプロテクト解除するには

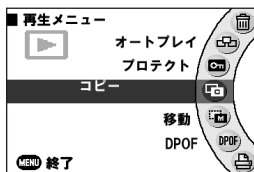
手順 2 で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて解除］を選び、OK ボタンを押します。

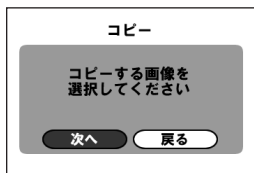
- DPOF 設定された画像には、［ ］が表示され、プロテクト解除できません。
  解除するときは、DPOF の設定を解除します。
  「DPOF設定を解除する」 ⇨ 106ページ

画像をコピーする

気をつけよう

- 画像のコピーをするときは、AC アダプターを接続した状態で行ってください。
  コピー中にバッテリー残量がなくなると、コピーを中止して自動的に電源が切れます。

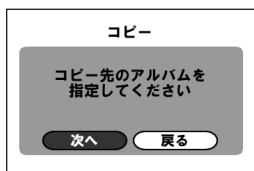
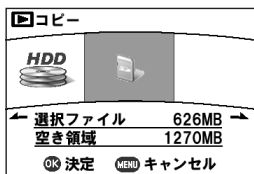
1 再生メニューからジョグダイヤルで［コピー］を選び、OK ボタンを押す

メッセージが表示されます。

2 ジョグダイヤルで［次へ］を選び、OK ボタンを押す

3 ジョグダイヤルでコピーする画像を選び、OK ボタンを押す

コピーする画像の下に［ ］が表示されます。
コピー対象からはずしたいときは、もう一度OKボタンを押します。
コピーしたい画像が複数ある場合は、この手順を繰り返します。
前のアルバム／次のアルバムへは、OK ボタンを◀ ▶ へ動かして移動できます。

4 OK ボタンを▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

メッセージが表示されます。
コピーをしない場合は、［キャンセル］を選び、OK ボタンを押します。

5 ジョグダイヤルで［次へ］を選び、OK ボタンを押す

6 ジョグダイヤルでコピー先のドライブを選び、OK ボタンを押す

7 ジョグダイヤルでコピー先のアルバムを選び、OK ボタンを押す

新しいアルバムにコピーするときは、OKボタンを▼へ動かして［新規作成］を選び、OK ボタンを押します。ジョグダイヤルでアルバムの種類を選び、OK ボタンを押します。
コピーが終了すると再生メニューに戻ります。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順３で、ズームレバーをＴ側にスライドします。
拡大表示でＷ側にスライドすると、コピー設定の画面に戻ります。

アルバム内の全画像をコピーしたいときは

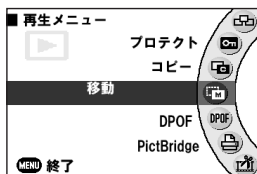
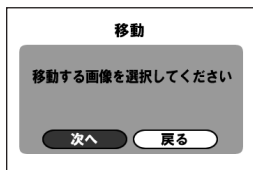
手順３で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

メモ
- 長時間の動画や大量の画像を一度にコピーすると、処理に数時間かかる場合があります。

画像を移動する

撮影した画像を別のアルバムに移動します。

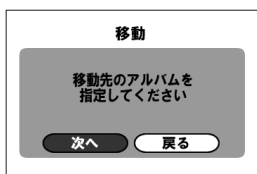
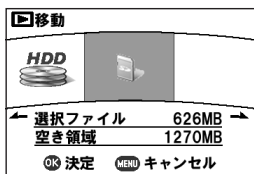
- 画像の移動をするときは、AC アダプターを接続した状態で行ってください。
  画像の移動中にバッテリー残量がなくなると、移動を中止して自動的に電源が切れます。

1 再生メニューからジョグダイヤルで［移動］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［次へ］を選び、OK ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで移動する画像を選び、OK ボタンを押す

移動する画像の下に［ ］が表示されます。
移動対象からはずしたいときは、もう一度 OK ボタンを押します。
移動したい画像が複数ある場合は、この手順を繰り返します。
前のアルバム／次のアルバムへは、OK ボタンを◀▶へ動かして移動できます。

4 OK ボタンを▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

メッセージが表示されます。
移動をしない場合は、［キャンセル］を選び、OK ボタンを押します。

5 ジョグダイヤルで［次へ］を選び、OK ボタンを押す

6 ジョグダイヤルで移動先のドライブを選び、OK ボタンを押す

移動元と移動先のドライブが同じときは「選択ファイル」とそのサイズは表示されません。
例：SD カードから移動するとき

7 ジョグダイヤルで移動先のアルバムを選び、OK ボタンを押す

新しいアルバムに移動するときは、OK ボタンを▼へ動かして［新規作成］を選び、OK ボタンを押します。
ジョグダイヤルでアルバムの種類を選び、OK ボタンを押します。
移動が終了すると再生メニューに戻ります。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順 3 で、ズームレバーを T 側にスライドします。
拡大表示で W 側にスライドすると、移動設定の画面に戻ります。

アルバム内の全画像を移動したいときは

手順 3 で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

メモ
- 長時間の動画や大量の画像を一度に移動すると、処理に数時間かかる場合があります。

プリント情報を書き込む（DPOF設定）

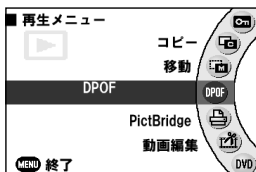
プリントしたい画像に、枚数指定や日付表示をDPOF形式（「用語」➡174ページ）で設定します。

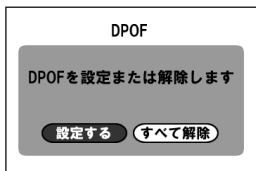
- SDカードをお店に持って行くだけで、簡単にプリントできます。
- DPOF対応プリンターを使えば、ご家庭でもプリントできます。

気をつけよう

- DPOF設定できるのは、SDカード内の静止画だけです。先にHDDからSDカードに画像をコピーしておいてください。
「画像をコピーする」➡100ページ

DPOFを設定する

1 再生メニューからジョグダイヤルで［DPOF］を選び、OKボタンを押す

再生ドライブがHDDに設定されている場合、「DPOFの対象画像はSDカード内の静止画だけです」とメッセージが表示されます。
ジョグダイヤルで［SDへ］を選び、OKボタンを押してください。

2 ジョグダイヤルで［設定する］を選び、OKボタンを押す

3 ジョグダイヤルで設定する画像を選び、OKボタンを▲▼へ動かして枚数を設定する

前のアルバム／次のアルバムへは、OKボタンを◀▶へ動かして移動できます。
枚数は1画像につき最大99枚まで設定できます。

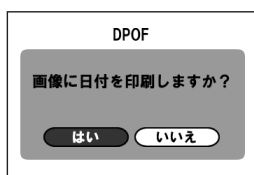
4 枚数設定が終わったら OK ボタンを押す

5 ジョグダイヤルで［決定］を選び、OK ボタンを押す

ファイル作成の確認のメッセージが表示されます。

6 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

日時の印刷確認のメッセージが表示されます。

7 ジョグダイヤルで［はい］または［いいえ］を選び、OK ボタンを押す

プリント情報のファイルが作成され、再生メニューに戻ります。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順 3 で、ズームレバーを T 側にスライドします。
拡大表示で W 側にスライドすると、DPOF 設定の画面に戻ります。

アルバム内の全画像をプリントしたいときは

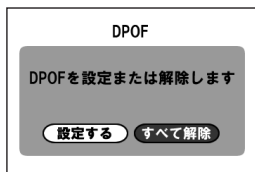
手順 3 で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。
次に、OK ボタンを▲▼へ動かして枚数を設定します。

- DPOF 設定されている画像には［ ］マークが表示されます。
- 指定できるプリント枚数は、1 画像につき 99 枚までです。また、同一 SD カード内でプリント指定できる画像数は、999 画像までです。ただし、同一 SD カード内で指定できる最大プリント数は 9,999 枚までに制限されます。
- 画像の日付は写真の右下隅にプリントされます。
- 写真にプリントする日付は、カメラに設定された日付によります。正しい日付を写真にプリントするためには、画像を撮影する前にカメラの日付設定をチェックしてください。
  「日付・時刻を合わせる」 ➪ 30ページ
- プリンターの種類によっては、DPOF に対応していない場合もありますので、ご注意ください。

DPOF 設定を解除する

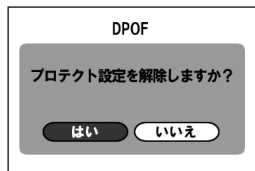
1 再生メニューからジョグダイヤルで［DPOF］を選び、OK ボタンを押す

再生ドライバが HDD に設定されている場合、「DPOF の対象画像は SD カード内の静止画だけです」とメッセージが表示されます。
ジョグダイヤルで［SD へ］を選び、OK ボタンを押してください。

2 ジョグダイヤルで［すべて解除］を選び、OK ボタンを押す

解除を確認するメッセージが表示されます。

3 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

プロテクト設定の解除を確認するメッセージが表示されます。

4 ジョグダイヤルで［はい］または［いいえ］を選び、OK ボタンを押す

はい　：DPOF、およびプロテクトが解除されます。
いいえ：DPOFは解除されますが、プロテクトは設定されたままです。

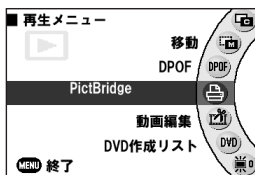
再生メニューに戻ります。

カメラから直接プリントする（PictBridge）

PictBridge（「用語」➪ 174ページ）に対応しているプリンターを使うと、パソコンを使わずにカメラから直接プリントできます。

気をつけよう

- 静止画を印刷するときは、AC アダプターを接続した状態で行ってください。
  印刷中にバッテリー残量がなくなると、印刷を中止して自動的に電源が切れます。
- PictBridgeに対応しているすべてのプリンターとの接続を保証するものではありません。
- プリンターとの接続中にUSBケーブルを抜くと、正常に動作しなくなる場合があります。

1 再生メニューからジョグダイヤルで［PictBridge］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルでプリントする画像を選び、OK ボタンを▲▼ へ動かして枚数を設定する

前のアルバム／次のアルバムへはOKボタンを◀▶ へ動かして移動できます。枚数は全部で最大 99 枚まで設定できます。

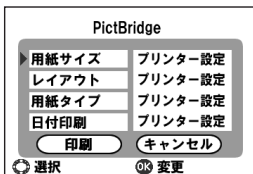
3 枚数設定が終わったら OK ボタンを押す

4 ジョグダイヤルで［決定］を選び、OK ボタンを押す

プリンター接続のメッセージが表示されます。

5 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

接続が完了すると、印刷設定画面が表示されます。

6 ジョグダイヤルで設定項目を選び、OK ボタンを押す

用紙サイズ　：印刷する用紙サイズを選ぶ
レイアウト　：印刷レイアウトを選ぶ
用紙タイプ　：印刷する用紙のタイプを選ぶ
日付印刷　　：撮影日時を印刷するか選ぶ

設定できる値は、接続するプリンターによって異なります。
用紙サイズを変更すると、レイアウトと用紙タイプの値はクリアされます。

7 ジョグダイヤルで設定内容を変更し、OK ボタンを押す

8 OK ボタンを▼に動かして［印刷］を選び、OK ボタンを押す

印刷が始まります。
印刷が終了すると、手順2の枚数設定の画面に戻ります。
追加の印刷がなければ、MENU ボタンを押します。
「USB ケーブルを抜いてください」というメッセージが表示されたら、カメラ、プリンターから USB ケーブルをはずします。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順 2 で、ズームレバーを T 側にスライドします。
拡大表示で W 側にスライドすると、PictBridge 設定の画面に戻ります。

アルバム内の全画像をプリントしたいときは

手順 2 で枚数を設定する前に OK ボタンを押してから、ジョグダイヤルで［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。
次に、OK ボタンを▲▼へ動かして枚数を設定します。

- 指定できるプリント枚数は 99 枚までです。
- プリンターの種類によっては、PictBridge に対応していない場合もありますので、ご注意ください。
- プリンターに接続するときは、AC アダプターを使ってください。
- HDD と SD カードの画像は同時に指定できません。

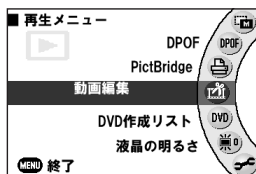
動画を編集する

指定したポイント（位置）より前、または後ろの部分を削除することができます。

気をつけよう

- 動画を編集するときは、AC アダプターを接続した状態で行ってください。
  印刷中にバッテリー残量がなくなると、編集を中止して自動的に電源が切れます。
- 編集した動画は、元には戻せません。
  元の動画を残しておきたいときは、編集する前にコピーしてください。
  「画像をコピーする」 ➪ 100ページ
- プロテクトされている 動画は、編集できません。

1 再生モードで編集する動画を表示する

2 MENUボタンを押し、再生メニューからジョグダイヤルで［動画編集］を選び、OK ボタンを押す

動画編集画面が表示されます。

3 OK ボタンを▲へ動かして再生する

4 編集するポイントで OK ボタンを▲へ動かして、再生を一時停止する

ジョグダイヤルでコマ送り（戻し）しながら、編集するポイントを表示します。

5 ポイントを決めたら、OK ボタンを押す

6 ジョグダイヤルで編集内容を選び、OK ボタンを押す

編集内容を確認するメッセージが表示されます。
前を削除：
　指定したポイントより前の部分を削除する
後ろを削除：
　指定したポイントより後ろの部分を削除する
サムネイル画面に指定：
　指定したポイントを通常表示画面およびサムネイル画面にする
戻る：動画編集画面に戻る

7 ジョグダイヤルで［はい］または［いいえ］を選び、OK ボタンを押す

編集の終了後、再生メニューに戻ります。

動画編集時のボタン操作

状態 / ボタン	停止	再生	一時停止
OK	表示切換	編集ポイント指定	
OKボタン ▲	再生	一時停止	再生
OKボタン ▼	－	停止	
OKボタン ◀	－	ワンタッチリプレイ	
OKボタン ▶	－	ワンタッチスキップ	
ジョグダイヤル左	－	早戻し	コマ戻し
ジョグダイヤル右	－	早送り	コマ送り

サムネイル画面

・動画編集で「サムネイル画面に指定」をしていない動画は、先頭の場面が自動的にサムネイル画面になっています。
・特徴的な場面をサムネイル画面に指定しておけば、サムネイル表示したときに目的の動画を探しやすくなります。
・「サムネイル画面に指定」をしている動画を編集すると、編集で削除した部分に「サムネイル画面に指定」した場面が含まれていなくても、編集後の先頭場面が自動的にサムネイル画面となります。

- 空き容量がない場合は、動画編集できません。画像を消去するか、パソコンなどに画像を移行して、空き容量を増やしてください。
- 指定したポイントと実際に編集されるポイントは、多少ずれることがあります。

DVDに収録する画像リストを作る

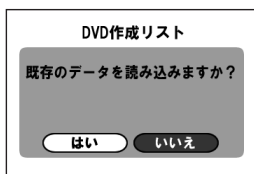
HDDに保存されている画像から、DVDに収録する画像をあらかじめ選びだしておくことができます。作成した画像リストは、パソコンと付属のアプリケーションソフトウェアを使って、簡単にDVDを作成することができます。
「DVD作成リストを使ってDVDを作成する」 ➪ 147ページ
また、作成した画像リストは、オートプレイで再生して確認することもできます。
「オートプレイを設定・実行する」 ➪ 95ページ

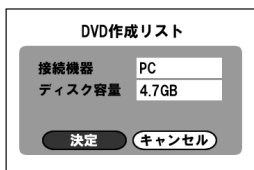
気をつけよう

- DVD作成リストで設定できる画像は、HDDに保存されている画像だけです。

1 再生メニューからジョグダイヤルで［DVD作成リスト］を選び、OKボタンを押す

SDカードが再生するドライブに設定されていると、「DVD作成リストの対象画像はHDD内の画像だけです」とメッセージが表示されます。
ジョグダイヤルで［HDDへ］を選び、OKボタンを押します。

2 ジョグダイヤルで［はい］または［いいえ］を選び、OKボタンを押す

［はい］を選ぶと既存のデータを読み込みます。
［いいえ］を選ぶと既存のデータをクリアして、新規データを作成します。既存のデータがない場合、この画面は表示されません。

3 ジョグダイヤルで［ディスク容量］を選び、OKボタンを押す

ディスク容量は、1.4GB、4.7GB、8.5GBの3種類から選べます。
1.4GB：8cm DVD
4.7GB：12cm DVD
8.5GB：12cm DVD DL

4 ジョグダイヤルでDVDの容量を選び、OKボタンを押す

5 ジョグダイヤルで［決定］を選び、OKボタンを押す

6 ジョグダイヤルでDVDに収録する画像を選び、OKボタンを押す

選んだ画像の下に［ ］が表示されます。
この手順を繰り返してDVDに収録する画像を選びます。

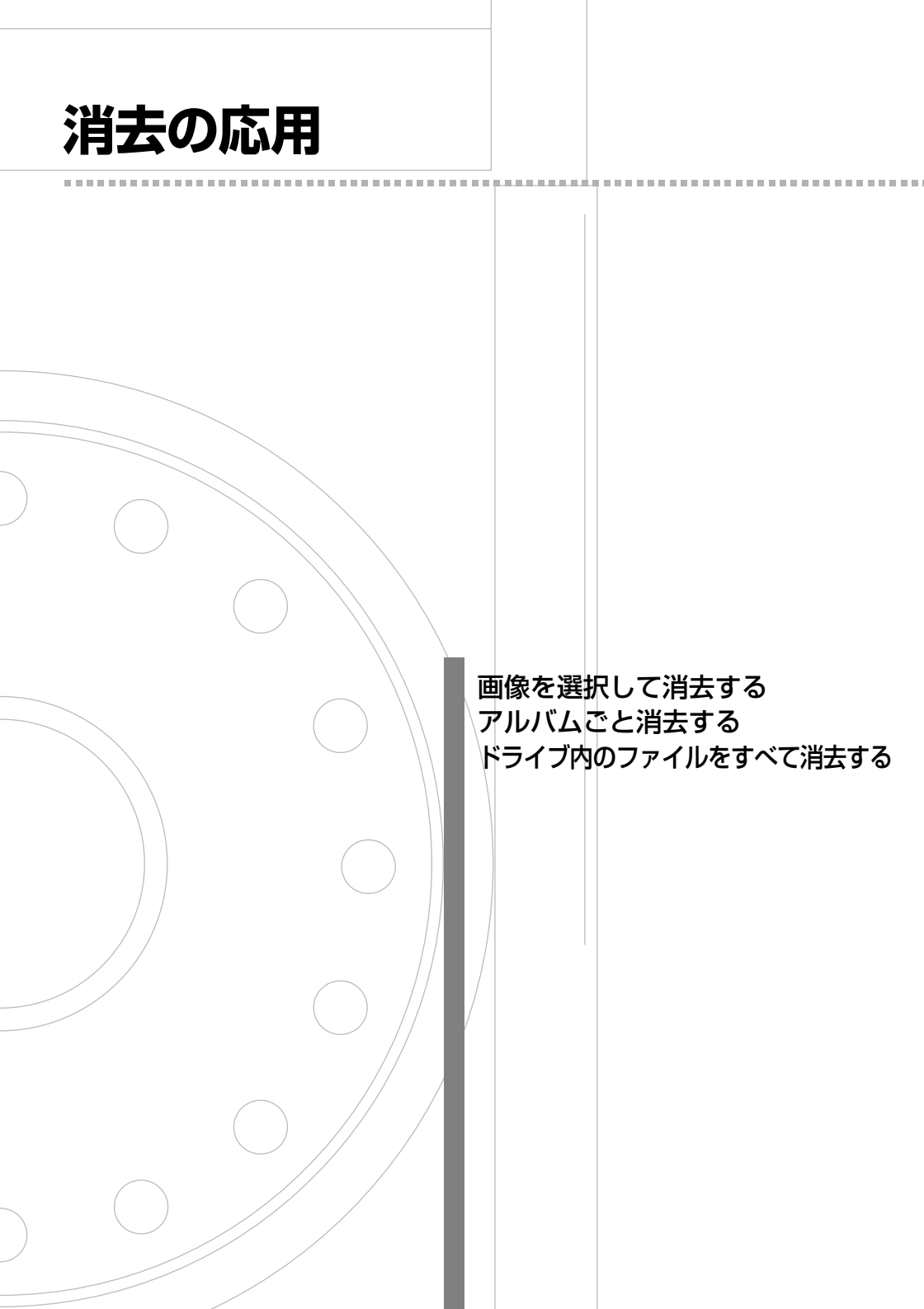
前のアルバム、次のアルバムへは、OKボタンを◀▶へ動かして移動できます。

7 OKボタンを▼ に動かして［決定］を選び、OKボタンを押す

DVD作成リストファイルが作成され、再生メニューに戻ります。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順6で、ズームレバーをT側にスライドします。
拡大表示でW側にスライドすると、DVD作成リスト設定の画面に戻ります。

アルバム内の全画像を収録したいときは

手順6で、OKボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OKボタンを押します。

メモ

- 作成するDVDのメニュー背景画面に撮影した静止画を指定することができます。DVDに収録する画像を選ぶときに、メニュー背景画面にしたい静止画を REC ボタンを押して指定します。指定した画像の下に［ ］（背景画面に使用）または［ ］（背景画面に使用、およびDVDにも収録）が表示されます。
- 選んだ画像の総容量が指定のDVD容量を超えた場合は、再度1枚のディスクに収まるように画像を選びなおしてください。
- 1枚のディスクに収録できる画像数は、99画像までです。
- DVD作成リストに設定されている画像には［ ］マークが表示されます。
  DVD作成リストに設定されている画像を消去する場合は、プロテクトを解除してください。DVDを作成する前にDVD作成リストに設定されている画像を消去した場合は、DVD作成時にエラーが出る場合がありますので、DVD作成リストを作り直してください。
  「画像を保護する（プロテクト）」 ➡ 97ページ

消去の応用

画像を選択して消去する
アルバムごと消去する
ドライブ内のファイルをすべて消去する

画像を選択して消去する

選んだ複数の画像をまとめて消去できます。

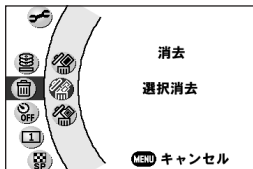
気をつけよう

- 一度消去した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は、消去できません。
  「画像を保護する（プロテクト）」➪ 97 ページ

1 MENU ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［消去］を選び、OK ボタンを押す

消去メニューが表示されます。

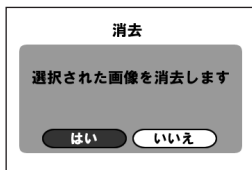
3 ジョグダイヤルで［選択消去］を選び、OK ボタンを押す

4 ジョグダイヤルで消去したい画像が保存されているアルバムを選び、ズームレバーを T 側にスライドする

5 ジョグダイヤルで消去する画像を選び、OK ボタンを押す

選んだ画像の下に［ 🗑 ］が表示されます。
消去する画像が複数あるときは、この手順を繰り返します。
前のアルバム、次のアルバムへは、OKボタンを◀ ▶ へ動かして移動できます。
プロテクトされている画像は選べません。

6 OK ボタンを▼ に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

消去を確認するメッセージが表示されます。

7 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

消去が終了すると、メニューに戻ります。
消去しない場合は［いいえ］を選び、OK ボタンを押します。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順 5 で、ズームレバーを T 側にスライドします。
拡大表示で W 側にスライドすると、消去の画面に戻ります。

アルバム内の全画像を消去したいときは

手順 5 で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

- SD カードがロック状態の場合、SD カード内の画像は消去できません。
  「誤消去防止について」➡ 19ページ
- アルバム内のすべての画像を消去しても、アルバムは消去されません。アルバムを消去するには、アルバムの消去を行ってください。
  「アルバムごと消去する」➡ 116ページ

アルバムごと消去する

複数のアルバムをまとめて消去できます。

気をつけよう

- 一度消去した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は、消去できません。
  「画像を保護する（プロテクト）」➡ 97ページ

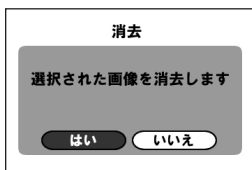
1 消去メニューから、ジョグダイヤルで［選択消去］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで消去するアルバムを選び、OK ボタンを押す

選んだアルバムの下に［🗑］が表示されます。
消去するアルバムが複数あるときは、この手順を繰り返します。

3 OK ボタンを▲▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

消去を確認するメッセージが表示されます。

4 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

消去が終了すると、メニューに戻ります。
消去しないときは［いいえ］を選び、OK ボタンを押します。
プロテクトされている画像がある場合は、プロテクトされている画像以外が消去されます。

ドライブ内の全アルバムを消去したいときは

手順２で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

メモ

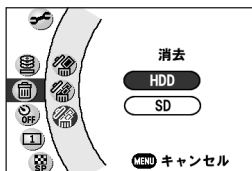
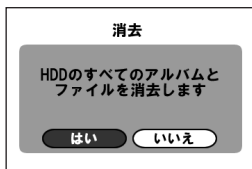
- SD カードがロック状態の場合、SD カード内のアルバムは消去できません。
  「誤消去防止について」➡ 19ページ

ドライブ内のファイルをすべて消去する

選んだドライブの内容をすべて消去できます。

- 一度消去した画像は元に戻せません。
- プロテクトされている画像は、消去できません。
  「画像を保護する（プロテクト）」➡ 97 ページ

1 消去メニューから、ジョグダイヤルで［全画像消去］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで消去するドライブを選び、OK ボタンを押す

消去を確認するメッセージが表示されます。

3 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

消去が終了すると、メニューに戻ります。
消去しないときは［いいえ］を選び、OK ボタンを押します。
プロテクトされている画像がある場合は、プロテクトされている画像以外が消去されます。

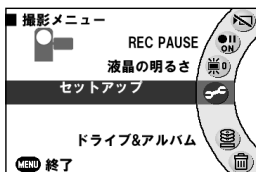
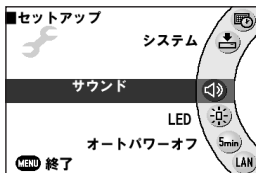
- SD カードがロック状態の場合、SD カードの内容は消去できません。
  「誤消去防止について」➡ 19ページ

カメラの基本設定

カメラの基本設定を変更する

このカメラを使うときの環境を設定します。このことをセットアップといいます。
電源を切ったり、オートパワーオフが働いたりしても、設定内容は保持されます。

1 MENU ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［セットアップ］を選び、OK ボタンを押す

3 ジョグダイヤルでメニュー項目を選び、OK ボタンを押す

選んだメニュー項目の設定項目が表示されます。

4 ジョグダイヤルで目的の設定項目を選び、OK ボタンを押す

選んだ設定項目がセットされ、セットアップメニューに戻ります。

5 セットアップメニューを終了するときは、モードレバーで目的のモードに移動する

セットアップメニュー設定時のボタン操作

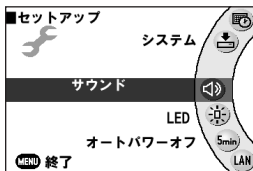
ボタン＼画面	メニュー項目表示時	設定項目表示時
OK	選択されている項目に決定	
OKボタン ▲	メニュー項目の選択	設定項目の選択
OKボタン ▼	メニュー項目の選択	設定項目の選択
OKボタン ▶	選択されている項目に決定	−
OKボタン ◀	撮影メニューまたは 再生メニューに戻る	前の画面に戻る
ジョグダイヤル右	メニュー項目の選択	設定項目の選択
ジョグダイヤル左	メニュー項目の選択	設定項目の選択
MENU	元のメニューに戻る	セットアップメニューに戻る
モードレバー [📷] [🎥]	撮影の状態に戻る	
モードレバー [▶]	再生の状態に戻る	

セットアップメニュー

メニュー名	概要	参照
サウンド	起動音、操作音、シャッター音の設定	122
LED	フロントLEDの設定	123
オートパワーオフ	オートパワーオフの設定	124
LAN設定	HDD&DVDレコーダーとのLAN接続設定	156
ビデオ出力	カメラと接続する映像機器のビデオ出力方式を設定	125
LANGUAGE	画面に表示される言語の設定	126
日時設定	日時と日時表示形式の設定	30
システム	システムのリセットやドライブのフォーマットの実行など	127

サウンド

カメラを操作したときの音（カメラ起動時／操作時／静止画撮影時）を設定します。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［サウンド］を選び、OK ボタンを押す

サウンド設定画面が表示されます。

2 ジョグダイヤルで項目を選び、OK ボタンを押す

起動　　　：カメラ起動時の音を設定
操作　　　：ボタンを押すなどの操作時の音を設定
シャッター：シャッターがきれたときの音を設定

3 ジョグダイヤルで［オン］または［オフ］を選び、OK ボタンを押す

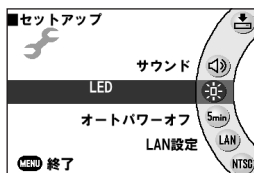
選んだ設定がセットされ、サウンド設定画面に戻ります。
他の項目も続けて設定するときは、手順2と3を繰り返します。

オン：音を鳴らす
オフ：音を鳴らさない

4 MENU ボタンを押して、セットアップメニューに戻る

LEDを設定する

撮影時のLEDの点灯／非点灯を設定します。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［LED］を選び、OKボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［AF補助光］または［録画LED］を選び、OKボタンを押す

AF補助光　：静止画撮影で被写体が暗いとき、ピント合わせ用補助光の点灯／非点灯を設定
録画LED　：画像撮影中の点灯／非点灯を設定

3 ジョグダイヤルで［オン］または［オフ］を選び、OKボタンを押す

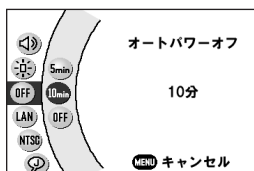
オン：LEDを点灯させる
オフ：LEDを点灯させない

4 MENUボタンを押して、セットアップメニューに戻る

オートパワーオフ

カメラを一定の時間操作しなかったとき、自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［オートパワーオフ］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで時間を選び、OK ボタンを押す

選んだ時間がセットされ、セットアップメニューに戻ります。

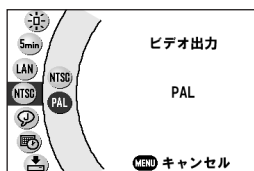
５分　：５分間、カメラを操作しなかったとき電源が切れる
１０分：１０分間、カメラを操作しなかったとき電源が切れる
オフ　：自動的に電源を切らない

- オートプレイの間は、この機能は働きません。
- HDD&DVD レコーダー、パソコン、プリンターなどと接続している間は、この機能は働きません。
- オートパワーオフから動作の状態に戻すには、POWER ボタンで電源を入れます。

ビデオ出力

カメラを接続する映像機器のビデオ方式に合わせて設定します。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［ビデオ出力］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで［NTSC］または［PAL］を選び、OK ボタンを押す

選んだ出力方式がセットされ、セットアップメニューに戻ります。

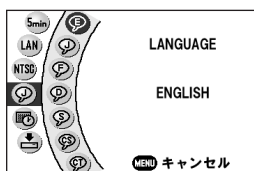
NTSC　：NTSC 方式（➪「用語」174 ページ）
PAL　　：PAL 方式（➪「用語」174 ページ）

日本国内で家庭に普及しているテレビは NTSC 方式です。

LANGUAGE

画面に表示される言語を設定します。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［LANGUAGE］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで言語を選び、OK ボタンを押す

選んだ言語がセットされ、セットアップメニューに戻ります。

ENGLISH　：英語
日本語　：日本語
FRANÇAIS　：フランス語
DEUTSCH　：ドイツ語
ESPAÑOL　：スペイン語
中国語簡体字　：中国語（簡体字）
中國語繁體字　：中国語（繁体字）

システム

HDD 保護機能を使う

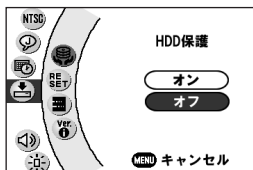
万一本体を落下させてしまった場合に、カメラの落下を検知して HDD へのアクセスを停止し、HDD を保護する機能です。

- 撮影中にカメラを急激に動かしたり、乗り物などに乗りながら撮影していた場合などは、センサーが作動して撮影が停止されることがあります。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［システム］を選び、OK ボタンを押す

システムメニューが表示されます。

2 ジョグダイヤルで［HDD 保護］を選び、OK ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで［オン］または［オフ］を選び、OK ボタンを押す

選んだ設定がセットされ、システムメニューに戻ります。

オン：HDD 保護を行う
オフ：HDD 保護を行わない

- HDD 保護を設定していても、カメラの取扱いによっては、HDD が破損したり保存データが破壊されたりする場合があります。HDD 保護は、HDD や保存データを保証するものではありません。
- 落下を検知して HDD へのアクセスを停止すると「HDD にアクセスできませんでした」と表示されますので、電源を入れ直してください。
- 動画撮影中に落下を検知して HDD へのアクセスを停止すると、動画ファイルが正常に作成できないため、再生ができません。この動画は消去してください。

システムをリセットする

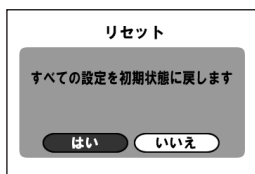
カメラの設定内容を購入時の状態に戻します。ただし、ドライブ＆アルバム、ホワイトバランスのプリセットデータ、LAN設定、ビデオ出力、言語、日時設定は戻りません。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［システム］を選び、OKボタンを押す

システムメニューが表示されます。

2 ジョグダイヤルで［リセット］を選び、OKボタンを押す

確認のメッセージが表示されます。

3 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

リセットが終了すると、システムメニューに戻ります。

ドライブをフォーマットする

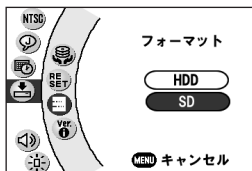
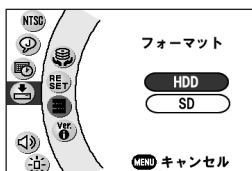
HDDやSDカードを初期化します。フォーマット（「用語」➡174ページ）すると、HDDまたはSDカードに記録されている画像や作成したアルバムがすべて消去されます。

気をつけよう

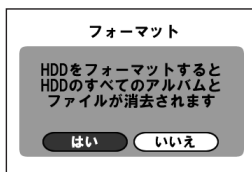
- フォーマットするときは、ACアダプターを接続した状態で行ってください。
- フォーマットすると、プロテクトされている画像も消去されます。また、画像以外のデータもすべて消去されます。フォーマットする前に、必ず確認してください。
  「画像を保護する（プロテクト）」➡97ページ
- SDカードやHDDに異常があるときは、正常にフォーマットできません。
- SDカードを初めて使うときは、その前に必ずこのカメラでフォーマットしてください。また、SDカードは最大容量を保つように、定期的にフォーマットして雑多なファイルを取り除くことをおすすめします。

1 セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［システム］を選び、OKボタンを押す

システムメニューが表示されます。

2 ジョグダイヤルで［フォーマット］を選び、OK ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで［HDD］または［SD］を選び、OK ボタンを押す

フォーマットを確認するメッセージが表示されます。

HDD　：HDD をフォーマットする
SD　　：SD カードをフォーマットする

4 ジョグダイヤルで［はい］を選び、OK ボタンを押す

メッセージが表示されます。

- SD カードがロック状態の場合、SD カードのフォーマットはできません。
  「誤消去防止について」➡ 19ページ
- カメラに SD カードがはいっていないと、［SD］は選べません。

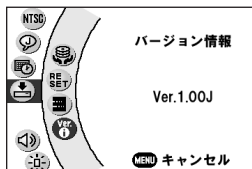
- HDD の動作環境を良好な状態に保つために、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
  「HDDの使い方について」➡ 18ページ

バージョン情報表示

カメラのバージョン情報を表示します。

1 **セットアップメニューから、ジョグダイヤルで［システム］を選び、OKボタンを押す**

システムメニューが表示されます。

2 **ジョグダイヤルで［バージョン情報］を選ぶ**

バージョン情報が表示されます。
MENU ボタンを押すと、セットアップメニューに戻ります。

他の機器と接続する

テレビと接続する

クレードルや接続アダプターを使ってカメラとテレビを接続すると、テレビ画面で再生や撮影を楽しむことができます。
再生・撮影の操作には、リモコンを使うと便利です。

- 機器の接続を行うときは、必ずすべての接続機器の電源を切ってください。
  電源を入れたまま機器の接続を行うと、画面が乱れたり、正常に画像が表示されないことがあります。
- カメラを接続する映像機器のビデオ方式にあわせて事前にビデオ出力を切り換えておいてください。
  「ビデオ出力」➡ 125ページ

A/V OUT USB

A/V OUT USB LAN

HDD&DVDレコーダーと接続する

クロス
ケーブル

LAN（Ether）端子へ

ルーターを使ってHDD&DVDレコーダーと接続する（例：ADSL）

ADSLモデム
（ルーター内臓タイプ）

電話回線

LAN（Ether）端子へ

ストレート
ケーブル

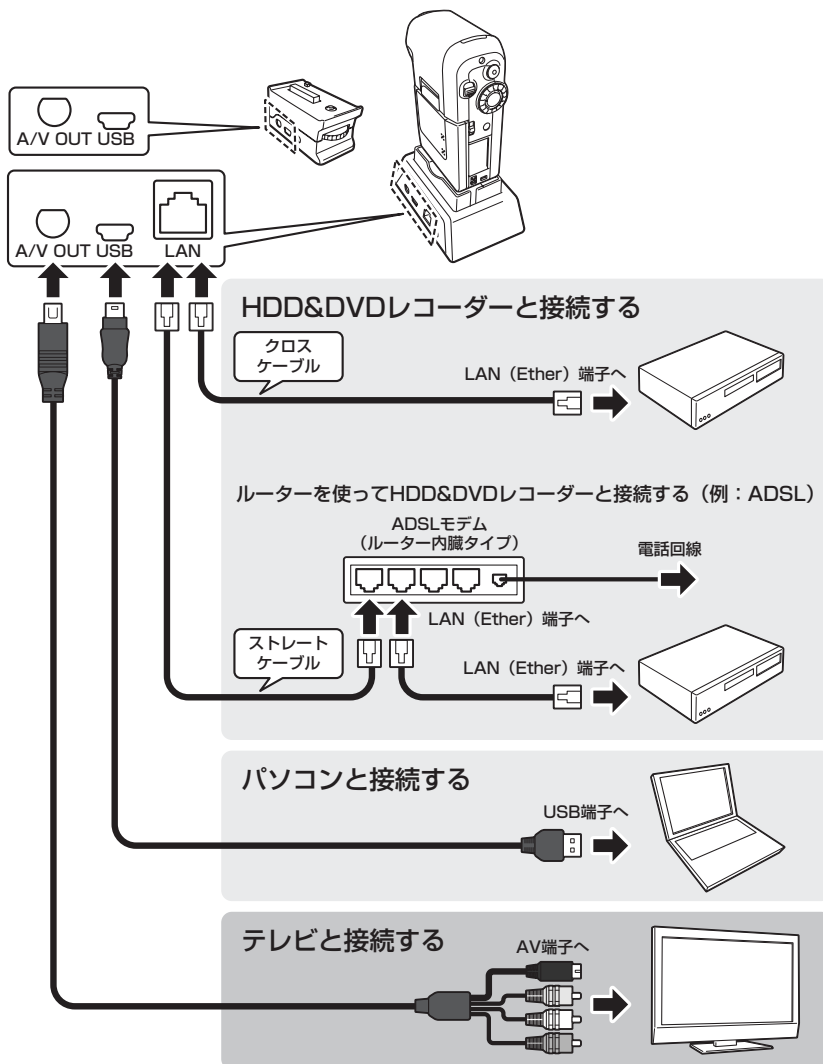
LAN（Ether）端子へ

パソコンと接続する

USB端子へ

テレビと接続する

AV端子へ

準備

カメラの電源が切れていることを確認してください。
クレードルを使ってテレビと接続するときは、クレードルと AC アダプターを接続した後、カメラをクレードルにセットしてください。(➡ 26 ページ)
接続アダプターを使ってテレビと接続するときは、カメラに接続アダプターを取り付けた後、接続アダプターと AC アダプタを接続してください。

テレビと接続して再生する

1 **付属の AV ケーブルのプラグをクレードル、または接続アダプターの A/V OUT 端子に接続する**

2 **AV ケーブルのプラグをテレビの音声・映像入力端子に接続する**

3 **カメラ、テレビの電源を入れる**

クレードルのPOWERボタンを押す、または液晶モニターを開いてカメラの電源を入れると、再生モードで起動します。

4 **テレビの入力を切り換える**

テレビにカメラの画像が表示されます。

5 **ジョグダイヤル、またはリモコンの ↷ ／ ↪ ボタンで再生する画像を選ぶ**

動画を再生するには、OK ボタンを ▲ に動かすか、リモコンの ▲ ボタンを押します。

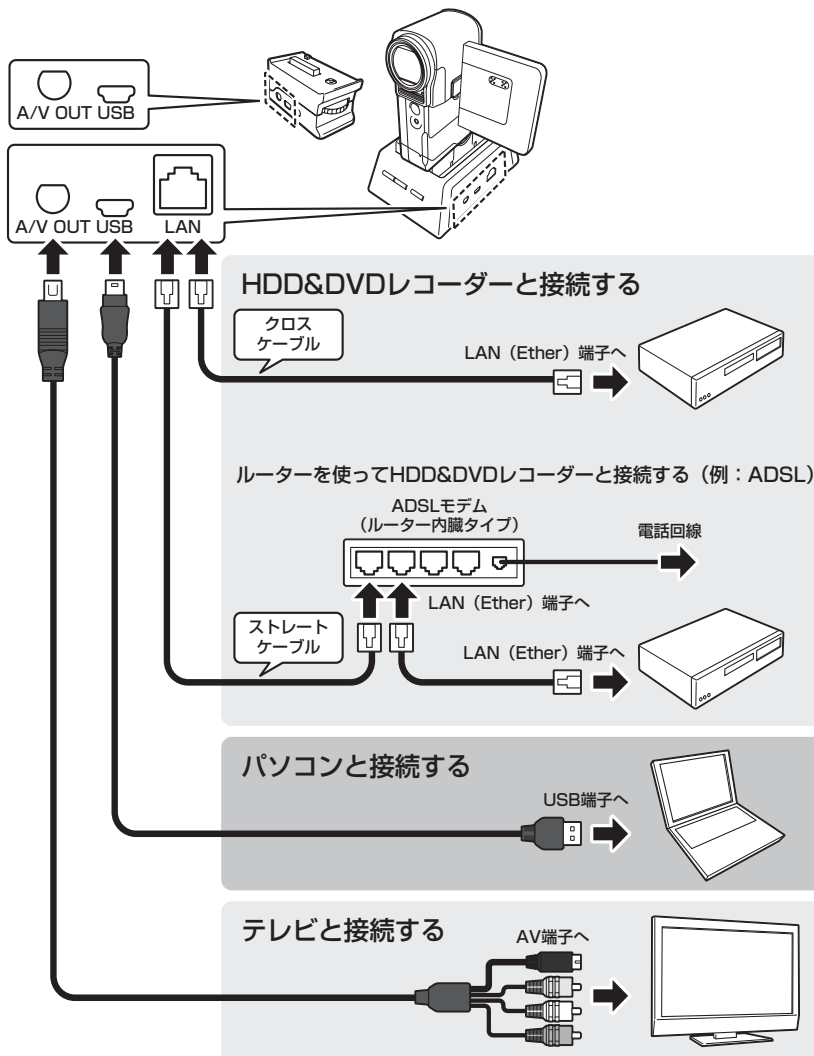
- カメラをクレードルから取りはずすときは、必ずカメラの電源を切ってください。

- カメラを撮影モードに切り換えると、クレードルにセットしたまま撮影することもできます。
- 撮影前の画像は再生画像などと比べると、多少不鮮明になります（解像度が低くなります）。
- PAL 方式のとき、撮影モードではテレビなどの映像出力装置に出力できません。

パソコンと接続する

カメラとパソコンを接続すると、カメラの画像をパソコンにコピー・移動したり、DVD に収録したりできます。詳細は、「パソコンで画像を活用する」（➡ 139 ページ）をご覧ください。

準備

カメラの電源が切れていることを確認してください。
クレードルを使ってパソコンと接続するときは、クレードルと AC アダプターを接続した後、カメラをクレードルにセットしてください。（➡ 26 ページ）
接続アダプターを使ってパソコンと接続するときは、カメラに接続アダプターを取り付けた後、接続アダプターと AC アダプタを接続してください。
カメラとパソコンの接続は「東芝デバイス検出」によって監視されています。そのため、他の接続監視ツールが起動していると、「東芝デバイス検出」が正常に機能しない場合があります。カメラとパソコンを接続するときは、他の監視ツールは終了しておいてください。

1 クレードル、または接続アダプターのUSB端子とパソコンのUSBポートを付属のUSBケーブルで接続する

2 クレードルのUSBボタンを押す、またはカメラの液晶モニターを開く

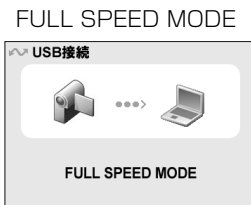
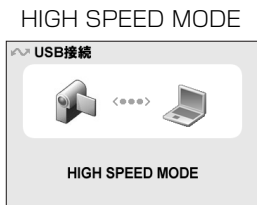
カメラの電源がはいり、USBモードになります。パソコンの画面にしたがって各OSの標準ドライバをインストールしてください。
カメラとパソコンが正常に接続されると、接続環境に応じてカメラの液晶モニターに「HIGH SPEED MODE」(「用語」 ➪ 174ページ)、または「FULL SPEED MODE」(「用語」 ➪ 174ページ)と表示されます。

- USBドライバがインストールされると、次からはUSBモードにしただけでパソコンがカメラを自動的に認識します。
- USBケーブルを接続するときは、端子の向きや形状に合わせて、それぞれ接続してください。
- カメラとパソコンが接続されているとき、オートパワーオフは、働きません。

- 「FULL SPEED MODE」で接続している場合、カメラはプロテクトの状態となり、パソコンからカメラへの書き込みはできません。

HIGH SPEED MODEとFULL SPEED MODEについて

カメラとパソコンの接続環境によって、接続モードは異なります。
どちらのモードで接続しているかは、カメラの画面で確認することができます。

HIGH SPEED MODE

FULL SPEED MODE

「FULL SPEED MODE」で接続されている場合、カメラはプロテクトの状態になります。
そのため、パソコンからカメラへの書き込みができません。また、ACDSeeの一部の機能が使用できなくなります。
「HIGH SPEED MODE」で接続するためには、お使いのパソコンが「USB2.0」に対応している必要があります。
カメラと接続する前に、お使いのパソコンをご確認ください。

パソコンからカメラを取りはずす

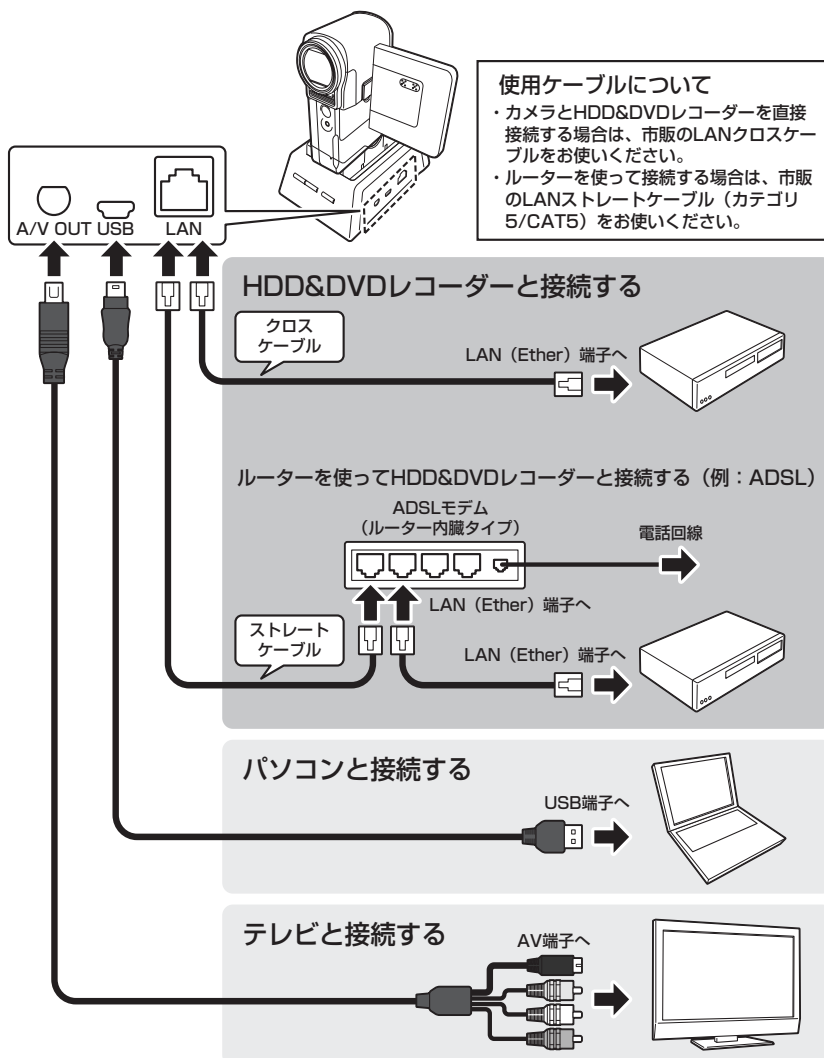
1 パソコンのデスクトップ上で、右下にあるタスクトレイの「 」をクリックする

2 メッセージにしたがって操作し、操作が終了したらUSBケーブルを取りはずす

HDD&DVD レコーダーと接続する

カメラとHDD&DVD レコーダーを接続すると、カメラの 動画をHDD&DVD レコーダーのHDD に転送したり、DVDに収録したりできます。詳細は、「HDD&DVD レコーダーに動画を転送する」（ ➡ 160 ページ）をご覧ください。

気をつけよう

- 接続可能なHDD&DVD レコーダーは、東芝製の「ネット de ダビング機能」が搭載されているモデルに限ります。
- LAN ケーブルは 接続形態に合わせて、お客さまでご用意ください。

準備

HDD&DVD レコーダーに接続する前に、必ず LAN 設定をしてください。
「HDD&DVD レコーダーに接続するための LAN 設定をする」（➡ 156 ページ）
カメラの電源が切れていることを確認してください。
クレードルと AC アダプターを接続した後、カメラをクレードルにセットしてください。
（➡ 26 ページ）

1 クレードルのLAN端子とHDD&DVDレコーダーのEther端子／LAN端子またはネットワーク機器の端子を LAN ケーブル（別売）で接続する

HDD&DVD レコーダーの端子名称は、機種によって異なる場合があります。
クレードルとHDD&DVDレコーダーを直接LANケーブルで接続する場合は、クロスタイプのLANケーブルを使ってください。既存のネットワークに接続する場合は、接続するネットワーク機器の取扱説明書をご覧ください。

2 HDD&DVD レコーダーの電源を入れる

HDD&DVD レコーダーが起動して、録画／再生が可能になるまでお待ちください。

3 クレードルの LAN ボタンを押す

カメラが LAN モードで起動し、クレードルの LAN LED が点灯します。

パソコンで画像を活用する

ソフトウェアについて

この取扱説明書では付属のソフトウェアのインストール方法と、簡単な使用方法を説明しています。この取扱説明書は、お客様がお使いのパソコンの基本的な使用方法に関する知識をお持ちになっていることを前提として書いています。パソコンの基本的な使用方法については、お使いのパソコンまたはOSの取扱説明書をご覧ください。

付属のソフトウェアについて

付属のCD-ROMには、次のソフトウェアが収録されています。

- ACDSee™ 7 for TOSHIBA
  撮影した画像をパソコンで見ることはもちろん、画像の印刷、加工、修正もできます。
  ACDSeeと、このカメラ以外の機器との接続は保証しておりません。このカメラ以外の機器との接続、およびACDSeeの操作に関しては、東芝のモバイルAVサポートセンターまたは、ACD Systems 社のオンラインサポートにお問い合わせください。
  ACD Systems 社オンラインサポート　：OEM@ACDJAPAN.com

- PowerProducer™ 3 for TOSHIBA
  撮影した画像の編集、DVD作成ができます。
  映像の取り込み、編集、メニューの作成、ディスクへの書き込みなど、ディスク作成に必要な機能が搭載されています。Smart Video Rendering Technology（SVRT）は、良好な画質を保持し高速なレンダリングを可能にしました。PowerProducer 3 for TOSHIBAでは、ACDSeeとのシームレス連携により、見る・創る・ディスクにするをひとつの流れとしてお楽しみいただけます。
  また、「ＤＶＤオーサリングロゴ」を取得していますので、家電のＤＶＤプレーヤーとの高い互換性があります。
  「ＤＶＤオーサリングロゴ」とは、ＤＶＤフォーラムによって制定され、ＤＶＤ－Ｖｉｄｅｏ規格に基づいてオーサリングを行っていることを証明するロゴ（ＤＶＤ－Ｖｉｄｅｏ logo for PC Authoring）です。作成されたＤＶＤディスクが、ＤＶＤビデオ規格に準拠していることを証明します。
  PowerProducer 3の操作に関しては、東芝のモバイルAVサポートセンターまたは、ACD Systems 社のオンラインサポートにお問い合わせください。

PowerProducer™ 3

接続するパソコンについて

パソコンとカメラを接続すると、撮影した画像をパソコンに転送して、加工したり、インターネットを通じて家族や友人に送ったり、DVD に収録したりできます。

接続するパソコンの動作環境

カメラと接続するパソコンには、次のシステム環境が必要です。接続する前にお確かめください。

ソフトウェア動作環境

OS*1	Windows® 2000 Professional／ WindowsXP Home Edition／WindowsXP Professional
CPU	Pentium® III 700MHz以上 （Pentium4 2GHz以上推奨）
RAM	128MB以上（256MB以上推奨）
HDD	ACDSee7 for Toshiba：100MB以上（インストール時） PowerProducer 3 for Toshiba：550MB以上（インストール時） DVD作成時は5GB以上必要
ディスプレイ	1024×768以上16bit Highカラーまたはそれ以上の ディスプレイアダプタ（Trueカラー推奨）
I/F	パソコンに標準搭載されたUSB1.1*2／USB2.0（USB2.0を推奨）
対応メディア	書き込みドライブに依存 DVD-Video ：DVD-R/-RW, DVD+R/+RW/+R DL DVD-VR ：DVD-RW, DVD-RAM DVD+VR ：DVD+R/+RW データ ：DVD-R/-RW, DVD+R/+RW/+R DL, DVD-RAM, CD-R*3
対応ドライブ	動作確認済みのドライブについてはPowerProducer 3の「Readme」ファイルをご覧ください。 最新のドライブ情報については、東芝のモバイルAVサポートセンターにお問い合わせください。
その他	Microsoft Internet Explorer 5.5以上*4　Microsoft DirectX9以上

＊1　すべてプリインストールされたパソコンのみ対応とし、アップグレードされたパソコンでの動作保証はできません。Macintosh には対応していません。
また、すべてのパソコンとの動作を保証するものではありません。

＊2　USB1.1 で接続しているときは、パソコンからカメラへのデータの書き込みはできません。

＊3　VideoCD、SVCD は作成できません。

＊4　Microsoft Internet Explorer 5.5 以上がインストールされていない場合、付属のアプリケーションソフトウェアのインストールが完了しません。付属のアプリケーションソフトウェアウェアをインストールする前に、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上をインストールしてください。
Microsoft Internet Explorer のインストールについては、Microsoft のホームページをご覧ください。

ファイルの構造について

カメラとパソコンを接続すると、カメラで撮影した画像は、次のように表示されます。

［ XXXTOSHI ］

東芝のカメラで撮影した画像のフォルダを意味します。100 ～999 のフォルダ番号が、状況に応じて割り当てられます。

例
デスクトップ
マイ ドキュメント
マイ コンピュータ
3.5 インチ FD (A:)
(C:)
CD-ROM (D:)
gigashot(E:)
DCIM
100TOSHI
101TOSHI

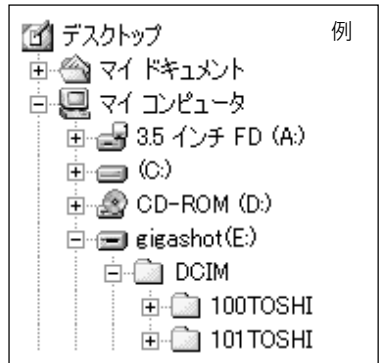
静止画

ファイル名はGSC_XXXX.jpg です（XXXX は0001 ～ 9999 の数字）。拡張子の「.jpg 」はJPEG 形式（「用語」➡ 174ページ）のファイルを意味します。
撮影した画像はExif フォーマット（➡「用語」174ページ）で保存されます。

動画（音声付き）

ファイル名はGSC_XXXX.mpg です（XXXX は0001 ～9999 の数字）。
拡張子の「.mpg 」はMPEG 形式（➡「用語」174 ページ）のファイルを意味します。
拡張子の「.thm 」は動画用サムネイルデータのファイルを意味します。

システムファイル

拡張子「.xml」は、カメラとパソコンの接続情報が含まれたファイルを意味します。

- 「.xml」ファイルにはアルバムの情報が含まれています。
「.xml」ファイルを消去すると、ソフトウェアの一部が正常に動作しなくなります。「.xml」ファイルは消去しないでください。

画像バックアップ時のフォルダ構成について

カメラの画像をパソコンにバックアップすると、画像はパソコンのマイピクチャの下に、次のような構造でバックアップされます。

フォルダ名

****_**_**_***

↑　↑ ↑　↑

西暦 月 日　アルバム番号

マイピクチャの下に作られるフォルダ名には、カメラの機種や画像の情報などが含まれています。同期機能を使ってパソコンに画像をバックアップするときには、このフォルダ名がキーワードになります。
このため、このフォルダ名、フォルダ構造や保存されている画像ファイル名は変更しないでください。

ソフトウェアをインストールする

付属の CD-ROM から ACDSee と、PowerProducer をインストールします。
対応 OS は、Windows XP/2000 です。

気をつけよう

- 画像転送中にカメラの電源が切れると、データが破壊されるおそれがあります。カメラをパソコンに接続するときは、AC アダプターの使用をおすすめします。
- ACDSee と、PowerProducer は、両方がインストールされている必要があります。一方をアンインストールすると、正常に動作しなくなる場合があります。

1 付属の CD- ROM を、CD- ROM ドライブに挿入する

2 「日本語」アイコンをクリックする

この画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の「Setup.exe」をダブルクリックしてください。

3 「acdsee7 PowerProducer 3」アイコンをクリックする

セットアップを開始します。
画面の指示にしたがって、ソフトウェアをインストールします。インストールが完了すると、デスクトップ上にACDSee およびPowerProducer のアイコンが表示されます。

4 パソコンを再起動する

パソコンでカメラの画像を見る

撮影した画像をパソコンに表示して見ます。

1 USB モードにする

gigashot バックアップツールが起動します。
「パソコンと接続する」➩ 134ページ

2 「ACDSee を使ってデータを表示」をクリックする

ACDSee が起動します。

カメラのドライブ（HDD または SD カード）を選択できます。

- カメラとパソコンが接続されると、カメラの内蔵 HDD は「gigashot」、SD カードは「リムーバブルディスク」としてパソコン上に表示されます。
- gigashot バックアップツールは、ACDSee の「取得」アイコンから「gigashot のバックアップツール」をクリックしても起動できます。
- gigashot バックアップツールは、Windows タスクバーに「東芝デバイス検出」が表示されている場合、起動できます。表示されていない場合は、ACDSee の「取得」アイコンから「東芝デバイス検出」をクリックしてください。

- gigashot の動画再生は、必ず ACDSee または PowerProducer で再生してください。それ以外のアプリケーションソフトウェアでは、正しく再生できない場合があります。

ACDSee のメイン画面について

画面左側にフォルダビュー、右側に現在参照しているフォルダの内容が表示されます。
静止画には、動画にはアイコンが表示されます。

画面右上で選択している画像のプレビューが表示されます。

カメラのデータをバックアップする

カメラにあるすべてのデータを CD ／ DVD にバックアップする

カメラの HDD にあるすべてのデータを CD や DVD にバックアップ（コピー）します。
バックアップするデータを選ぶことができないため、保存する CD や DVD の容量には注意してください。
SD カードにあるデータは、この機能を使ってバックアップすることはできません。

1 USB モードにする

gigashot バックアップツールが起動します。
「パソコンと接続する」➡ 134ページ

2 「CD / DVD にデータをバックアップ」をクリックする

「ディスクの作成ウィザード」が表示されます。

3 ディスクラベルを記入し、［次へ］ボタンをクリックする

「ディスク ライター」や「書き込み速度」を設定することもできます。

4 ［次へ］ボタンをクリックする

書き込みが開始されます。
1 枚の CD、または DVD に収まらない場合は、メッセージが表示されます。
メッセージに従って CD、または DVD を入れ換えてください。
バックアップが終了すると、完了のメッセージが表示されます。

5 ［完了］ボタンをクリックする

ACDSee のメイン画面が表示されます。

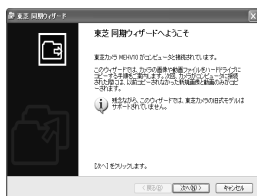
- 何も記録されてない CD、または DVD を使用してください。
- 複数の CD、または DVD にバックアップする場合は、同じ CD、または DVD を使用してください。
- バックアップはカメラに記録されている順番どおりに行われます。
- CD、または DVD の容量を超える単独のデータがある場合には、バックアップはできません。

同期機能を使ってパソコンにバックアップする

撮影した画像をパソコンのHDDにバックアップします。カメラ本体のデータと同期が可能なので、最新のデータをバックアップすることができます。カメラの HDD にあるデータだけが対象です。

1 USB モードにする

gigashot バックアップツールが起動します。
「パソコンと接続する」➡ 134ページ

2 「同期を使ってコンピュータにデータをバックアップ」をクリックする

「東芝　同期ウィザード」が表示されます。

3 ［次へ］ボタンをクリックする

保存先として表示された保存先以外を指定したい場合は、[参照] ボタンをクリックしてください。
フォルダの参照画面が表示されます。保存先を指定し、[OK] ボタンをクリックしてください。
指定したフォルダとカメラとの間で同期が行われるようになります。

4 コピーするフォルダを選び、［次へ］ボタンをクリックする

カメラの各フォルダ　　：カメラに保存されたフォルダ全てを選択します。
指定したカメラフォルダ：コピーするフォルダを選択します。
「ハードウェアに同期後カメラからファイルを削除する」にチェックを入れた場合、同期終了後にカメラ内のデータは削除されます。ただし、「FULL SPEED」で接続している場合は、この機能は使用できません。

同期が開始されます。同期が終了すると、完了のメッセージが表示されます。

5 ［完了］ボタンをクリックする

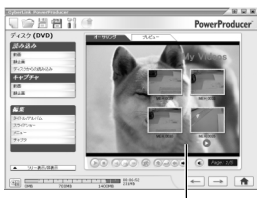
ACDSee のメイン画面が表示されます。
「ACDSee を起動し、同期されたファイルを参照する」のチェックがはずれている場合、ACDSee は起動しません。

DVD 作成リストを使って DVD を作成する

DVD 作成リスト（➪ 111 ページ）を使って、簡単に DVD を作成することができます。

1 USB モードにする

gigashot バックアップツールが起動します。
「パソコンと接続する」➪ 134ページ

2 「DVD 作成リストを使って DVD ビデオを作成」をクリックする

「PowerProducer 3」が起動し、プロジェクトの読み込みが開始されます。
読み込みが終了すると、「オーサリング」画面が表示されます。ここで動画や静止画の追加、メニューの背景画像の変更、バックグラウンドミュージックの追加などを行うことができます。

DVD作成リストの作成時にメニュー背景画面に選んだ静止画が表示されます。

3 ［ → ］ボタンをクリックする

「書き込みの設定」画面が表示されます。

4 ［ ］ボタンをクリックする

書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、終了画面が表示されます。

メモ
- DVD 作成リストに設定した画像は、消去しないでください。誤って消去してしまった場合は、DVD 作成リストを作り直してください。

パソコンで画像を活用する

取り込みウィザードを使ってパソコンにバックアップする

カメラの HDD や SD カードにあるデータの中からデータを選んでパソコンにバックアップ（コピー）します。

1 USB モードにする

gigashot バックアップツールが起動します。
「パソコンと接続する」➡ 134ページ

2 「取り込みウィザードを使ってデータをバックアップ」をクリックする

ACDSee が起動し、「取り込みウィザード」画面が表示されます。

3 ［次へ］ボタンをクリックする

コピーするファイルの選択画面が表示されます。

4 コピーする画像を選び、［次へ］ボタンをクリックする

「出力オプション」画面が表示されます。

5 各オプションを設定し、［次へ］ボタンをクリックする

「ファイルのコピー画面」が表示されます。
コピーが終了すると、完了画面が表示されます。

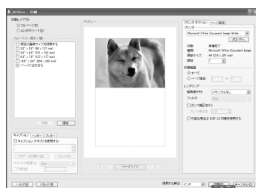
6 ［完了］ボタンをクリックする

静止画を印刷する

日付を入れたり、1 枚の用紙に複数の画像を配置したりして印刷できます。また、お持ちのプリンターが PictBridge（ピクトブリッジ）に対応している場合は、カメラとプリンターを直接つないでも印刷できます。

印刷する

1 ACDSee で表示された画像から、印刷する画像を選び、「ファイル」メニューの「印刷」をクリックする

2 用紙サイズ、印刷枚数などを設定し、「印刷」をクリックする

印刷を開始します。

カメラとプリンターを直接つないで印刷する

PictBridge（ピクトブリッジ）に対応しているプリンターにカメラを直接つないで印刷できます。

「カメラから直接プリントする (PictBridge（ピクトブリッジ）)」 ➪ 107ページ

画像のサイズを変更する

画像サイズを小さくすると、メールに添付するときなどに便利です。

1 ACDSee で表示された画像から、サイズを小さくしたい画像をクリックして選択する

2 「ツール」メニューの「サイズ変更」をクリックする

画面のサイズ変更画面が表示されます。

3 「ピクセル」が選択されていることを確認し、「幅」と「高さ」に希望の数字を入力して「サイズ変更を開始する」をクリックする

サイズ変更が開始されます。
「元の縦横比を保持する」がチェックされていると、画像の縦横比を変えずに画像サイズの変更を行うことができます。
「元の比率」を選んだときは、変更するサイズの大きさをパーセント（%）で指定できます。
「実寸／印刷サイズ」を選んだときは、印刷する大きさを「インチ」「cm」「mm」で指定できます。

4 「完了」をクリックする

- カメラに保存されている画像を直接サイズ変更した場合、カメラで表示できなくなることがあります。

パソコンの静止画をカメラにコピーする

パソコンに保存されている静止画をカメラのHDDにコピーできます。

重要
- 「FULL SPEED MODE」で接続している場合は、カメラがプロテクトの状態になるため、この機能が使用できません。お使いのパソコンおよび接続環境をご確認ください。

準備

パソコン、カメラの電源を入れておきます。

1 USBモードにする

gigashotバックアップツールが起動します。
「パソコンと接続する」➩ 134ページ

2 「ACDSeeを使ってデータを表示」をクリックする

ACDSeeが起動します。

3 カメラにコピーしたい画像を選び、「作成」メニューの「カメラにコピー」をクリックする

4 画像の変換サイズを選び、[OK] をクリックする

XXXACDSEフォルダに、ACDSXXXX.jpgという名称で、カメラのHDDにコピーされます。

どんなサイズの画像でも、640×480のサイズでコピーされます。

サイズ変更はしないで、そのままの大きさでコピーされます。

コピーしようとする画像サイズによって、変更されるサイズは異なります。
640×480より大きいサイズ
1024×768に変更されます。1024×768よりも小さいサイズの画像の場合は、周囲に黒枠が表示されます。
640×480以下のサイズ
640×480に変更されます。640×480よりも小さいサイズの画像の場合は、周囲に黒枠が表示されます。

メモ
- 「サイズ変更なし」を選んだ場合、画像サイズによって、カメラで正常に表示できない場合があります。
- このカメラ以外で撮影された画像をコピーした場合、表示できないことがあります。

パソコンでプリント情報を書き込む

撮影した画像にパソコンでプリント情報を書き込み、カメラのSDカードに保存できます。

- 「FULL SPEED MODE」で接続している場合は、カメラがプロテクトの状態になるため、この機能が使用できません。お使いのパソコンおよび接続環境をご確認ください。

準備

パソコン、カメラの電源を入れておきます。

1 USBモードにする

gigashotバックアップツールが起動します。

「パソコンと接続する」➡ 134ページ

2 「ACDSeeを使ってデータを表示」をクリックする

ACDSeeが起動します。

3 ACDSeeで表示された画像から、プリント情報を書き込みたい画像を選ぶ

4 「作成」メニューから「DPOFマネージャ」をクリックする

DPOF Manager画面が表示されます。

5 プリント情報（枚数、日付印刷）を設定する

6 「デバイスに保存」をクリックする

接続されているカメラのSDカードに選んだ画像とDPOF設定ファイルがコピーされます。

画像を DVD に収録する

静止画、動画を DVD に収録できます。
静止画は、スライドショーとして DVD に収録されます。

1 ACDSeeで表示された画像から、DVDに収録したい静止画や動画を選ぶ

2 ツールバーの「PowerProducer」ボタンをクリックする

3 ディスクの種類で「DVD」を選び、「ディスクの種類」「ディスクの容量」「場所」「ビデオの画質」「音質」を設定し、「OK」ボタンをクリックする

PowerProducer 3 が起動し、「オーサリング」画面が表示されます。ここで動画や静止画の追加、メニューの背景画像の変更、バックグラウンドミュージックの追加などを行うことができます。

ディスク形式	：	DVD DVD+VR DVD-VR
ディスクサイズ	：	1.4GB 4.7GB 8.5GB
TV 信号形式	：	NTSC PAL
画質	：	HQ(高品質) SP（標準） LP(長時間) EP(エコノミー)
音質	：	LPCM Dolby Digital

4 パソコンのドライブに DVD を挿入し、「 」ボタンをクリックする

「書き込みの設定」画面が表示されます。

5 「使用するドライブ」に DVD を挿入したドライブが表示されていること、「ディスクの書き込み」にチェックが入っていることを確認し、「 」ボタンをクリックする

ディスクの作成が始まります。

メモ

- 1 つのスライドショーに設定できる画像は 256 枚までです。手順 1 で選んだ画像が 256 枚を超えた場合は、257 枚目以降は別のスライドショーとなります。
- スライドショーの編集は、PowerProducer が起動したあと、「編集」メニューの「スライドショー」を選んで行います。
- 動画の編集は、PowerProducer が起動したあと、「編集」メニューの「タイトル／アルバム」を選んで行います。
- 詳しい操作方法は PowerProducer のヘルプをご覧ください。
- 「ディスク形式」が［DVD+VR］または［DVD-VR］のときは、「ディスクサイズ」で［8.5GB］は選べません。
- 静止画のオリジナルデータも DVD に保存され、パソコンで見ることができます。

HDD&DVD レコーダーに動画を転送する

HDD&DVD レコーダーに
　接続するためのLAN 設定をする
HDD&DVD レコーダーに接続して
　動画を転送する

HDD&DVD レコーダーに接続するための LAN 設定をする

カメラと HDD&DVD レコーダーは LAN（ ➡ 「用語」174 ページ）で接続します。カメラと HDD&DVDレコーダーを接続する前に、カメラにLANの設定をする必要があります。接続方法によって設定が異なりますのでご注意ください。

接続する HDD&DVD レコーダーについて

接続可能な HDD&DVD レコーダーは、東芝製の「ネット de ダビング機能」が搭載されているモデルに限ります。
形名については、ホームページで確認してください。
http://www.gigashot.net/

カメラと HDD&DVD レコーダーを既存のネットワークを使って接続するときの設定

カメラ名　　：ネットワーク上で判別するための名前を入力します。お好みの名前を入力してください。初期設定のままでもかまいません。入力できる文字数は、半角英数字で 15 文字までです。

グループ名　：ネットワークで使用している「グループ名」と同じ名前を使います。
HDD&DVD レコーダーの「グループ名」を確認するには、HDD&DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。（「グループ名」という名称は、機器によって異なる場合があります。）
初期設定では空白になっていますので、必ず入力してください。入力できる文字数は、半角英数字で 16 文字までです。

パスワード　：ネットワークで使用している「グループパスワード」と同じものを入力します。HDD&DVD レコーダーの「グループパスワード」を確認するには、HDD&DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。（「グループパスワード」という名称は、機器によって異なる場合があります。）
初期設定では空白になっていますので、必ず入力してください。入力できる文字数は、半角英数字で 16 文字までです。

IP CONFIG　：DHCP（推奨）（ ➡ 「用語」174 ページ）

上記の設定で接続できない場合には、［IP CONFIG］を［マニュアル］にして、以下のように設定してください。

IP アドレス　：接続するネットワーク環境と同じサブネット内の異なるアドレスを設定します。
例）ルーターのアドレス　　：192.168.1.1 の場合
　　カメラの IP アドレス　：192.168.1.6、192.168.1.20 など
このとき、ほかの機器と同じ IP アドレス（ ➡ 「用語」174 ページ）にならないように設定してください。

ネットマスク：接続するネットワーク環境のサブネットマスク（ ➡ 「用語」174 ページ）を設定します。
255.255.255.0（推奨）

ルーター　　：ルーター（ ➡ 「用語」174 ページ）の IP アドレスを入力します。
ルーターの IP アドレスを調べるには、ルーターの取扱説明書をご覧ください。

カメラとHDD&DVDレコーダーを直接LANケーブルで接続するときの設定

カメラ名　　：ネットワーク上で判別するための名前を入力します。お好みの名前を入力してください。初期設定のままでもかまいません。入力できる文字数は、半角英数字で 15 文字までです。

グループ名　：HDD&DVD レコーダーの「グループ名」と同じ名前を入力します。
HDD&DVD レコーダーの「グループ名」を確認するには、HDD&DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。（「グループ名」という名称は、機器によって異なる場合があります。）
初期設定では空白になっていますので、必ず入力してください。入力できる文字数は、半角英数字で 16 文字までです。

パスワード　：HDD&DVD レコーダーの「グループパスワード」と同じ名前を入力します。
HDD&DVD レコーダーの「グループパスワード」を確認するには、HDD&DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。（「グループパスワード」という名称は、機器によって異なる場合があります。）
初期設定では空白になっていますので、必ず入力してください。入力できる文字数は、半角英数字で 16 文字までです。

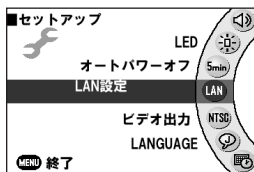
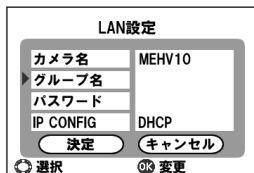
IP CONFIG　：マニュアル

IP アドレス　：HDD&DVD レコーダーと同じサブネット内の異なるアドレスを設定します。
例）HDD&DVD レコーダーのアドレス　：192.168.1.10 の場合
　　カメラの IP アドレス　：192.168.1.15、192.168.1.20 など
このとき、HDD&DVDレコーダーと同じIPアドレスにならないように設定してください。

ネットマスク：接続するネットワーク環境のサブネットマスクを設定します。
255.255.255.0（推奨）

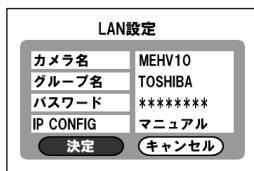
ルーター　　：任意

- ネットワークを使ってカメラと HDD&DVD レコーダーを接続する場合、「グループ名」と「パスワード」は、他人に知られたり、容易に推測されないようなお客様独自のものにしてください。
  東芝 HDD&DVD レコーダーでは、グループ名とグループパスワードの初期設定がいずれも半角の大文字で「TOSHIBA」となっている機種があります。お客様がこの初期設定のまま HDD&DVD レコーダーをお使いの場合、カメラのグループ名とパスワードを「TOSHIBA」に設定していただくこともできますが、不正なアクセスなどを防ぐためにも、新たに設定したグループ名とパスワードにしていただくことを強く推奨します。

1 セットアップメニューからジョグダイヤルで［LAN 設定］を選び、OK ボタンを押す

2 ジョグダイヤルで変更する項目を選び、OK ボタンを押す

3 OKボタンを◀ ▶ に動かしてカーソルを移動し、ジョグダイヤルで文字を入力する

OK ボタンを ▲に動かして、アルファベット大文字／アルファベット小文字／数字を切り換えます。
OK ボタンを ▼ に動かして、カーソル部分の文字を削除します。

4 入力が終わったら OK ボタンを押す

5 すべての項目を設定したら、ジョグダイヤルで［決定］を選び、OKボタンを押す

IP CONFIG が「DHCP」の場合は、これで設定は終了です。
IP CONFIG が「マニュアル」の場合は、手順 6 に進みます。

6 ジョグダイヤルで変更する項目を選び、OK ボタンを押す

7 OKボタンを◀▶に動かしてカーソルを移動し、ジョグダイヤルで文字を入力する

OK ボタンを ▲に動かして、アルファベット大文字／アルファベット小文字／数字を切り換えます。
OK ボタンを ▼ に動かして、カーソル部分の文字を削除します。

8 入力が終わったら OK ボタンを押す

9 すべての項目を設定したら、ジョグダイヤルで［決定］を選び、OK ボタンを押す

HDD&DVD レコーダーに動画を転送する

クレードルにセットしたカメラとHDD&DVD レコーダーを接続し、動画を転送します。カメラで撮影した動画をHDD&DVD レコーダーに保存することができます。

接続するHDD&DVD レコーダーについて

接続可能なHDD&DVD レコーダーは、東芝製の「ネットde ダビング機能」が搭載されているモデルに限ります。
形名については、ホームページで確認してください。
http://www.gigashot.net/

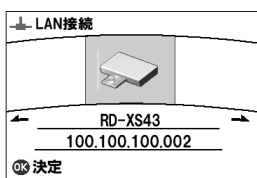
HDD&DVD レコーダーに動画を転送する

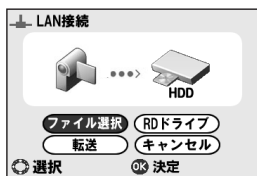
準備

クレードルとAC アダプターを接続した後、カメラをクレードルにセットしてください。（➡ 26 ページ）
クレードルとHDD&DVD レコーダーまたはネットワーク機器をLAN ケーブル（別売）で接続してください。（➡ 136 ページ）

1 HDD&DVD レコーダーの電源を入れ、録画、再生が可能な状態になったらクレードルのLAN ボタンを押す

カメラがLAN モードで起動し、クレードルのLAN LED が点灯します。

2 ジョグダイヤルで接続するHDD&DVD レコーダーを選び、OK ボタンを押す

「LAN 接続」画面が表示されます。

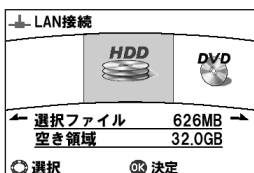
3 ジョグダイヤルで［ファイル選択］を選び、OK ボタンを押す

カメラの画像が表示されます。

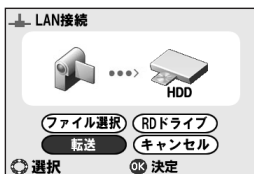
4 HDD&DVD レコーダーに転送したい動画を選び、OK ボタンを押す

選んだ画像の下に［ ］が表示されます。
転送対象からはずしたいときは、もう一度OKボタンを押します。
転送したい画像が複数ある場合は、この手順を繰り返します。

5 OK ボタンを▼に動かして［決定］を選び、OK ボタンを押す

6 ジョグダイヤルで［RD ドライブ］を選び、OK ボタンを押す

7 ジョグダイヤルで［HDD］または［DVD］を選び、OK ボタンを押す

「DVD」を選んだ場合は、HDD&DVD レコーダーに書込み可能な DVD を入れてください。

8 ジョグダイヤルで［転送］を選び、OK ボタンを押す

転送が開始されます。
転送を途中で中止するときは、MENU ボタンを押します。
転送が終了すると、「LAN 接続」画面に戻ります。
クレードルの［POWER］ボタンを押して、カメラの電源を切ってください。

拡大表示して画像を確認したいときは

手順４で、ズームレバーを T 側にスライドします。
拡大表示で W 側にスライドすると、転送する画像選択の画面に戻ります。

アルバム内の全画像を転送したいときは

手順４で、OK ボタンを▼へ動かして［すべて選択］を選び、OK ボタンを押します。

- 転送中にカメラの POWER スイッチをスライドする、またはクレードルの POWER ボタンを押すと、カメラの液晶モニターに「POWER OFF」と表示され、転送終了後、自動的にカメラの電源を切ることができます。
- 転送された動画は、HDD&DVD レコーダーの「gigashot」フォルダに保存されます。

付録

仕様

撮像素子	1/2.5型CCDセンサー 総画素数：約519万画素 有効画素数：動画 約63万画素、静止画 約500万画素
レンズ	光学5倍ズームレンズ　F3.3（Wide側）-3.4（Tele側） 焦点距離：f=6.3-31.5mm（35mmカメラ換算38-190mm）
撮影範囲	標準：約50cm～∞（Wide側）、約1.2m～∞（Tele側） マクロ：約10cm～∞（Wide側）、約1.0m～∞（Tele側） スーパーマクロ：約1cm～約10cm（Wide側のみ）
液晶モニター＊1	2.0型TFTカラー液晶 画素数：20.7万画素（862x240）
フォーカス制御方式	TTLコントラスト検出AF
露出制御方式	プログラムAE
測光方式	TTL分割測光 測光範囲：中央重点測光/スポット測光
露出補正	－2.0EV～+2.0EV （1/3EVステップ）
静止画撮影感度	マニュアル設定：ISO50/100/200/400相当 自動設定：ISO50～200/50～400相当
シャッター速度	動画：1/30～1/1000秒（夜景モード時：最長1/7.5秒） 静止画：1/2～1/1000秒（夜景モード時：最長8秒） （電子シャッター、メカニカルシャッター併用）
フラッシュ	発光モード：オート（低輝度時自動発光）/赤目軽減（低輝度時自動発光）/ 強制発光/発光禁止 撮影範囲：約0.5m～約1.5m （Tele側、ISO200）
ホワイトバランス	オート/晴れ/曇/蛍光灯1/蛍光灯2/白熱灯/プリセット
セルフタイマー	2秒/10秒
デジタルズーム	4倍/20倍
入出力端子	クレードル端子、USB端子（USB2.0、Mass Storage Class対応）、 A/V OUT端子、DC IN 5V端子、LAN端子
電源	専用充電式リチウムイオンバッテリー/ACアダプター（ADP15-HH A）
記録媒体	HDD：4GB＊2 SDメモリーカード：128MB/256MB/512MB/1GB/2GB 対応
動画	記録形式：MPEG2 PS （30fps） 記録画素数：720x480（4:3）/720x360（16:9） 音声：ドルビーデジタル、48kHz、16bit、ステレオ、192kbps
静止画	記録形式：JPEG（Exif 2.21、DCF 1.0 準拠） 記録画素数：5M（2560x1920）/3M（2048x1536）/ 1.2M（1280x960）/0.3M（640x480）
使用環境	温度：0℃～+40℃（動作時）/-20℃～+60℃（保存時） 湿度：30%～80%RH （動作時、ただし結露しないこと）
外形寸法	38.5mm x 103.8mm x 59.5mm （幅x高さx奥行き、突起部を含まず）
質量	約225g （バッテリー、SDカード含まず） 約260g （バッテリー、SDカード含む）

＊1 液晶モニターは非常に高精度の技術で作られておりますが、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありませんので、そのままお使いください。

＊2 1GBを10億バイトで計算した数値です。実際にフォーマットされた容量は、表記の数値よりも少なくなります。

仕様は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

故障かな？と思ったら

画面に表示されるエラーメッセージ（ ➩ 169 ページ）、LED（ ➩ 23 ページ）などを確認するとともに、次の項目をお調べください。

状況	原因	対処方法・補足	ページ
電源・準備			
充電できない	バッテリーが正しい向きではいっていない。	バッテリーを正しい向きで入れる。	20
	ACアダプターがつながっていない。	ACアダプターをつなげる。	22
	本体がクレードルに正しくセットされていない。	本体をクレードルに正しくセットする。	22
	本体の電源がはいっている。	本体の電源を切る。	26
	カメラまたはバッテリーが高温になっている。	カメラまたはバッテリーを十分に冷ましてから充電する。	23
電源がはいらない	バッテリーが正しい向きではいっていない。またはACアダプターがつながっていない。	バッテリーを正しい向きで入れる。 ACアダプターをつなげる。	20 22
	バッテリーが消耗している。	充電する。	22
	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	20
すぐに電源が切れる	バッテリーが消耗している。	充電する。	22
	温度が極端に低いところで使っている。	バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに入れる。	11
	端子が汚れている。	バッテリーおよび本体の端子を、乾いたきれいな布で拭く。	11
	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	20
電源が勝手に切れる	オートパワーオフが働いている。	電源を入れる。 オートパワーオフの設定を切り換える。	26 124
オートパワーオフが働かない	オートプレイを実行している。	オートプレイを停止する。	95
	HDD&DVDレコーダー、パソコン、プリンターに接続している。	HDD&DVDレコーダー、パソコン、プリンターに接続しているときは、オートパワーオフは働きません。	124
	LANモードになっている。	モードを変更する。	18
	PictBridgeでプリンターと接続している	PictBridgeを終了する。	110
日付・時刻が合っていない	バッテリーまたはACアダプターがない状態で長時間放置していた。	日付・時刻を再設定する。	27
	正常な起動・終了操作をしなかった。	日付・時刻を再設定する。	27
アルバムが作成できない	記録先のドライブに空き容量がない	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 画像を消去する。 動画を編集する。 画像を別のドライブ、パソコンやDVDなどに移動する。	25 59 113 109 145

付録

状況	原因	対処方法・補足	ページ
アルバムが作成できない	記録先のドライブにアルバム番号「999」のアルバムが存在する。	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 「999」のアルバムを消去する。	25 59 118
SDカードが認識されない	SDカードの端子が汚れている。	SDカードの端子を乾いたきれいな布でふく。	－
	SDカードが壊れている。	別のSDカードに交換する。	25
液晶モニターが見づらい	液晶の明るさの設定が合っていない。	液晶モニターが見やすくなるように「液晶の明るさ」を設定する。	81
リセットしても戻らない設定がある	－	ドライブ＆アルバム、ホワイトバランスのプリセットデータ、LAN設定、ビデオ出力、言語、日時設定は、リセットしても初期設定には戻りません。	128
すべてのボタン類が操作できない	システムに異常が発生した。	POWERボタンを5秒以上押して、強制的に電源を切る。このとき、作成中のデータが消失したり、設定が初期設定に戻ることがあります。	26
動作が遅い	HDDに大量の画像がある。	画像を消去する。 動画を編集する。 画像を別のドライブ、パソコンやDVDなどに移動する。	113 109 145
リモコンが効かない	リモコンの電池が正しい向きではいっていない。	電池を正しい向きで入れる。	31
	リモコンの電池が消耗している。	新しい電池に交換する。	31
	使用できる範囲からはずれている。	距離：約4m以内、角度：上下左右約25度以内で使用する。	31
	リモコン受光部に強い光が当たっている。	リモコン受光部に強い光を当てない。	31
撮影			
選択できないフラッシュ設定がある	シーンが［オート］以外に設定されている。	［オート］以外のシーンでは、フラッシュが制限されます。	51
	連写が［連写］［AEB］に設定されている。	連写を［1ショット］にする。	63
ピントが合わない	被写体までの距離とフォーカス設定が合っていない。	被写体との距離にあったフォーカス設定にする。	52
	近い被写体をズームで撮影している。	ズームを解除する。	44
縦に帯状の線がでる	ライトや電球、ろうそくなどの明るいものを撮影した。	「スミア」という現象で故障ではありません。	174
撮影できない	記録先のドライブが［SD］になっているが、SDカードがはいっていない。	SDカードを入れる。 記録先のドライブを切り換える。	25 59
	記録先のドライブが［SD］になっているが、SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。 別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。	14 25 59

状況	原因	対処方法・補足	ページ
撮影できない	記録先のドライブに空き容量がない。	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 画像を消去する。 動画を編集する。 画像を別のドライブ、パソコンやDVDなどに移動する。	28 61 113 109 145
	記録先のドライブがフォーマットされていない。	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 記録先のドライブをフォーマットする。	28 61 128
	記録先のドライブが壊れている。	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 HDDが壊れている場合は、モバイルAVサポートセンターにご相談ください。	28 61 –
	撮影準備中（起動中、記録中、フラッシュ充電中）に撮影しようとした。	撮影準備が完了してから撮影する。	–
フラッシュが発光しない	フラッシュが［発光禁止］に設定されている。	フラッシュを［発光禁止］以外に設定する。	51
	フラッシュが［オート］［赤目軽減］に設定されているが、周囲が明るいため発光しない。	フラッシュを［強制発光］に設定する。 ［オート］［赤目軽減］は、明るいところでは発光しません。	51
	シーンが［風景］［スポーツ］［夕焼け］に設定されている。	シーンを［風景］［スポーツ］［夕焼け］以外に設定する。	50
	動画撮影中に静止画を撮影した。	動画撮影中の静止画撮影はフラッシュが使えません。	55
	連写が［連写］または［AEB］に設定されている。	連写を［1ショット］に設定する。	63
	フォーカスが［スーパーマクロ］に設定されている。	フォーカスを［スーパーマクロ］以外に設定する。	52
動画撮影中に静止画撮影ができない	動画撮影可能時間が10秒未満。	動画撮影可能時間が10秒未満になると、動画撮影中の静止画撮影ができません。	55
	ファイル番号が「9998」または「9999」の画像が存在する。	動画撮影を停止し、新しいアルバムを作成してから静止画を撮影する。	59
動画撮影が勝手に停止した	記録先のドライブに空き容量がない。	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 画像を消去する。 動画を編集する。 画像を別のドライブ、パソコンやDVDなどに移動する。	28 59 113 109 145
	低速のSDカードを使用した。	高速（10MB/s以上）のSDカードを使用する。	19
	撮影中にカメラに振動を与えた。	カメラに振動を与えないようにする。	–
	HDD保護機能が働いた。	撮影中にカメラを急激に動かさない。 HDD保護を［オフ］にする。	127
撮影した画像がぼやけている	レンズが汚れている。	レンズを清掃する。	14
	ピントが合っていない。	被写体との距離にあったフォーカス設定にする。	52

状況	原因	対処方法・補足	ページ
撮影した画像がぼやけている	撮影時に手ぶれした。（静止画）	カメラを正しく構える。 三脚を使って撮影する。 シーンを［スポーツ］に設定する。 ISO 感度を［ISO200］または［ISO400］に設定する。 セルフタイマーで撮影する。	38 － 50 69 62
	動きの速い被写体を撮影した。（静止画）	シーンを［スポーツ］に設定する。 ISO 感度を［ISO200］または［ISO400］に設定する。	50 69
撮影した画像が暗い	フラッシュ撮影のときに、フラッシュに指がかかっていた。（静止画）	カメラを正しく構える。	38
	フラッシュが届かない距離でフラッシュ撮影した。（静止画）	被写体に近づいて撮影する。 フラッシュを［発光禁止］に設定する。	51
	被写体の周囲に明るい部分がある。	露出補正を＋（プラス）側に設定する。 測光方式を［スポット］に設定する。	54 74
	光量が不足している。	シーンを［夜景］に設定する。 ISO 感度を［ISO200］または［ISO400］に設定する。（静止画）	50 69
	露出補正が－（マイナス）側に設定されている。	露出補正を正しく設定する。	54
撮影した画像が明るすぎる	近距離でフラッシュ撮影した。(静止画)	被写体から離れて撮影する。 フラッシュを［発光禁止］に設定する。	51
	被写体の周囲に暗い部分がある。	露出補正を－（マイナス）側に設定する。 測光方式を［スポット］に設定する。	54 74
	光量が多すぎる。	シーンを［スノー＆ビーチ］に設定する。	50
	露出補正が＋（プラス）側に設定されている。	露出補正を正しく設定する。	54
撮影した画像の画質が悪い	高倍率のデジタルズームで撮影した。	デジタルズームを［4倍］または［オフ］に設定する。	73
	［ISO400］などの高感度で撮影した（静止画）	ISO感度を正しく設定する。	69
撮影した画像の色が悪い	ホワイトバランスがずれている。	ホワイトバランスを正しく設定する。 ホワイトバランスの［プリセット］を使用する。	67
撮影した画像にフレアやゴーストが発生している	逆光でズーム撮影した。	ズームをW（ワイド側）にする。 レンズフードを使う。	44 56
連写が途中で止まる	記録先のドライブに空き容量がない。	別のSDカードに交換する。 記録先のドライブを切り換える。 画像を消去する。 動画を編集する。 画像を別のドライブ、パソコンやDVDなどに移動する。	28 59 113 109 145
	セルフタイマーが設定されている。	セルフタイマーが設定されているときの連写枚数は3枚です。	62

状況	原因	対処方法・補足	ページ
再生			
静止画が再生できない	パソコンなどでフォルダ名またはファイル名を変更した。	フォルダ名またはファイル名を元に戻す。	142
動画が再生できない	パソコンなどでフォルダ名またはファイル名を変更した。	フォルダ名またはファイル名を元に戻す。	142
	このカメラ以外のカメラで撮影した動画を再生しようとした。	このカメラで撮影した動画を再生する。	–
音声が聞こえない	音量が小さすぎる。	音量を上げる。	46
サムネイル画面が勝手に変更された	動画を編集した。	動画を編集すると、サムネイル画面は残った動画の先頭の画面になります。	109
プロテクトが勝手に設定された	DPOF設定した。	DPOF設定された画像はプロテクトされます。	104
	DVD作成リストに設定した。	DVD作成リストに設定された画像はプロテクトされます。	111
回転表示が保持されない	画像がプロテクトされている。	プロテクトを解除する。	99
	画像にDPOFが設定されている。	DPOF設定を解除する。	106
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
プロテクトが設定できない	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
プロテクトが解除できない	画像にDPOFが設定されている。	DPOF設定を解除する。	106
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
コピー先のドライブが選べない	コピーする画像の合計サイズがドライブの空き容量より大きい。	コピーする画像を選び直す。 コピー先のドライブを別のSDカードに交換する。 コピー先のドライブを切り換える。 コピー先のドライブの画像を消去する。 コピー先のドライブの動画を編集する。 コピー先のドライブの画像を別のドライブやパソコン、DVDなどに移動する。	100 28 101 113 109 145
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
移動する画像が選べない	画像がプロテクトされている。	プロテクトを解除する。	99
	画像にDPOFが設定されている。	DPOF設定を解除する。	106
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19

状況	原因	対処方法・補足	ページ
移動先のドライブが選べない	移動する画像の合計サイズがドライブの空き容量より大きい。	移動する画像を選び直す。 移動先のドライブを別のSDカードに交換する。 移動先のドライブを切り換える。 移動先のドライブの画像を消去する。 移動先のドライブの動画を編集する。 移動先のドライブの画像を別のドライブやパソコン、DVDなどに移動する。	102 28 103 113 109 145
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
移動先ドライブを指定するとき、「選択ファイル」が表示されない	移動元と同じドライブを移動先ドライブに指定している。	移動先ドライブを移動元ドライブと同じドライブに指定した場合は、「選択ファイル」は表示されません。	103
DPOFが設定できない	SDカードがはいっていない。	カメラにSDカードを入れる。	28
	SDカードの中に静止画がない。	DPOF設定をする画像をSDカードにコピーする。	100
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
DPOFの設定枚数が変更できない	1つの画像に設定されている枚数が99枚になっている。	指定できるプリント枚数は、1画像につき99枚までです。	104
	設定される画像数が999画像を超えている。	指定できる画像数は、999画像までです。	104
	合計枚数が9999枚を超えている。	指定できる最大プリント枚数は9999枚までです。	104
DPOF設定を解除できない	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
PictBridgeでプリンターに接続できない	プリンターがPictBridgeに対応していない。	お使いのプリンターをご確認ください。	—
	USBケーブルを接続する手順が違う。	正しい手順で接続する。	107
PictBridgeの設定枚数が変更できない	合計枚数が99枚になっている。	指定できる最大プリント枚数は99枚までです。	107
動画を編集できない	静止画を選んだ。	編集する動画を選んでから、メニューにはいる。	109
	画像がプロテクトされている。	プロテクトを解除する。	99
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
DVD作成リストが設定できない	HDDに画像がない。	DVDに収録したい画像をHDDにコピーする。	100

状況	原因	対処方法・補足	ページ
DVD作成リストで画像を選べない	画像の合計サイズが、指定したディスク容量より大きい。	指定したディスク容量に収まるように画像を選び直す。 容量の大きいディスクに変更する。	111
	動画を背景に指定しようとした。	背景に指定できるのは、静止画だけです。	111
消去・セットアップ			
画像を消去できない	画像がプロテクトされている。	プロテクトを解除する。	97
	画像にDPOFが設定されている。	DPOF設定を解除する。	105
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
アルバムを消去できない	アルバム内にプロテクトされた画像がある。	プロテクトを解除する。	97
	アルバム内にDPOF設定された画像がある。	DPOF設定を解除する。	105
	1画像消去または選択消去のサムネイル表示ですべての画像を消去した。	アルバム内のすべての画像を消去してもアルバムは消去されません。アルバムを消去するには、選択消去のアルバム表示から、消去したいアルバムを選んでください。	116
選択消去でアルバム内を表示できない	アルバムに画像がない。	画像がないアルバムは、選択消去のときにアルバム内を表示できません。	114
画像を消去してもHDDの空き容量が増えない	HDDに連続した空き容量がない。	画像をパソコンやHDD&DVDレコーダーなどに移動し、HDDをフォーマットする。	128 145
SDカードをフォーマットできない	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
機器接続			
CD-ROMを入れても何も表示されない	−	CD-ROMの中にある「Setup.exe」をダブルクリックする。	135
パソコンに接続できない	クレードルにACアダプタがつながっていない。	ACアダプターをつなげる。	26
	USBケーブルがつながっていない。	USBケーブルをつなげる。	136
	本体がクレードルに正しくセットされていない。	本体をクレードルに正しくセットする。	26
	対応していないOSを使用している。	対応しているOSは、Windows XP/2000です。お使いのパソコンのOSを確認してください。	133

状況	原因	対処方法・補足	ページ
パソコンのファイルをカメラにコピーできない	FULL SPEED MODEで接続している。	FULL SPEED MODEで接続している場合、カメラはプロテクト状態になります。お使いのパソコンがHIGH SPEED MODEに対応しているかどうか確認してください。	136
	SDカードがロック状態になっている。	SDカードのロック状態を解除する。	19
	コピーするファイルの合計サイズよりも空き容量が少ない。	コピーするファイルを選び直す。 コピー先のドライブを別のSDカードに交換する。 コピー先のドライブの画像を消去する。 コピー先の動画を編集する。 コピー先のドライブの画像を別のドライブやパソコン、DVDなどに移動する。	100 28 113 109 145
パソコンでDVDを作成できない	DVD作成リストがない。	DVD作成リストを作成する。	111
	パソコンのDVDドライブが対応していない。	お使いのパソコンのDVDドライブを確認してください。	–
テレビに接続しても画像が表示されない	AVケーブルがつながっていない。	AVケーブルをつなげる。	132
	本体がクレードルに正しくセットされていない。	本体をクレードルに正しくセットする。	26
HDD&DVDレコーダーに接続できない	クレードルにACアダプターがつながっていない。	ACアダプターをつなげる。	26
	LANケーブルがつながっていない。	LANケーブルをつなげる。	136
	LANケーブルが正しくない	カメラとHDD&DVDレコーダーを直接LANケーブルで接続するときは、クロスタイプのLANケーブルを使用します。	136
	本体がクレードルに正しくセットされていない。	本体をクレードルに正しくセットする。	26
	グループ名またはパスワードが違っている。	正しいグループ名とパスワードを入力する。	156
	IP CONFIGの設定が間違っている。	IP CONFIGを正しく設定する。	156
	「ネットdeダビング」に対応していないHDD&DVDレコーダーを使用している。	接続できるHDD&DVDレコーダーは「ネットdeダビング」に対応しているものだけです。お使いのHDD&DVDレコーダーを確認してください。	–
HDD&DVDレコーダーに画像をコピーできない	HDD&DVDレコーダーに空き容量がない。	HDD&DVDレコーダーのファイルを削除する。	–
	DVDがはいっていない。	DVDを入れる。	–
	読み取り専用のDVDを入れている。	書き込みができるDVDを入れる。	–

エラーメッセージ

画面には、次のようなエラーや状態を表すメッセージが表示されることがあります。

表　示	意　味
カードがありません	SDカードがはいっていない。
カードカバーが開いています	SDカードカバーがあいている。
空き容量が足りません	指定したドライブに空き容量がない。
画像がありません	指定したドライブまたはアルバムに画像がない。
対象画像がありません	操作に必要な画象がない。
ライトプロテクトカードです	ロック状態のSDカードに書き込もうとした。
プロテクトされています	プロテクトされている動画を編集しようとした。
ファイル番号が一杯です	ファイル番号が「9999」に達した。
編集できない動画です	他社のカメラで撮影した動画を編集しようとした。
DPOFエラー	DPOF関連のエラーが発生した。
リストファイルエラー	DVD作成リスト関連のエラーが発生した。
このカードは使えません	壊れているカードまたは非対応のカードを使用した。
このカードはフォーマットされていません	フォーマットされていないSDカードを使用した。 NTFSでフォーマットしたSDカードを使用した。
グループ名またはパスワードが入力されていません	LAN接続に必要なグループ名とパスワードが入力されていない。
ネットワークに接続できません	LANモードでネットワークに接続できない。
接続先が見つかりません	ネットワーク上にHDD&DVDレコーダーがない。
接続が解除されました	LAN接続中にエラーが発生したために接続を解除した。
転送エラーが発生しました	HDD&DVDレコーダーへの転送中にエラーが発生した。
PictBridge対応の機器ではありません	PictBridgeに対応していないプリンターに接続した。
プリンターエラー	PictBridge接続中のプリンターにエラーが発生した。
インクがありません	プリンターにインクがない。
紙がありません	プリンターに用紙がない。
ペーパーエラー	印刷時に紙に関するエラーが発生した。
異常が発生しました USBケーブルを抜いてください	USBでの通信中にエラーが発生した。
記録が中断されました	記録中にメディアへのアクセスが一定時間停止し、記録を中断した。
HDDにアクセスできませんでした	落下を検知してHDDへのアクセスを停止した。

用語

● DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）
ルーターなどが、IP アドレスなどを自動的に割り当てる仕組みのこと。

● DPOF 形式（Digital Print Order Format）
プリントのための情報を直接 SD カードに書き込むための規格。この形式に対応したファイルは、DPOF 形式対応のプリンターやラボプリントサービスで簡単にプリントできる。

● Exif（Exchangeable Image File Format）
JEITA（電子情報技術産業協会）に承認されたデジタルスチルカメラ用のカラー静止画像フォーマット。TIFF や JPEG と互換性があり、一般的なパソコン向け画像処理ソフトウェアで利用することができる。

● FULL SPEED MODE
USB モードのひとつで、USB 規格「USB2.0」および「USB1.1」がサポートする。転送速度は最高 12Mbps。

● HIGH SPEED MODE
USB モードのひとつで、USB 規格「USB2.0」がサポートする。転送速度は最高 480Mbps。

● IP アドレス
ネットワークに接続されたコンピューターなどの機器を識別するための番号。

● JPEG
カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式。圧縮率を選べるが、圧縮率が高いと画質は劣化する。パソコン用のペイントソフトやインターネット上で広く使われている。

● LAN（Local Area Network）
限られたエリア内にあるコンピューターなどの機器同士を接続するネットワーク。

● MPEG
デジタルの映像・音楽を効率的に転送するための動画圧縮ファイル形式。

● NTSC（National Television System Committee）
日本やアメリカが採用するテレビジョン方式。

● PAL（Phase Alternation by Line）
イギリスやドイツなどの欧州の主な国が採用するテレビジョン方式。

● PictBridge（ピクトブリッジ）
デジタルカメラを直接プリンターに接続して画像を印刷するための通信規格。
PictBridge 対応のプリンターに USB ケーブルを接続して直接印刷を行なうことができる。
デジタルカメラで出力枚数などを指定できるほか、様々な機能が利用できる。

● 赤目現象
人物を暗いところでフラッシュ撮影した場合、目が赤く写ることがある現象。これは、フラッシュの光が目の中で反射することによって起こる。

● サブネットマスク
効率化や管理をしやすくするために、ネットワークをいくつかに区切り、IP アドレスの範囲を限定する。このとき区切られたネットワークのことをサブネットマスクと呼ぶ。

● スミア
CCD を用いたカメラで明るい光源が含まれる被写体を撮影したときに、縦方向の光の筋が発生する現象。

● ドルビーデジタル（Dolby Digital）
米国のドルビーラボラトリーズが開発したマルチチャンネルサラウンド対応の音声圧縮形式。音声品質の劣化を抑えながら音声データを圧縮できるので、高品質の音声と動画を持つDVDビデオが作成できる。通称「ドルビーデジタル 5.1」または「5.1 サラウンド」と呼ばれる。

● フォーマット
ハードディスクおよび SD カードの内部を、データを記録するための形にすること（初期化ともいう）。

● ホワイトバランス（白バランス）
被写体周辺の照明の色に合わせて、白い被写体が白く見えるように調整する機能をホワイトバランスという。

● ルーター
ネットワーク同士を接続する中継装置。異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目をもっている。

● 露出補正
カメラが自動的に決めた露出よりも、意図的に明るくしたり暗くしたり調節・修正することをいう。

● チャプター
記録した内容を区分する単位。各場面につけることで、見たい場面の頭出しなどができるようになる。いわゆる「しおり機能」のこと。

アフターサービスについて

保証書

保証書はお買い上げいただいたお店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げの日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときは、まず取扱説明書をご覧になりながらお調べください。
「故障かな？と思ったら」➡ 165ページ
それでも調子が悪いときは、裏表紙の「モバイル AV サポートセンター」にご相談ください。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

補修用性能部品について

- 当社は、本機の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は弊社にて引き取らせていただきます。
- 修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。
  修理を依頼されるときは次のことをお知らせください
- 形名　MEHV10
- 故障の状況（できるだけ詳しく）
- ご購入年月日（保証書をご覧ください）
- お名前
- ご住所
- 電話番号

さくいん

アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

東芝製品の修理サービスはモバイルAVサポートセンターが対応いたします。
修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は
モバイルAVサポートセンターにお申し付けください。

【ハードディスクカメラに関するお問い合わせ】
使い方、修理、故障、アプリケーションソフトなど
『モバイルAVサポートセンター』
電話番号：0570-05-7000
FAX : 03-3258-0470
受付時間 ： 月～土 10:00～20:00（祝祭日、年末年始等を除く）

インターネットで情報を．．．
ホームページからサービス・サポートを含む最新情報の発信をしています。
ぜひ、私たちのホームページへアクセスしてください。
ホームページ：http://www.gigashot.net/

※上記アドレスは予告なく変更される場合があります。
このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ
（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

株式会社 **東芝**
デジタルメディアネットワーク社

〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号
※住所は変更になることがありますのでご了承ください

©2006 Toshiba Corporation
無断複製および転載を禁ず

V10-MJ-02